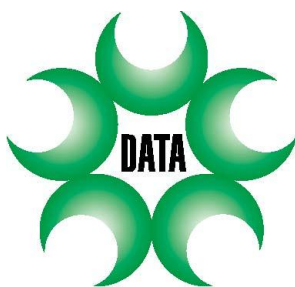


『TACTiCS 財務』
研修用マニュアル



① TACTiCS 財務の概要	…… 1
② TACTiCS 財務のインストール	…… 5
③ 起動とデータ選択	…… 9
④ 仕訳入力	……22
⑤ バックアップとリストア	……37
⑥ TACTiCS 達人Ⅲからのデータコンバート	……47
⑦ クライアントサーバー方式の設定	……66
⑧ データ共有方式の設定	……71
⑨ バージョンアップ	……83
⑩ 達人連動	……87
⑪ FAQ	……88
⑫ TACTiCS 財務 13 について	……104

① TACTiCS 財務の概要

TACTiCS 財務を使う上での必要なハードウェア、ソフトウェアは以下のとおりです。

動作環境

■対応 OS	Windows8/7/Vista/XP ServicePack3 以降 (Windows8/7 は 64 ビット/32 ビット対応) ※上記以外の OS(Windows 95/98/98SE/Me/NT/2000、Mac OS など)では使 用できません。 ※WindowsRT には対応していません。 ※クライアントサーバー方式でご利用いただく場合のサーバー機の OS ・Windows Server2003 Standard Edition Service Pack 2 ・Windows Server2003 R2 Standard Edition Service Pack 2 ・Windows Server2008 Standard Service Pack 2 ・Windows Server2008 Enterprise Service Pack 2 ・Windows Server2008 R2 Enterprise Service Pack 1 ・Windows Server2008 R2 Standard Service Pack 1 ・Windows Server2008 R2 Foundation Service Pack 1
■Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6 以降必須
■インターネット接続環境	データ送受信、プログラムの更新、インフォメーション BOX、マニュアルの参 照などに必要
■対応機種(パソコン本体)	上記日本語 OS が稼動するパーソナルコンピュータ(CPU1GHz 以上を推奨)
■メモリ	Windows8/7/Vista 512MB 以上(1GB 以上を推奨) WindowsXP 256MB 以上(512MB 以上を推奨)
■ディスプレイ	解像度:1024×768 以上必須(1280×1024 以上を推奨)
■画面の色	High Color(16 ビット) 以上必須
■USB ポート	必須(USB1.1/2.0/3.0 対応)

※「対応 OS」「ディスプレイ解像度」の要件を満たしていない場合は、インストールできないよう制御されています。

USBキーについて

TACTiCS 財務には、『USB キー』と呼ばれる USB メモリが同梱されています。TACTiCS 財務を使用する時には『USB キー』をパソコンへ挿す必要があります。また、プログラムのインストール、バージョンアップなど、TACTiCS 財務を利用するための機能が備わっています。『USB キー』を挿し替えれば、一時的に別のパソコンで TACTiCS 財務を使用することができます。『USB キー』はあくまでもソフトを動かすための鍵のような役割を持ち、実際の財務データは『USB キー』の中ではなくハードディスクで管理されます。

『USB キー』の中には以下のプログラムが入っています。

- **TACTiCS 財務** 財務会計システム
- **TACTiCS 経営羅針盤** 経営者向け電子帳簿閲覧システム



TACTiCS 財務はセットアップ完了後も『USB キー』をパソコンに挿入したままの状態で使用します。(取り外すと起動しなくなります。)

TACTiCS 経営羅針盤はインターネット環境が必須のアプリケーションです。TACTiCS 財務で入力されたリアルタイムの財務データを、インターネットを経由して経営者のパソコンへ送り、経営者が閲覧することができるシステムです。インストールには『USB キー』が必要ですが、その後は『USB キー』を取り外した状態でも使用できます。

TACTiCS 財務は年度版システムです。2012 年に『TACTiCS 財務 12』がリリースされ、現在『TACTiCS 財務13』ですが、今後毎年『TACTiCS 財務14』『TACTiCS 財務 15』など新しいバージョンがリリースされ、『USB キー』にはアップグレードプログラムが格納されていきます。また、会計データの保存先としてもご利用いただけます。

『USB キー』を取り外す時はタスクバーから「ハードウェアの安全な取り外し」のアイコンをクリックし、「大容量記憶装置ドライブドライブ(*)を安全に取り外します」をクリックしてください。



『USB キー』には TACTiCS 財務を正常に動作させるために必要なファイルが入っています。『USB キー』の中を操作すると、TACTiCS 財務が起動できない等、問題が発生することに繋がりますので、くれぐれもファイルやフォルダの操作をしないよう取扱いには十分ご注意ください。(『USB キー』の中に新しいファイルやフォルダを追加するのは問題ありません)

TACTiCS 財務の運用形態について

TACTiCS 財務は、コンピュータ環境や運用目的に応じて次の 3 つの運用スタイルがあります。
TACTiCS 財務を起動する際に切り替えることも可能です。

①スタンドアロン

各担当者のパソコンで財務データを管理する方法です。



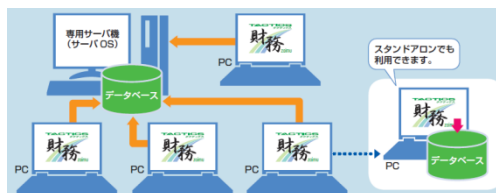
[必要な準備]

- ・TACTiCS 財務のインストール

[P5～P8](#)

②クライアントサーバー方式

サーバー OS を搭載した本格サーバーで財務データを管理します。複数台のクライアント機から同一データへの同時処理が可能です。



サーバー機へは TACTiCS 財務をインストールできません。

[必要な準備]

- ・サーバー機へデータベースをインストール
- ・クライアント機に TACTiCS 財務をインストール
- ・クライアント機でサーバーの指定

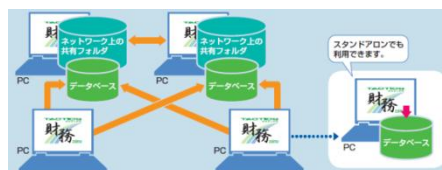
[P66～P69](#)

[P5～P8](#)

[P69～P70](#)

③データ共有方式

LAN 上のパソコンの共有フォルダで財務データを管理します。同一データへの同時処理はできません。共有フォルダのあるパソコンに TACTiCS 財務をインストールする必要はありません。



[必要な準備]

- ・TACTiCS 財務のインストール
- ・「共有フォルダの作成」ツールをダウンロード
- ・LAN上のパソコンに共有フォルダを作成する
- ・各パソコンでネットワークドライブの割り当てを行う

[P5～P8](#)

[P72～P75](#)

[P75～P76](#)

[P77～P78](#)

比較表

	データの所在	データ管理数	メリット	デメリット
スタンドアロン	ローカルフォルダ	最大 500 件。	<ul style="list-style-type: none"> 設定、運用がシンプル。 自分だけ処理できるデータにすることが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> データ管理数が少ない データを一元管理できない。
クライアントサーバー	サーバーフォルダ	1 つのフォルダにつき最大 2000 件。※1	<ul style="list-style-type: none"> 複数台での同時入力が可能。 設定、運用がシンプル。 	<ul style="list-style-type: none"> サーバー OS 搭載の本格サーバーを用意する必要がある。
データ共有	共有フォルダ	1 つの共有フォルダにつき最大 2000 件。	<ul style="list-style-type: none"> データ管理数が事実上無制限。※2 年度や種別でデータを分けて管理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定、運用が他と比較すると煩雑。

※1 TACTiCS 財務 13 (Ver5.0.0) で、従来のデータフォルダの中にサブフォルダを最大 99 個作成し、データ選択画面で切り替えられるようになりました。

※2 共有フォルダは複数作成することができるので、管理数の上限はハードディスクの容量次第となります。

TACTiCS 達人Ⅲとの比較 (なくなった機能)

TACTiCS 達人Ⅲにあった一部機能が TACTiCS 財務ではなくなりました。主な内容を以下に記載します。

メニュー名	詳細
個別原価元帳の作成	機能がなくなります。
精算表の作成	機能がなくなります。
略号摘要文登録	機能がなくなります。摘要辞書で代用可能と考えられます。
次月繰越処理	TACTiCS 財務では仕訳のインポート等を行うと、残高が再計算されるので不要です。
ABC 分析表	機能がなくなります。
資金繰表	実績表になります。予定部分は非対応。
予測・シミュレーション全般	機能がなくなります。
市販ソフトとのデータのやり取り	機能がなくなります。 ※今後、弥生会計からのデータ取込機能は搭載される予定です。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 特定収入の消費税区分はなくなります。 経理方式は税込・税抜の2択になります。(売上等の区分に応じ「消費税処理区分」を設定します。売上等・棚卸資産・固定資産・経費等の区分はありません。) データの削除を実行した場合は元に戻すことはできません。 売上原価の科目分類として『外注費』の区分はなくなります。

② TACTiCS 財務のインストール

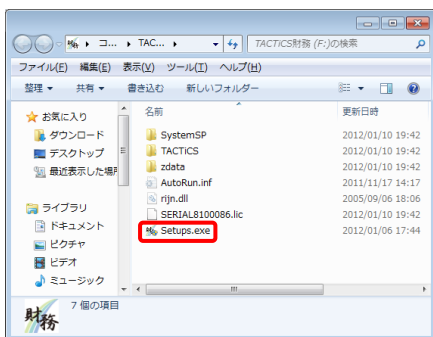
セットアップメニュー

USB キーを挿入し以下の手順でセットアップメニューを表示してください。

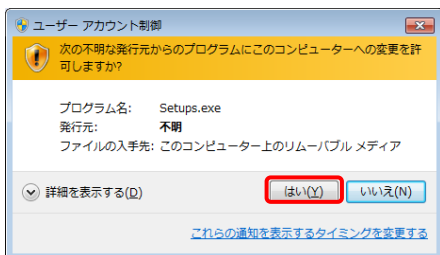


① USB キーをドライブへ挿入します。自動再生画面が表示されます。「フォルダを開いてファイルを表示」を選択します。

※自動再生画面が表示されない場合は、エクスプローラよりUSBドライブを開き、Setups.exe を実行してください。



②表示された内容から、Setups.exe を実行します。



③ユーザーアカウント制御画面が表示したら変更を許可してください。

『TACTiCS 財務セットアップメニュー画面』が表示されます。

The screenshot shows the 'TACTiCS 財務セットアップ' (TACTiCS Financial Setup) menu. It is divided into three main sections: '経営羅針盤' (Management Compass), 'スタンドアロンクライアント(C/R)' (Standalone Client), and 'サーバー' (Server). The '経営羅針盤' section contains the '経営羅針盤 インストール' (Management Compass Install) button. The 'スタンドアロンクライアント(C/R)' section contains the 'TACTiCS 財務 インストール' (TACTiCS Financial Install) button. The 'サーバー' section has a checkbox for 'サーバーを利用する' (Use Server) which is currently unchecked, and three buttons: 'データベースインストール' (Database Install), 'データベースのユーザー設定' (Database User Settings), and 'TACTiCS 財務サーバー設定' (TACTiCS Financial Server Settings). A '終了' (End) button is at the bottom. A footer note reads: 'ウイルス対策ソフトをご利用中の場合は、該当ソフトを終了して下さい。' (If you are using antivirus software, please close it.)

経営者用の電子帳簿閲覧システムです。入力結果を参照するために使用します。(仕訳の入力できません。また、インターネット環境が必須です。)

★必ずインストールしてください。

通常の財務会計システムです。仕訳の入力及び結果の参照に使用します。
P5～P8 参照

データベースインストール

データベースのユーザー設定

TACTiCS 財務サーバー設定

終了

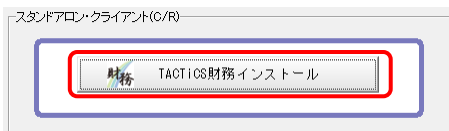
ウイルス対策ソフトをご利用中の場合は、該当ソフトを終了して下さい。

TACTiCS 財務をクライアントサーバー方式で利用する場合に使用します。財務ソフトを利用するパソコンではなく、会計データを管理するサーバー機にセットアップします。
P66～P69 参照

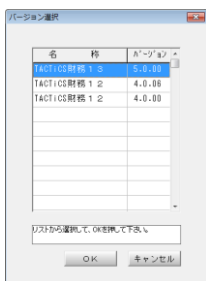
TACTiCS 財務のインストール

TACTiCS 財務をパソコンにインストールします。この作業は P3 の「スタンドアロン」、「データ共有方式」、「クライアントサーバー方式の各クライアント機」で行う必要があります。

※『TACTiCS 経営羅針盤』も同様の流れでインストールできます。本資料では省略します。

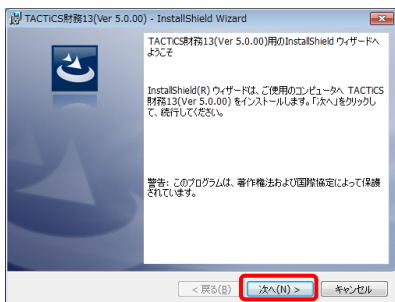


①セットアップメニューから「TACTiCS 財務インストール」ボタンを押します。

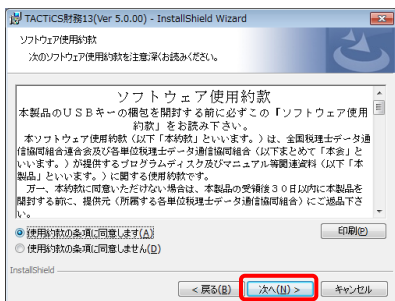


②バージョン選択画面が表示されます。先頭の「TACTiCS 財務 13 5.0.00」を選択し「OK」ボタンを押します。

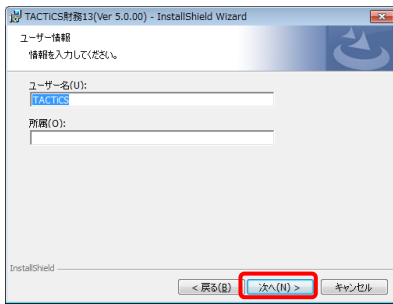
※TACTiCS 財務 12 をインストールする場合は、「TACTiCS 財務 12 4.0.00*」を選択し「OK」ボタンをクリックすると、まず Ver4.0.0 のインストールが始まり、その後自動的にバージョンアップされます。



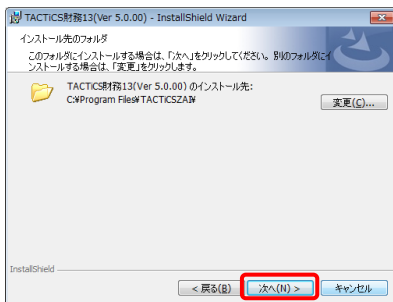
③「次へ」ボタンを押します。



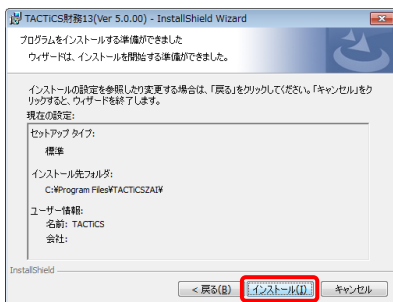
④使用約款を確認し、「使用約款の条項に同意します」を選択し「次へ」ボタンを押します。



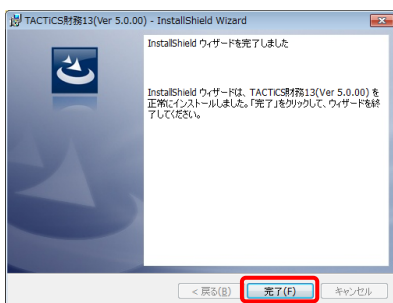
⑤「ユーザー名」を入力し「次へ」ボタンを押します。



⑥インストール先を選択して「次へ」ボタンを押します。通常はインストール先を変更せずに進めます。



⑦設定を確認し「インストール」ボタンを押します。インストールが始まります。



⑧インストール完了の画面が表示します。「完了」ボタンを押します。

③起動とデータ選択

TACTiCS 財務の運用形態と、それぞれに必要な準備を理解したら、次にソフトの起動や、実際に財務データを処理するための流れ、また、TACTiCS 達人Ⅲとは異なるデータベースの持ち方などを理解しましょう。

起動の仕方（ログイン）

「スタンドアロン」「データ共有方式」「クライアントサーバー方式」のいずれも、TACTiCS 財務の起動は必ず「ログイン」画面から始まります。TACTiCS 財務では「オペレータ」という概念があり、ソフトを誰が使うのかという情報を最初に入力しなければいけません。

※オペレータの設定は、TACTiCS 財務のメニューの中で追加や変更ができます。また、オペレータのレベルによって処理可能なメニューを制御することもできます。



①デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。

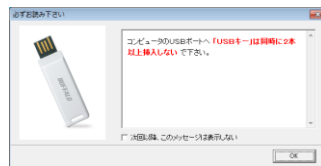


②ログイン画面が表示されます。コードとパスワードに「9999」と入れて「OK」ボタンを押します。

※「9999」は初期状態の設定です。後でパスワードの変更や、オペレータの追加ができます。

※ログイン画面は省略することはできません。

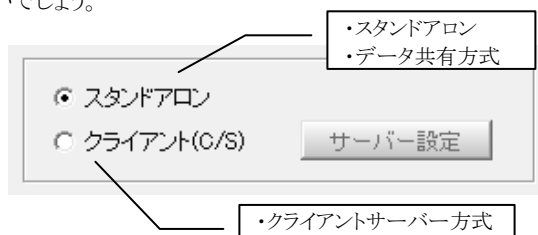
※最初は「ログイン」画面の前に「必ずお読み下さい」画面が表示されます。「次回以降、このメッセージは表示しない」にチェックを付けて「OK」を押せば、次回からはすぐにログイン画面が表示されます。



ログイン画面の「スタンドアロン」と「クライアント (C/S)」

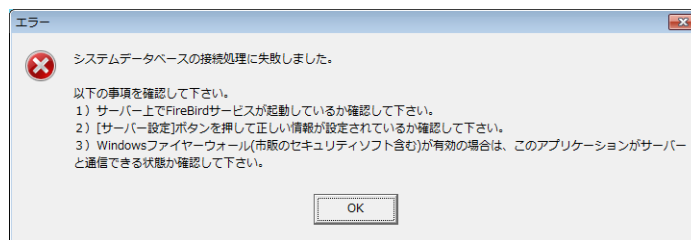
ログイン画面の上部はオペレータの情報ですが、下部にある「スタンドアロン」と「クライアント(C/S)」は、TACTiCS 財務を「スタンドアロン」で使うのか、クライアントサーバー方式の「クライアント」として使うのかの指定です。つまり P3 にある運用形態は、ログイン時に切り替えながら使用することが可能なのです。

ここでは「データ共有方式」の場合も「スタンドアロン」を指定しログインするようになっています。「データ共有方式」の場合は、データを管理するのは別のパソコンの共有フォルダですが、TACTiCS 財務でデータを処理するには、一旦自分のパソコンにコピーしてから処理をするので「スタンドアロン」だと考えれば良いでしょう。



クライアントサーバー方式でサーバー機へ接続できない場合

「クライアント(C/S)」でログインしようとする、次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。



この場合は、サーバー機のファイアウォール機能によってクライアント機からの接続が遮断されているケースが多いです。サーバー機にインストール済みのセキュリティソフト、もしくは Windows ファイアウォールの機能で、次のファイルを接続許可にすれば解決されます。

`C:\Program Files (x86)\Firebird\Firebird_1_5\bin\fbserver.exe`

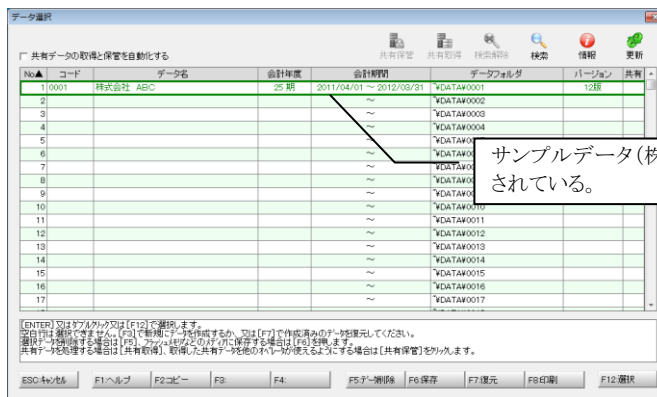
データ選択

TACTiCS 財務にログインすると、次に『データ選択』画面が表示されます。ログイン後にデータ選択を表示するかどうかの設定がシステム上あるので非表示にすることも可能ですが、通常は初期値のままデータ選択画面を表示させて使用します。

ポイント

TACTiCS 達人Ⅲとは異なり、最初にどのデータを処理するか選択しメニュー画面に進む。各メニューを選択する時に事業所・事業年度を指定する必要はない。


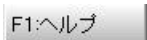

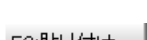
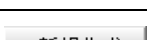

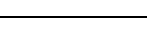
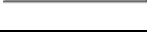

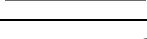





【スタンドアロンで起動した場合のデータ選択画面】






【クライアント(C/S)で起動した場合のデータ選択画面】



データ選択の各機能の説明

	コピーなどの処理を中止するか、データ選択画面を閉じる時に使用します。
	操作説明を表示します。
	データをコピーする時に使用します。クライアント(C/S)で起動した時はありません。
	「F2:コピー」ボタンを押した後に、貼り付け先を指定する時に使用します。クライアント(C/S)で起動した時はありません。
	データを新規に作成する時に使用します。
	分散データを追加する時に使用します。合算データ選択時に表示します。
	クライアントサーバー方式の場合に表示します。サーバー機へ新しいデータフォルダを作成する場合に使用します。
	データを削除する時に使用します。
	データを保存する時に使用します。
	「F6:保存」で保存されたデータを復元する時に使用します。
	データ選択画面のデータリストを印刷する時に使用します。
	指定したデータを選択してメニュー画面に進む時に使用します。このボタンの代わりに Enter キーを押すか、ダブルクリックをしても進めます。
	データ選択画面に表示するデータを、一定の条件で抽出する時に使用します。
	検索機能を使いデータリストを抽出した状態を解除し全表示に戻す時に使用します。
	選択中のデータの詳細情報を表示します。データリスト名を編集したり、データの最適化を行うことができます。

	<p>データリストの情報を再作成する時に使用します。通常は使用しません。</p>
	<p>共有データを選択する前に押します。共有取得をすると、共有フォルダからローカルディスクへデータがコピーされます。共有取得中のデータは他のパソコンで選択することができなくなります。クライアント(C/S)で起動した時はありません。</p>
	<p>共有データの処理が終わったら押します。共有保管をすることによりデータを共有フォルダへデータが戻ります。また、共有保管をすると他のパソコンで共有取得をすることができるようになります。クライアント(C/S)で起動した時はありません。</p>
<input type="checkbox"/> 共有データの取得と保管を自動化する	<p>共有取得と共有保管を自動的にを行う時にチェックを付けます。共有保管のし忘れを防ぐのに役立ちます。クライアント(C/S)で起動した時はありません。</p>
F4割当解除	<p>データ選択に割り当てられた共有データをデータリストから外す時に使用します。画面上からデータが消えますが、共有フォルダからデータが削除されるわけではありません。クライアント(C/S)で起動した時はありません。</p>

その他の特徴

①一行で「一事業所の一事業年度」のデータを管理

TACTiCS 財務では、データ選択画面の一行が一つのデータベースとして存在しています。一つのデータベースで「一事業所の一事業年度」のデータが管理されています。事業年度や事業所を切り替えたい時はその都度データ選択画面を表示して選択します。

No▲	コード	データ名	会計年度	会計期間	データフォルダ	バージョン	共有
1	0001	株式会社 ABC	25 期	2011/04/01 ~ 2012/03/31	*\DATA#0001	12版	
2	0001	株式会社 ABC	24 期	2010/04/01 ~ 2011/03/31	*\DATA#0002	12版	
3	0001	株式会社 ABC	23 期	2009/04/01 ~ 2010/03/31	*\DATA#0003	12版	
4	0001	株式会社 ABC	22 期	2008/04/01 ~ 2009/03/31	*\DATA#0004	12版	
5	0001	株式会社 ABC	21 期	2007/04/01 ~ 2008/03/31	*\DATA#0005	12版	
6				~	*\DATA#0006		
7				~	*\DATA#0007		

②一つのデータベースで三期比較ができる

一行のデータの中には、仕訳入力ができる「当期」のデータ以外に、財務分析用の「前期」「前々期」のデータを持たせることができるようになっていきます。手入力で登録することもできますが、翌年度更新をすることによって引き継がれるという仕組みになっています。最新事業年度のデータさえあれば、その中で三期比較の分析帳票が出せることになります。

③データベースはそれぞれが独立し関連性はない

データ選択画面のデータ行はそれぞれが単独のデータベースとなります。関連性はありませんので、例えば前期データで修正を行ったとしても当期データの残高が自動的に変わることはありません。(自動的に反映しませんが、残高調整機能が搭載されており、実行することによって当期データへ反映させることができます。)

No▲	コード	データ名	会計年度	会計期間	データフォルダ	バージョン	共有
1	0001	株式会社 ABC	25 期	2011/04/01 ~ 2012/03/31	*\DATA#0001	12版	
2	0001	株式会社 ABC	24 期	2010/04/01 ~ 2011/03/31	*\DATA#0002	12版	
3	0001	株式会社 ABC	23 期	2009/04/01 ~ 2010/03/31	*\DATA#0003	12版	
4	0001	株式会社 ABC	22 期	2008/04/01 ~ 2009/03/31	*\DATA#0004	12版	
5	0001	株式会社 ABC	21 期	2007/04/01 ~ 2008/03/31	*\DATA#0005	12版	
6				~	*\DATA#0006		
7				~	*\DATA#0007		

④データリストの並べ替え

データリストの見出しをクリックすると、その項目を基準に並べ替えされます。昇順・降順の切り替えも可能です。並び順は保持されます。

No	コード	データ名 ▲	会計年度	会計期間	データフォルダ	バージョン	共有
----	-----	--------	------	------	---------	-------	----

⑤データ選択画面でのデータ検索

データ選択画面で会社コードを入力すると、入力された文字に応じてその都度データの検索が行われます。

No▲	コード	データ名	会計年度
1	0001	株式会社 ABC	25 期
2			

⑥データフォルダ

データ選択画面に「データフォルダ」という列があります。これはデータの所在がどこなのかを示しています。「スタンドアロン」で起動している場合に、ローカルディスクで管理しているデータなのか、共有フォルダから呼び出しているデータなのかを見分けることができます。

【スタンドアロンで起動した場合のデータ選択画面】

No▲	コード	データ名	会計年度	会計期間	データフォルダ	バージョン	共有
1	0001	株式会社 ABC	25 期	2011/04/01 ~ 2012/03/31	%DATA#0001	12版	
2	0001	株式会社 ABC	24 期	2010/04/01 ~ 2011/03/31	%DATA#0002		
3	0001	株式会社 ABC	23 期	2009/04/01 ~ 2010/03/31	%DATA#0003		
4	0001	株式会社 ABC	22 期	2008/04/01 ~ 2009/03/31	%DATA#0004		
5	0001	株式会社 ABC	21 期	2007/04/01 ~ 2008/03/31	%DATA#0005		
6				~	%DATA#0006		
7	0001	株式会社 ABC	25 期	2011/04/01 ~ 2012/03/31	z#tacticszaimu#sv0001	12版	
8				~	%DATA#0008		
9				~	%DATA#0009		

スタンドアロンで起動した場合は、「ローカルデータ」も「共有データ」も両方とも一つのデータ選択画面に表示されるようになっている。

データの新規作成

仕訳を入力するためには会計データを作成する必要があります。データ選択画面でデータフォルダを指定後「F3:新規作成」ボタンを押し、「会計データの新規作成ウィザード」画面で内容に沿って次へ進むことによって登録します。

会計データの新規作成ウィザード

データ区分とコード体系の選択

データ区分と所在地の設定
会計期間等の設定
原簿報告書の使用
原簿報告書の詳細設定
消費税申告区分の選択
消費税入力区分の設定
本支店管理の有無
本支店の作成
部門の使用
部門の作成
分輸入力の有無
データ連携の設定
設定内容の確認

データ区分からデータを作成する

データ区分: [法人]

コード体系からデータを作成する

コード体系: [販売業]

コードの使用桁数

科目コードの使用桁数: [4桁]

補助コードの使用桁数: [4桁]

部門コードの使用桁数: [2桁]

事前に登録した任意のコード体系でデータを作成する場合は「データ区分からデータを作成する」を選択してください。

F1ヘルプ < 戻る > **次へ >** キャンセル

①コード体系とコード桁数を指定する。

※法人 6 体系(販売業、製造業、建設業、運送業、病院、その他)、および個人 3 体系(個人一般、個人医業、個人不動産)は事前に登録されています。

※科目コード、補助コードは「3桁」「4桁」、部門コードは「2桁」「3桁」「4桁」の指定ができます。

会計データの新規作成ウィザード

データ区分とコード体系の選択

データ区分と所在地の設定

会社情報の設定

原簿報告書の使用
原簿報告書の詳細設定
消費税申告区分の選択
消費税入力区分の設定
本支店管理の有無
本支店の作成
部門の使用
部門の作成
分輸入力の有無
データ連携の設定
設定内容の確認

会計年度: [1] 期

会計期間: [2012] [年] [4] [月] [1] [日] から [2012] [年] [3] [月] [31] [日]

種日: [99] (平日+99)

開始月: [12]年04月

会計年度を省略します。
内訳「内訳」欄に「期設定」>「基本設定」の「名称・期間」が変更できます。

F1ヘルプ < 戻る > **次へ >** キャンセル

②会社コード、会社名等を設定します。

※会社名は必須項目のため省略できません。各種帳票に印字されます。

※新規作成後に設定することも可能です。

※会社コードはデータ選択画面のコード検索に使用できます。

会計データの新規作成ウィザード

データ区分とコード体系の選択

データ区分と所在地の設定

データ区分とコード体系の選択

会計期間等の設定

原簿報告書の使用
原簿報告書の詳細設定
消費税申告区分の選択
消費税入力区分の設定
本支店管理の有無
本支店の作成
部門の使用
部門の作成
分輸入力の有無
データ連携の設定
設定内容の確認

コード: _____

会社名: _____

フリガナ: _____

郵便番号: _____

住所: _____

電話: _____

内訳「管理番号」を省略します。
当社集約ソフトで管理番号を管理している場合はその番号を設定するといでしょう。
必須項目は必ず入力してください。必須項目は必ず入力してください。
内訳「内訳」欄に「期設定」>「基本設定」の「名称・期間」が変更できます。

F1ヘルプ < 戻る > **次へ >** キャンセル

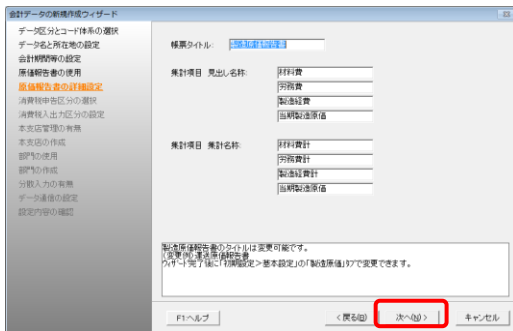
③会計期間等の設定を行います。

※個人データは一年未満の設定はできません。

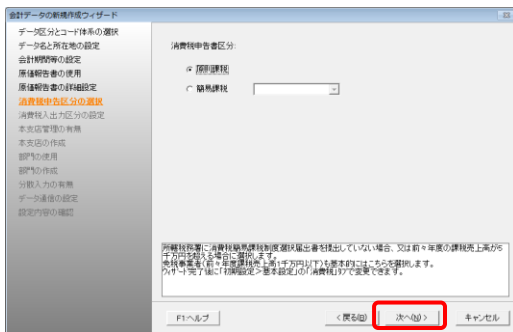
※開始月を期首月の翌月以降にした場合は期中開始扱いとなり、開始残高の登録は損益科目も対象となります。



④製造原価報告書の印刷を指定します。



⑤製造原価報告書を印刷する場合に、タイトルや見出しの情報を確認・変更します。



⑥消費税申告書区分を指定します。

※「原則課税」「簡易課税」のいずれかを選択します。
「簡易課税」の場合は「第一種事業」～「第五種事業」の中から主となる業種を選択します。



⑦消費税入力・処理区分、一括税抜処理区分を指定します。

※消費税入力区分は、仕訳の金額入力時の初期値となります。

税込…消費税込の金額を入力します。

税抜…消費税抜の金額(本体価格)を入力します。

消費税分の仕訳は自動生成されます。

税外…消費税分の仕訳を別途入力します。



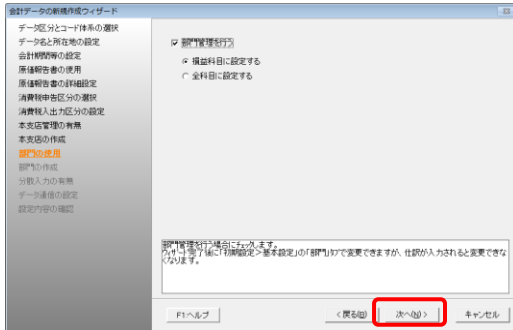
⑧本支店管理の指定をします。



⑨本支店管理を行う場合に、本支店を登録します。

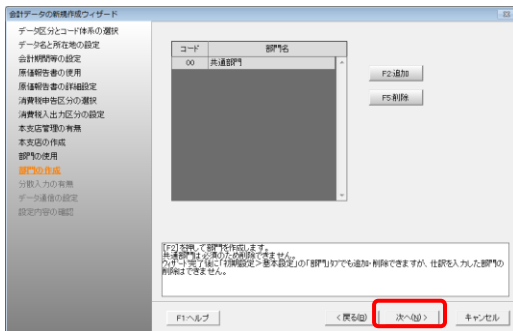
※最大 99 本支店まで設定できます。

※本支店コードは半角 2 桁での指定となります。



⑩部門管理の指定をします。

※損益科目に設定する場合は、売上高～営業外費用の科目が対象となります。



⑪部門管理を行う場合に、部門を登録します。

※最大 100 部門まで設定できます。(「00:共通部門」含む)

※部門コードは最初に指定した最大桁数で登録します。桁が違う場合は警告が表示されます。



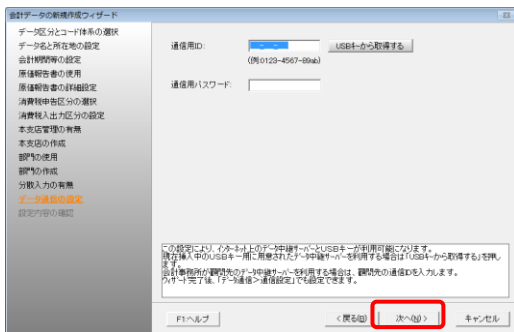
⑫分散入力指定をします。

■分散入力を行う

事業所ごとに入力したりデータ通信を使用するなど、各拠点でデータを管理し、合算用データで合算結果を集計することができる「分散入力」を行う場合にチェックを付けます。

■分散データ数

分散入力を行う拠点数を設定します。最大 99 データまで設定できます。



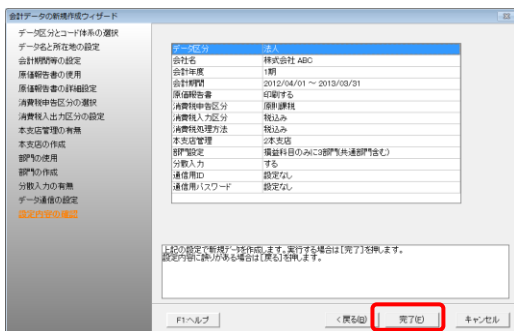
⑬データ送受信の通信設定をします。

■通信 ID

現在挿入中の USB キーに個別に用意されたデータ送受信用の通信 ID を設定します。「USB キーから取得する」ボタンを押します。

■パスワード

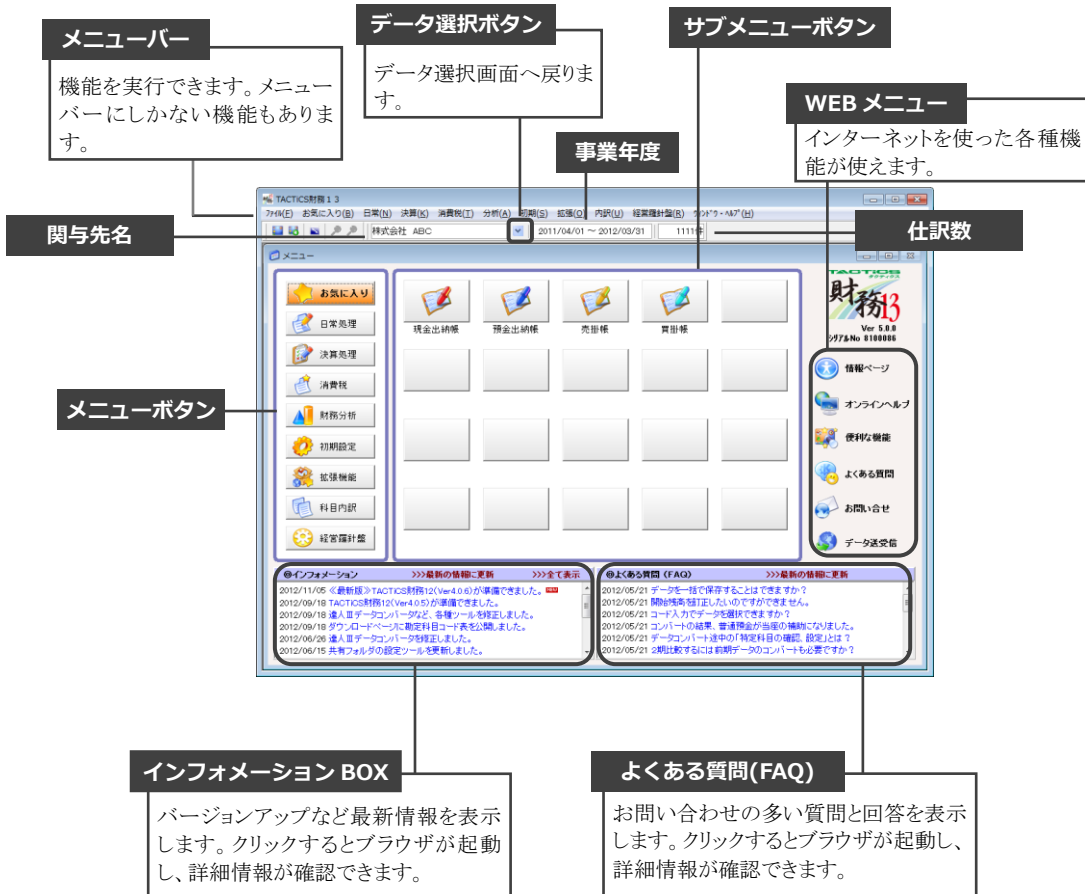
データ送受信用のパスワードを半角英数 6 桁以内で設定します。



⑭設定内容の確認をします。問題がなければ「完了」ボタンを押します。

メニュー画面

データを選択すると TACTiCS 財務のメニュー画面が表示されます。メニュー画面の構成は次のようになっています。「WEBメニュー」「インフォメーションBOX」「よくある質問 (FAQ)」はインターネット環境が必要となります。



④仕訳入力

TACTiCS 財務における仕訳入力について説明します。最も肝心な入力部分については、TACTiCS 達人Ⅲとは操作性や流れが変わっている部分があります。まずはどういう機能、設定があるのかを理解し、できるだけ入力の練習をしてみて TACTiCS 財務に慣れるという事が重要です。

ポイント

初めは TACTiCS 達人Ⅲとの操作性や機能の違いで戸惑いや不満があるかもしれませんが、使っている内に必ず慣れて行きます。まずはとにかく仕訳を入れてみる、というところから始めましょう。

仕訳入力画面

入力済み仕訳の参照領域。入力順に表示される。

日付	借方科目	貸方科目	金額	摘要	付	対							
証券	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先	調	事	仕
11/12/30	687	支払手数料	511	111	当座預金	810			549,719	手数料			
			5	001	東日本銀行				込	26,177			
11/12/31	301	支払手形	810	111	当座預金	810			2,485,200	期日到来			
				001	東日本銀行				-				
11/12/31	111	当座預金	810	401	売上	111			8,497,615	振込入金			
	001	東日本銀行							5	込	404,648		
11/12/31	152	売掛金	810	401	売上	111			13,000,000	掛売上			
	999	その他							5	込	619,047		
11/12/31	152	売掛金	810	401	売上	111			3,000,000	掛売上			
	999	その他							5	込	142,857		
11/12/31	101	現金	810	401	売上	111			1,050,000				
									5	込	50,000		
11/12/31	452	仕入	511	101	現金	810			940,000				
			5						込	44,761			

会計期間内の日付を入力します。〔←〕は前月・日付移動します。〔Enter〕キーで次の項目に進みます。〔F8〕入力方法の切替。

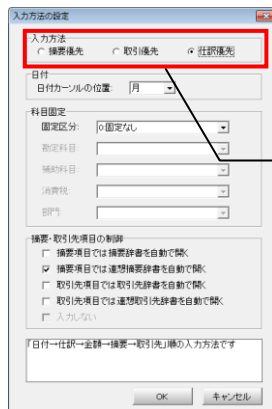
ESCキャンセル F1ヘルプ F2通常 F3決算 F4一括入力 F5前正 F6前行検索 F7過去明細 F8仕訳優先 F12閉じる

各種ファンクションキー。入力行のカーソル位置によりボタンが切り替わる。

入力行

入力方法① 『仕訳優先』『摘要優先』『取引優先』

TACTICS 財務には、3つの入力方法が用意されています。これらは、仕訳の入力をどういう順番で行うのかを決める設定と言えます。初期状態では『仕訳優先』が設定されていますが、仕訳入力画面右上の「入力設定」ボタンを押すと、入力方法を切り替えることができます。また、ここでの変更は一時的なものであり、次回仕訳入力を開いた時は『仕訳優先』に戻っています。根本的に入力方法を変えたい場合には、【ファイル】-【環境設定を開く】の入力設定画面で変更します。



3つの入力方法を切り替えることができる。

仕訳優先

日付、仕訳、金額、摘要の順に入力する入力方法です。

日付	借方科目			
証憑	コード	名称	部門	税
08/25				910

①日付を入力します。

※証憑番号を使用する設定の場合は、日付の次に証憑欄にカーソルが移動します。証憑番号の使用については【初期設定】-【基本設定】で設定します。

日付	借方科目				貸方科目				金額
証憑	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税
08/25	1101	現金	01		810	売上高	01	5	126,000
									6,000

②借方・貸方を入力します。

※科目コード欄で【↓】または「F4:リスト表示」を押すと「科目参照」画面が表示されます。

金額	摘要	
消費税	取引先	
126,000	本日現金売上	
込	6,000	〇〇商事

③金額、摘要、取引先を入力します。

摘要優先/取引優先

日付入力後に摘要または取引先を選択することで科目が自動でセットされる入力方法です。

日付 証憑	借方科目			
	コード	名称	部門	税
03/25				910

①日付を入力します。



②表示される辞書から摘要または取引先を選択します。

※辞書内のカーソル移動は、方向キーまたはコード入力を行います。

※証憑番号を使用する設定の場合は、辞書の次に証憑欄にカーソルが移動します。証憑番号の使用については【初期設定】-【基本設定】で設定します。

日付	証憑	借方科目	金額	摘要	取引先
03/25	1101	現金			

③借方・貸方及び摘要がセットされます。

※補助科目や部門が必要な場合は入力します。

金額	摘要
消費税	取引先
126,000	本日現金売上
込	6,000 ○○商事

④金額、取引先を入力します。

ポイント

- TACTiCS 財務では、↓キーでカーソルの移動ができない。Tab キーか Enter キーでの移動となります。科目、補助、部門コード欄については、指定桁数が入力されたら自動的に移動します。
- TACTiCS 財務では、Enter キーは仕訳の登録ではなく項目の移動となります。
- 仕訳の修正をする場合は、最後まで Enter または Tab キーでカーソルを移動させる必要があります。

辞書機能

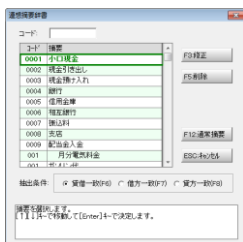
『摘要優先』や『取引優先』で最初に表示される辞書、また摘要欄、取引先欄で表示される辞書には以下のようなものが用意されています。これらをどう使うかは仕訳入力画面の「入力設定」に「摘要・取引先項目の制御」で調整することができます。

摘要辞書



摘要辞書は画面左側の50の見出しの中に取引の内容(摘要)が登録されています。摘要を選択するだけで、借方・貸方の科目が自動的に入力されます。

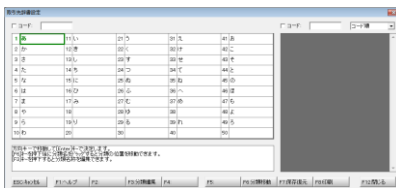
連想摘要辞書



借方・貸方に入力された科目の組み合わせが、摘要辞書に登録されている仕訳と一致する摘要だけに絞って表示する辞書です。「貸借一致」「借方一致」「貸方一致」の抽出条件があります。

※今後、抽出条件の初期値を【ファイル】-【環境設定を開く】に追加する予定です。

取引先辞書



取引先辞書は画面左側の50の見出しの中に取引の相手方(取引先)が登録されています。取引先と関連する取引内容(摘要)も組み合わせで登録できるので、取引先を選択した後は金額を入力するだけで仕訳が完成します。

連想取引先辞書



借方・貸方に入力された科目の組み合わせが、取引先辞書に登録されている仕訳と一致する取引先だけに絞って表示する辞書です。「貸借一致」「借方一致」「貸方一致」の抽出条件があります。

入力方法② 『税込入力』『税抜入力』『税外入力』

もう一つ仕訳入力の方法としてあるのが、金額をどのように入力するか、また、消費税の計算をどうするかを決める設定です。【初期設定】-【基本設定】の消費税タブにある「消費税入力区分」で設定をします。また、仕訳入力時に金額欄へカーソルが移動した時に、次のファンクションキーが表示され切り替えることができます。

F2 税込 F3 税抜 F4 税外

税込入力

税込金額を入れる入力方法です。下段に消費税額が計算されます。

日付 証憑	借方科目				貸方科目				金額		摘要 取引先
	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税		
07/25	101	現金		810	401	売上		110	105,000		本日現金売上
								5	込	5,000	

消費税込みの金額を入力する。

下段に税抜帳簿用の内税額が計算されます。

税抜入力

税抜金額を入れる入力方法です。下段に消費税額が計算されます。本体価格と消費税の2仕訳を入力する手間が省けます。

日付 証憑	借方科目				貸方科目				金額		摘要 取引先
	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税		
07/25	101	現金		810	401	売上		110	100,000		本日現金売上
								5	抜	5,000	

本体価格を入力する。

下段に外税額が計算されます。

税外入力

本体価格と消費税分の仕訳を分けてそれぞれ入力する方法です。それぞれの仕訳の関連性は持たれません。

日付 証憑	借方科目				貸方科目				金額		摘要 取引先
	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税		
07/25	101	現金		810	401	売上		110	100,000		本日現金売上
									-		

本体価格を入力する。

消費税額は計算されない。

日付 証憑	借方科目				貸方科目				金額		摘要 取引先
	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税		
07/25	101	現金		910	337	仮受消費税		610		5,000	
								5	-		

消費税の仕訳を入力する必要がある。

消費税に見合う消費税コードを使用する。

消費税額の計算

課税売上・課税仕入関連の消費税コードが使われた仕訳で税込入力・税抜入力をする、【初期設定】-【基本設定】の消費税タブにある消費税率に基づき消費税額が自動計算されます。税込入力での計算される内税額は、税抜帳簿を作成する時の仮受・仮払消費税に集計されます。税抜入力での計算される外税額は、税込帳簿作成時の税込金額と、税抜帳簿作成時の仮受・仮払消費税に集計されます。輸出売上・非課税売上関連と非課税仕入・課税対象外・区分未定および消費税分類の仮受・仮払に属する消費税コードは税率がありませんので、それらの組み合わせの仕訳では消費税入力区分に関係なく消費税は計算されません。

消費税額の集計

税込入力・税抜入力・税外入力は、あくまでも『入力時点での消費税の扱い』をどうするかを決める設定です。税込入力・税抜入力どちらで入力した場合でも、試算表や元帳などの帳票集計時には、「税込処理」「税抜処理」どちらで集計するかを選択できます。【初期設定】-【基本設定】の消費税タブにある「消費税処理区分」で設定をします。また、各帳票メニューで随時切り替えができます。

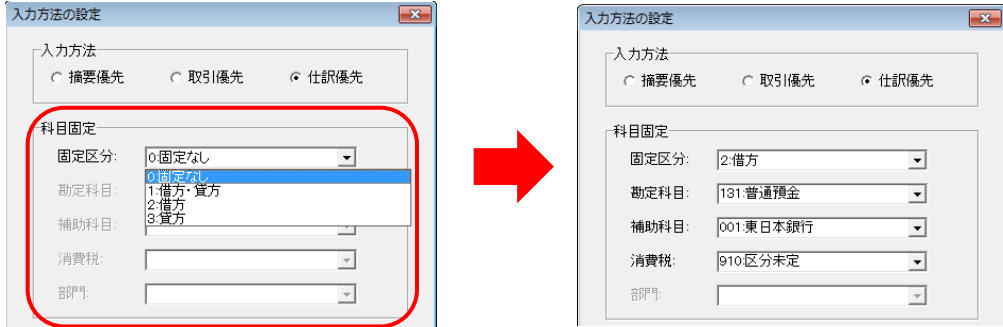
消費税コードについて

TACTiCS 達人Ⅲのように消費税区分に「税込」「税抜」の情報を持たせる仕組みにはなっていません。TACTiCS 財務における消費税コードは、消費税申告書・付表におけるどの項目に反映させるかの役割を持っています。

その他の入力方法

①科目固定

科目や部門を固定して連続で入力することができます。仕訳入力画面右上の「入力設定」ボタンをクリックすると、科目固定の設定が表示します。通常は固定区分「固定なし」が選択されています。



仕訳優先入力の場合、上図の「固定区分」から「1:借方・貸方」「2:借方」「3:貸方」のいずれかを選択すると、勘定科目以下の項目が選択できるようになります。勘定科目を選択し、必要に応じて補助科目、消費税、部門の指定をして「OK」ボタンで入力方法の設定画面を閉じます。摘要優先入力と取引先優先入力の場合は、部門のみ指定でき、辞書に部門まで登録があったとしても科目固定の設定の方を優先するようになります。

科目固定の設定をした状態で仕訳の入力をする、通常は科目コード欄にカーソルが止まると、科目コードや科目検索キーを入力するか、↓キーもしくは「F4:リスト表示」を押して科目リストを表示して選択して進みますが、Tab キーまたは Enter キーを押すだけで自動的に指定した科目がセットされます。

Tab キーまたは Enter キーを押す

日付	借方科目	貸方科目	金額	摘要						
証憑	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
07/25				910				910	0	
									-	

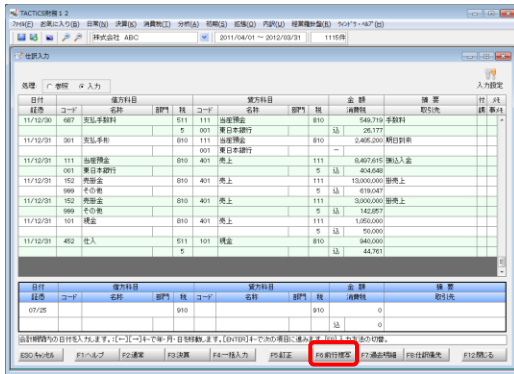
指定した固定情報がセットされる。

日付	借方科目	貸方科目	金額	摘要						
証憑	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
07/25	131	普通預金		910				910	0	
	001	東日本銀行							-	

なお、この科目固定の機能を使わなくても、入力時に科目コード欄でTabキーまたはEnterキーを押すと、直前に入力した科目が自動的にセットされます。直前の仕訳によって変わりますので、完全に固定して連続入力したい場合には、科目固定機能を使うと便利です。

② 前行複写

直前に入力した仕訳の内容を入力行へコピーする機能です。一旦入力行にコピーされ、日付や金額など必要に応じて修正してから仕訳を登録することができます。

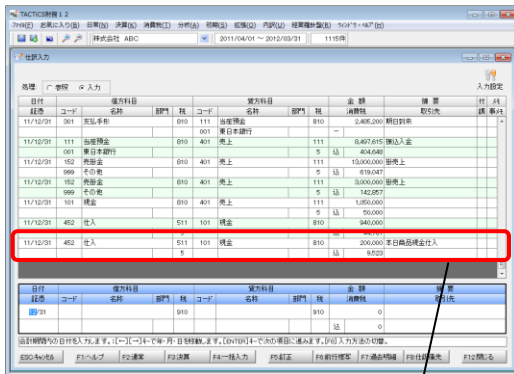


① 入力行の日付欄にカーソルがある状態で「F6:前行複写」ボタンを押します。



② 直前の仕訳が複写されます。

直前の仕訳がコピーされる。

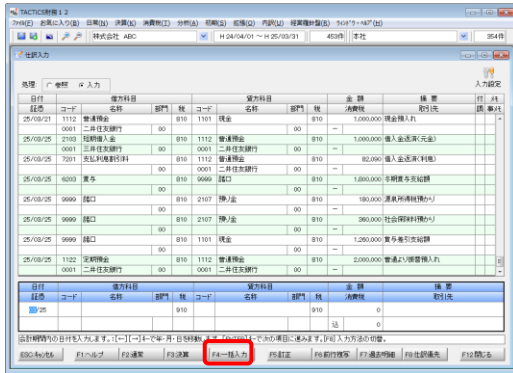


③ 日付や金額など必要に応じて修正し仕訳を登録します。

複写された内容を一部変えて登録。

③一括入力辞書

給与支給や口座引き落としなど、毎月発生する定型仕訳をあらかじめ登録しておくことにより、複数の仕訳をまとめて追加することができます。



①日付欄にカーソルがある状態で「F4:一括入力」ボタンを押します。



②[一括入力辞書選択]画面が表示されます。目的の分類を選択し[Enter]キー、またはダブルクリックをします。

※左上のコード欄にチェックを付けると、分類コードでの呼び出しができます。



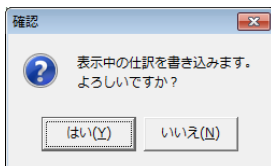
③日付や金額などを修正し「F12:仕訳書込」ボタンを押します。

※①で[F4:一括入力]ボタンを押す前に日付を訂正しておけば、全て訂正した日付で表示されます。

※金額を¥0にすると、仕訳書込対象外となります。

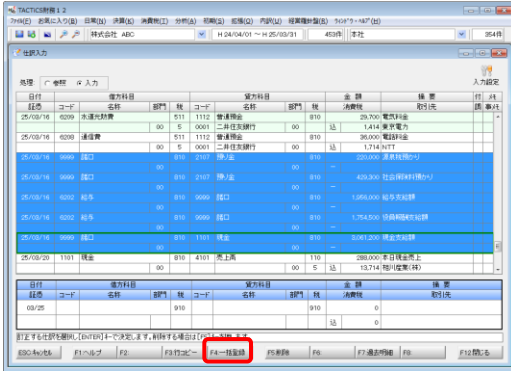
※編集項目の指定ができますので、TACTiCS 達人IIIの「項目固定」機能のような動作で複数の仕訳を登録できます。

④確認画面が表示されます。「はい」を押します。



一括入力辞書への登録方法

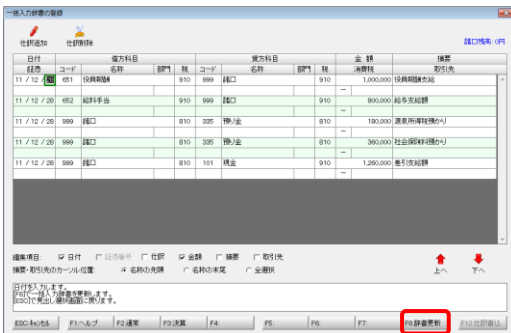
入力済みの仕訳を一括入力辞書へ登録することができます。



- ①仕訳入力画面上で登録したい仕訳をドラッグします。「F4:一括登録」ボタンを押します。



- ②[一括入力辞書登録]画面が表示されます。追加したい分類を選択し[Enter]キー、またはダブルクリックをします。分類名を入力し[Enter]キーで確定後、再度[Enter]キー、またはダブルクリックをします。



- ③登録仕訳確認画面が表示されます。必要に応じて訂正し、「F8:辞書更新」ボタンを押します。



- ④確認画面が表示されます。「OK」を押します。

④摘要履歴機能

仕訳入力画面を開いてから使用された摘要文が、最大 100 件まで履歴として残り、入力時に簡単に呼び出すことができます。取引先欄にも同様の機能が付いています。

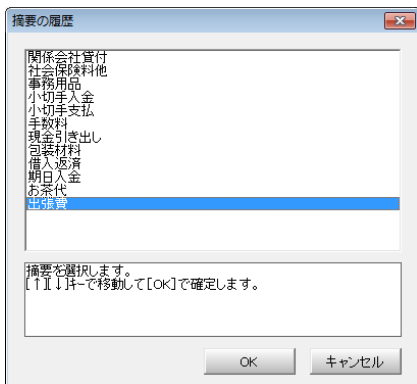
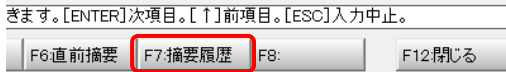


- ①仕訳の入力を進めます。金額欄まで入力し [Enter]キー、または[Tab]キーを押します。[連想摘要辞書]画面が表示されます。[Esc]キーを押し辞書画面を閉じます。

※連想摘要辞書が開くかどうかは入力設定によって変わります。

税	金額	摘要
	消費税	取引先
810	21,340	
込	1,016	

- ②摘要欄までカーソルを進め、「F7: 摘要履歴」ボタンをクリックします。



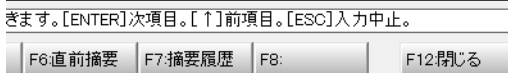
- ③[摘要の履歴]画面が表示されます。目的の摘要を選び、「OK」ボタンをクリックします。

※直前に使用された摘要が上部に表示されます。

※仕訳入力画面を閉じると履歴はクリアされます。

税	金額	摘要
	消費税	取引先
810	21,340	出張費
込	1,016	

- ④選択した摘要文がセットされます。



⑤直前摘要呼び出し

直前に入力した仕訳の摘要文をボタン一つで呼び出すことができます。取引先欄にも同様の機能が付いています。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
11/12/20	687 売上手数料	511	111 当座預金	511	549,719 手数料
11/12/21	301 売上手数料	5	001 現金	5	26,171
11/12/21	301 売上手数料	810	111 当座預金	810	2,485,200 現金
11/12/21	111 当座預金	810	001 現金	810	2,485,200 現金
11/12/21	001 現金	810	401 売上	810	644,640
11/12/21	402 売上	810	401 売上	810	10,000,000 売上
11/12/21	999 売上	810	401 売上	810	619,047
11/12/21	152 売上	810	401 売上	810	2,000,000 売上
11/12/21	999 売上	810	401 売上	810	50,000
11/12/21	151 売上	810	401 売上	810	50,000
11/12/21	402 売上	810	101 現金	810	44,361
		5		5	

- 仕訳の入力を進めます。金額欄まで入力し [Enter]キー、または[Tab]キーを押します。[連想摘要辞書]画面が表示されます。[Esc]キーを押して辞書画面を閉じます。

※連想摘要辞書が開くかどうかは入力設定によって変わります。

税	金額	摘要
810	21,340	取引先
込	1,016	

- 摘要欄までカーソルを進め、「F6: 直前摘要」ボタンをクリックします。

きます。[ENTER]次項目。[↑]前項目。[ESC]入力中止。

F6直前摘要	F7摘要履歴	F8:	F12閉じる
--------	--------	-----	--------

税	金額	摘要
810	21,340	取引先
込	1,016	

- 直前仕訳の摘要文がセットされます。

きます。[ENTER]次項目。[↑]前項目。[ESC]入力中止。

F6直前摘要	F7摘要履歴	F8:	F12閉じる
--------	--------	-----	--------

辞書優先入力のおすすめ

今後 TACTiCS 財務でより速く入力していただく為に、「仕訳優先」ではなく「摘要優先」や「取引優先」を推奨致します。摘要を組み合わせて文章を作るのではなく、あらかじめ組み合わせた摘要文を辞書へ登録・整備し、辞書を使った自動入力をする事で打鍵数を減らし、ミスすることなく入力することが可能になります。摘要辞書を使った自動仕訳入力の流れは以下ようになります。

仕訳例 672:水道光熱費 / 131 普通預金 ¥10,000 10月分 水道・ガス

① 日付を入力する。

日付	借方科目	貸方科目	金額	摘要						
証憑	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
10/25				910				910	0	
									-	

② 自動的に摘要辞書が表示される。



③ 目的の摘要分類コードを入力する。



入力した分類に登録されている摘要リストが表示される。

④[Enter]を押すと、右側の摘要選択エリアへカーソルが移動する。

⑤目的の摘要コードを入力し[Enter]を押す。

⑥仕訳入力行に仕訳・摘要文がセットされる。(この例では補助科目まで辞書へ登録しています)。

日付	借方科目				貸方科目				金額	摘要
証券	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
10/25	672	水道光熱費		511	131	普通預金		810		月分 水道・ガス
				5	001	東日本銀行			込	0

⑦金額を入力し、[Enter]または[Tab]を押す。

日付	借方科目				貸方科目				金額	摘要
証券	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
10/25	672	水道光熱費		511	131	普通預金		810	10,000	月分 水道・ガス
				5	001	東日本銀行			込	476

⑧摘要欄の先頭にカーソルが移動する。

日付	借方科目				貸方科目				金額	摘要
証券	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
10/25	672	水道光熱費		511	131	普通預金		810	10,000	月分 水道・ガス
				5	001	東日本銀行			込	476

⑨月を入力する。

日付	借方科目				貸方科目				金額	摘要
証券	コード	名称	部門	税	コード	名称	部門	税	消費税	取引先
10/25	672	水道光熱費		511	131	普通預金		810	10,000	10月分 水道・ガス
				5	001	東日本銀行			込	476

必要な事前準備

摘要辞書へ「月分 水道・ガス」のように組み合わせた形で登録する。

摘要辞書には組み合わせた摘要文を登録しておく。

この例のように先頭に文字を足したい場合には、入力時のカーソル位置の指定も可能。「名称の先頭」にしておけば、方向キーで操作する手間は省ける。

補助科目、部門、消費税コードまで登録できる。入力時に摘要を選択するだけで、それらが全て自動でセットされるようになる。

半角5桁以内でコードを設定します。摘要の並び順や摘要の呼び出しの際に使用します。空白のままでも問題はありません。

摘要辞書には摘要を組み合わせた形で登録し辞書を整え、「仕訳優先」ではなく「摘要優先」を使い入力高速化を図ってはいかががでしょうか。また、「仕訳優先」のままであっても、連想摘要辞書には組み合わされた摘要文が表示された方が速いと思いますので、この機会に摘要辞書の登録を整えていただければと考えております。

その他のメリット

- ・接待交際費など消費税コードを分ける必要がある取引の場合も、摘要を選ぶだけで簡単に対応できる。
- ・顧問先に自計化を推進する上で、仕訳が分からなくてもミスすることなく入力できる。
- ・会計事務所でも摘要優先入力を採用することにより、同じ入力方式の顧問先のフォローがしやすくなる。
- ・退職や新人採用等により会計事務所の担当変更があった場合にも、摘要辞書を見れば処理パターンの確認ができるなど、引継ぎ作業を軽減できる。
- ・辞書の一つ整えておけば、保存・復元機能により同じ科目体系の他のデータへ流用することができる。

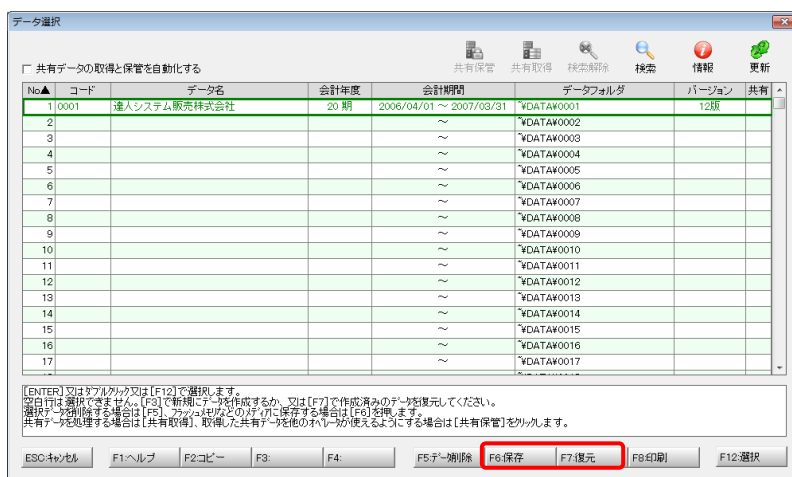
⑤バックアップとリストア

TACTiCS 財務では、会計事務所と関与先のデータのやり取りをする為や、会計データ単位でのバックアップの為に、データの保存と復元機能があります。選択した会計データの内容全てが保存・復元対象となります。

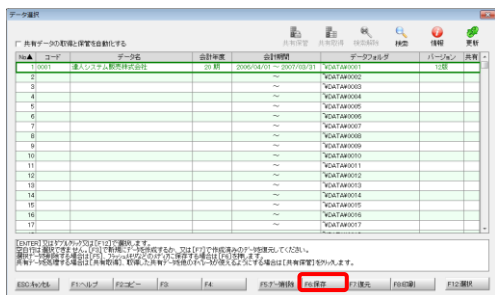
また、TACTiCS 財務のインストールによって組み込まれる一括保存・復元ツールを使い、ローカルデータ、共有データ、あるいはサーバーデータを一括で保存することも可能です。

データ選択画面の「保存」と「復元」

指定した 1 データを市販の USB メモリやハードディスクの任意のフォルダなどへ保存します。関与先へデータを渡す一つの手段として使用できます。また、関与先で保存されたデータをこの画面で復元することができます。保存ファイル名は必ず tacacc.fbk となります。

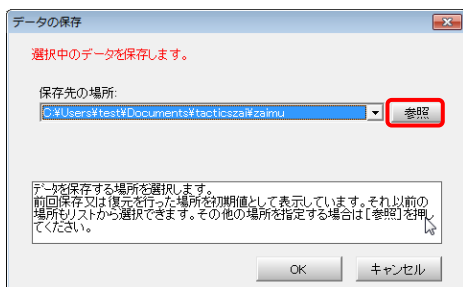


バックアップ・リストア手順



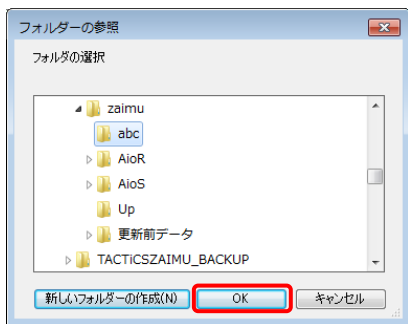
- ①データ選択画面で保存対象のデータを選択し「F6:保存」ボタンを押します。

※保存対象となるのは指定した1データのみです。

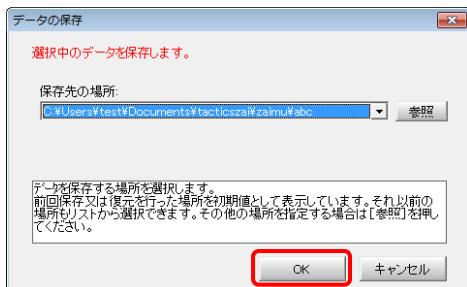


- ②データの保存画面が表示します。保存先の場所を指定し「OK」ボタンを押します。過去8回分の指定場所がリストに保持されています。新しい場所を指定するには「参照」ボタンを押します。

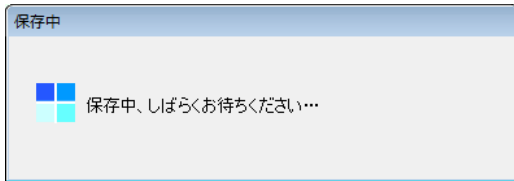
※ここでは「参照」を押して進めます。



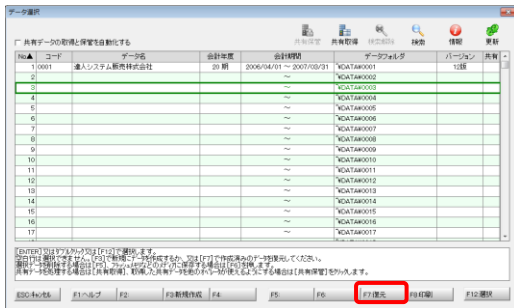
- ③フォルダの参照画面が表示します。保存先の任意のフォルダを選択し「OK」ボタンを押します。左下の「新しいフォルダの作成」を押すと、新規にフォルダを作成し保存先とすることができます。



- ④データの保存画面に戻ります。「OK」ボタンを押します。

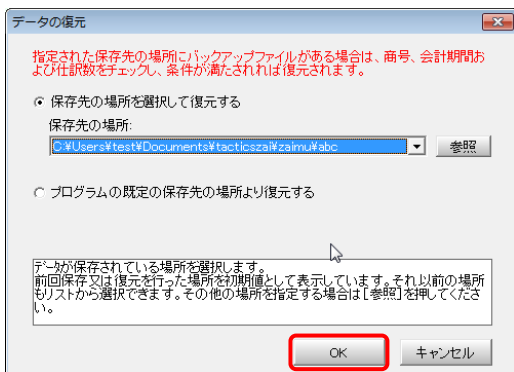


⑤保存処理が始まります。画面が閉じたら保存終了です。

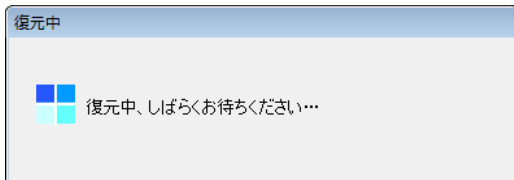


⑥次に保存データを未使用領域へ復元します。復元先の領域を指定し「F7:復元」ボタンを押します。

※使用領域に対しても復元できます。



⑦データの復元画面が表示します。保存先の場所（保存データが格納されている場所）を指定し「OK」ボタンを押します。過去8回分の指定場所がリストに保持されています。新しい場所を指定するには「参照」ボタンを押します。



⑧復元処理が始まります。



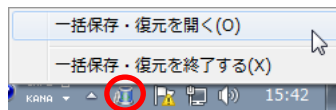
⑨データ選択画面に戻ります。指定した場所にデータが復元されています。

一括保存・復元

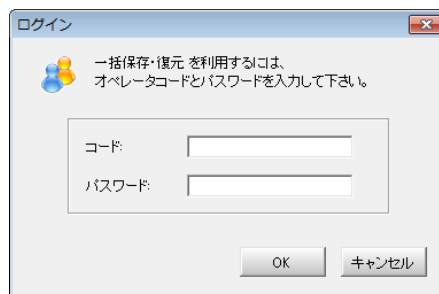
TACTiCS 財務がセットアップされているパソコン内のデータ(ローカルデータ)、及びネットワーク上の共有データを一括でバックアップするためのツールです。

バックアップしたデータは一括で復元することもできますし、個別に復元することも可能です。TACTiCS 財務を「クライアント(C/S)」で起動している場合はサーバー用の一括保存・復元ツールをご利用ください。本資料ではローカルフォルダ及び共有フォルダ用の一括保存・復元ツールをご説明します。

本ツールの起動方法は、『スタート>すべてのプログラム>TACTiCS 財務>TACTiCS 財務ツールメニュー>一括保存・復元』の順にクリックします。ツールが常駐化されている場合は Windows の通知領域アイコンをクリックし『一括保存・復元を開く』をクリックします。



本ツールを利用するには、初めに『TACTiCS 財務』で設定されているオペレータでログインする必要があります。共有データの一括保存を行うにはシステム管理者権限のオペレータでログインして下さい。



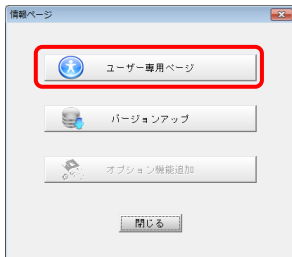
最新の一括保存・復元ツールをダウンロード

一括保存・復元などのツールプログラムは、TACTiCS 財務本体とは別に随時バージョンアップが行われています。TACTiCS 財務をバージョンアップすると最新のツールが組み込まれますが、今後一括保存・復元ツール単独でアップがあった場合に次の手順でインストールします。

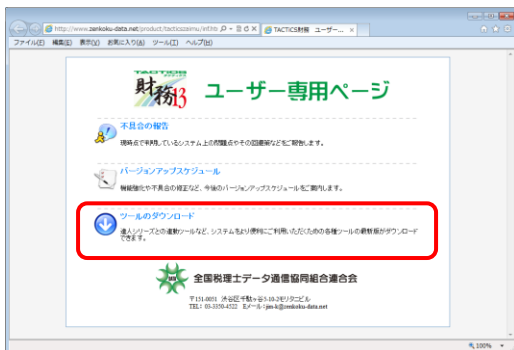
■ツールのダウンロード



①TACTiCS 財務のメニュー画面右側の「情報ページ」を押します。



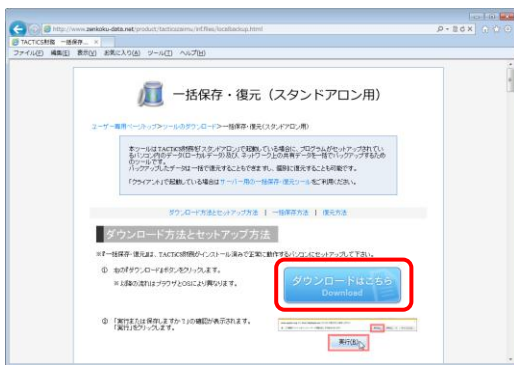
②「情報ページ」画面が表示されます。「ユーザー専用ページ」ボタンを押します。



③「ユーザー専用ページ」が表示されます。「ツールのダウンロード」をクリックします。



④「ツールのダウンロード」画面が表示されます。表示されているツールの中から「一括保存・復元」をクリックします。

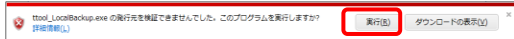


⑤「一括保存・復元ツールのダウンロード」画面が表示されます。「ダウンロードはこちら」ボタンを押します。

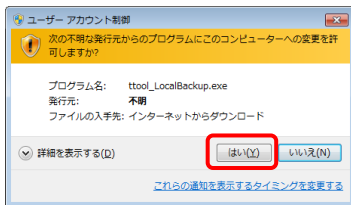
※以降の流れはブラウザとOSにより異なります。



⑥「実行または保存しますか？」の確認が表示されます。「実行」ボタンを押します。



⑦「発行元の確認」画面が表示された場合は「実行」ボタンを押します。

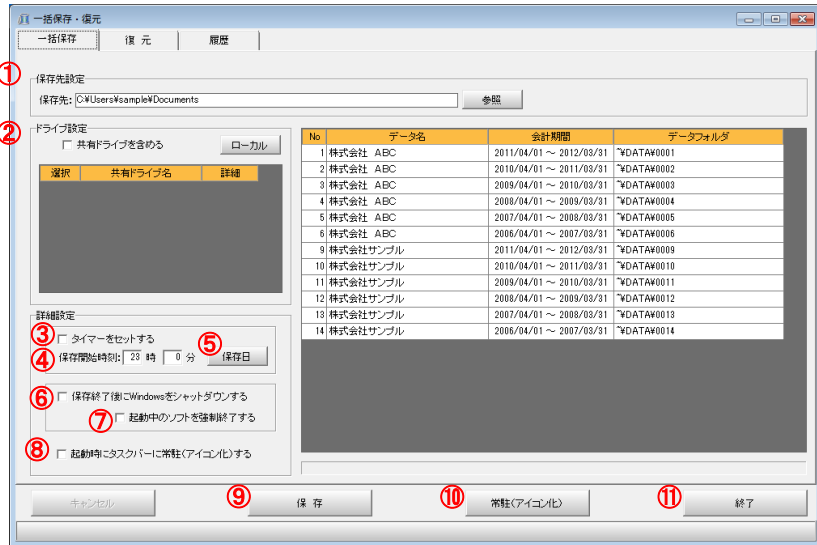


⑧ユーザーアカウント制御画面が表示したら変更を許可してください。



⑨インストール完了の画面が表示します。「OK」ボタンを押します。

【一括保存タブ】



①保存先設定	保存先欄に手入力するか「参照」ボタンを押して保存先を指定します。手入力の場合は該当フォルダが存在しなければ新規作成されます。
②ドライブ設定	共有データを保存対象とする場合は「ドライブ設定」の「共有ドライブを含める」にチェックした上で保存対象に含めるドライブの「選択」欄にもチェックします。 ※共有データを保存対象とする場合は管理者権限でログインする必要があります。 ※共有データだけを保存対象にすることはできません。(ローカルデータと共有データは同時に保存されます。) ※共有ドライブ名右側の「確認」ボタンをクリックすると、画面右側のリストを切り替えられます。「ローカル」ボタンをクリックすると元に戻ります。)
③タイマーをセットする	時間を指定して自動的に一括保存する場合に指定します。保存開始時刻を指定しチェックします。
④保存開始時刻	タイマー機能を使う場合に、保存開始時刻を設定します。「タイマーをセットする」にチェックがある場合は入力できません。
⑤保存日	タイマー機能を使う場合に、「毎日」「毎週」「毎月」よりスケジュール登録を行います。「毎週」の場合は曜日を、「毎月」の場合は日付を設定します。複数日の指定も可能です。
⑥保存終了後に Windows をシャットダウンする	一括保存終了後に自動的に Windows をシャットダウンする場合にチェックします。
⑦起動中のソフトを強制終了する	「保存終了後に Windows をシャットダウンする」場合に、起動中のソフトがあれば強制終了します。

⑧起動時にタスクバーに常駐 (アイコン化) する	本ツールを Windows のスタートアップに登録します。パソコンを再起動しても常駐化されていますので、定時に一括保存処理を実行できます。
⑨保存	一括保存を実行します。
⑩常駐 (アイコン化)	本ツールを常駐化します。常駐時はツールメニューからの起動ができなくなります。
⑪終了	設定を保存してツールを終了します。

注意事項

- ① 常駐化している場合はツールメニューから起動できなくなります。
- ② 『TACTICS 財務』のシステム管理者以外のレベルのオペレータでログインした場合は、データ共有方式で管理しているデータを処理することはできません。
- ③ データに破損が見られる場合は、保存終了後に該当データを赤色で表示するようになります。

No.	データ名	会計期間	データフォルダ
1	株式会社 ABC～25期	2011/04/01～2012/03/31	YDATA\0001
2	株式会社 ABC～24期	2010/04/01～2011/03/31	YDATA\0002
3	株式会社 ABC～23期	2009/04/01～2010/03/31	YDATA\0003
4	株式会社 ABC～22期	2009/04/01～2009/03/31	YDATA\0004
5	株式会社 ABC～21期	2007/04/01～2008/03/31	YDATA\0005
6	株式会社 ABC～20期	2006/04/01～2007/03/31	YDATA\0006

- ④ 『起動時にタスクバーに常駐 (アイコン化) する』にチェックが入ったまま、『TACTICS 財務』のアンインストール及び再インストールを行うと、PC 起動時に本プログラムのログイン画面が表示されます。ツール起動後にチェックの調整をして下さい。

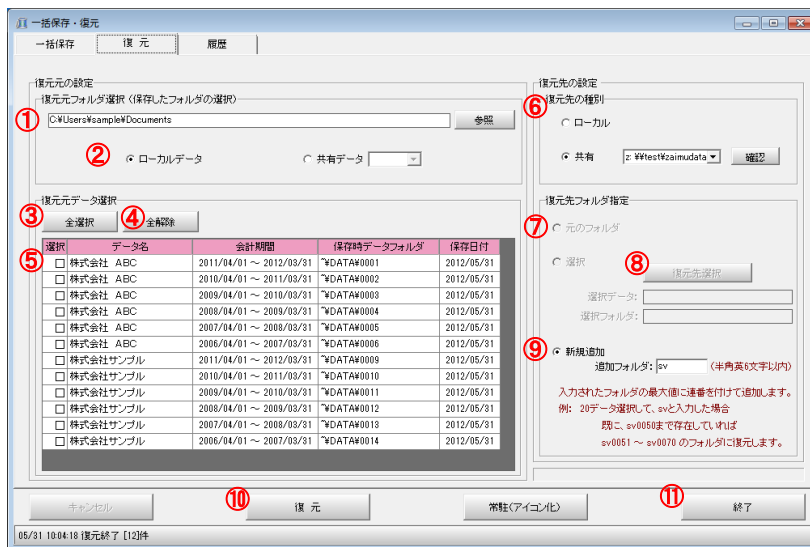
今すぐ保存を行う場合 (毎回手動で保存する場合)

- ① 「保存先設定」で手入力するか、又は「参照」ボタンをクリックしてデータの保存先を指定します。
- ② 共有データを保存対象とする場合は「ドライブ設定」の「共有ドライブを含める」にチェックした上で保存対象に含めるドライブの「選択」欄にもチェックします。
- ③ 「保存」ボタンをクリックすると処理を実行します。
 ※①で指定した保存先に「TACTICSZAIMU_BACKUP」フォルダが作成されます。
 ※「保存」ボタンをクリックする前に「保存終了後に Windows をシャットダウンする」にチェックしておくと、一括保存処理完了後に自動でパソコンの電源を落とせます。

タイマーを設定して定期的に自動で保存する場合

- ① 「保存先設定」で手入力するか、又は「参照」ボタンをクリックしてデータの保存先を指定します。
- ② 共有データを保存対象とする場合は「ドライブ設定」の「共有ドライブを含める」にチェックした上で保存対象に含めるドライブの「選択」欄にもチェックします。
- ③ 「詳細設定」で「保存開始時刻」を指定し「タイマーをセットする」にチェックを付けます。「保存日」ボタンを押し、「毎日」「毎週」「毎月」からスケジュールを設定します。
- ④ 「常駐 (アイコン化)」ボタンをクリックすると設定完了です。指定した時間に一括保存処理を実行します。
 ※ ①で指定した保存先に「TACTICSZAIMU_BACKUP」フォルダが作成されます。

【復元タブ】



①復元元フォルダ選択	直前に一括保存が行われた場所が初期値になっています。変更する場合は「参照」ボタンを押して復元元を指定します。※手入力での指定は可能です。
②復元元の種別	復元対象の一括保存データのデータ種別を「ローカルデータ」「共有データ」から選択します。
③全選択	全データの選択欄にチェックを付けます。
④全解除	全データの選択欄のチェックを外します。
⑤選択	復元対象データを個別に調整する場合に、クリックでチェックの ON/OFF を切り替えます。
⑥復元先の種別	復元先のデータフォルダを「ローカル」「共有」から選択します。「共有」を選択する場合は事前に共有ドライブの設定を行う必要があります。(P23～29 参照) 「確認」ボタンを押すと、指定共有フォルダの現在のデータリストが表示されます。
⑦元のフォルダ	ローカルデータをローカルフォルダへ、共有データを共有フォルダへ復元する場合に有効になります。復元元データ選択欄でチェックが付いている場合に指定可能です。元のフォルダに復元を実行すると、上書き確認画面が表示され、「コピーして置き換える」もしくは「コピーしない」を選択することができます。
⑧復元先選択	復元元データ選択欄で 1 データのみチェックが付いている場合に有効です。「復元先選択」ボタンを押すと、復元先種別(ローカル/共有)の現在のデータリストが表示されます。ローカルの場合は、未使用領域も表示され指定することができます。

⑨新規追加	復元先の種別が「共有」で、かつ復元元データ選択欄で複数のデータにチェックが付いている場合に有効です。復元するデータ数分の領域を共有フォルダへ作成し復元を行います。「追加フォルダ」欄にはフォルダ名を半角英数 6 桁以内で指定します。最終文字に数字は使用できません。「追加フォルダ」で指定した名称の後ろに、数字 4 桁のフォルダ番号が自動付番されます。
⑩復元	復元を実行します。
⑪終了	ツールを終了します。

注意事項

- ① ローカル/共有データ用ツールの復元元・復元先の関係は次のようになっています。

復元方法	復元元の種別	復元先の種別	復元先フォルダの処理
個別復元	ローカルデータ	ローカル	元のフォルダ名で上書き リストから復元先選択
		共有	リストから復元先選択
	共有データ	共有	元のフォルダ名で上書き リストから復元先選択
		共有	元のフォルダ名で上書き リストから復元先選択
複数復元	ローカルデータ	ローカル	元のフォルダ名で上書き
		共有	新規作成 (手入力+連番)
	共有データ	共有	元のフォルダ名で上書き
		共有	新規作成 (手入力+連番)

※共有データで一括保存したデータをローカルフォルダへ復元することはできません。

- ② サーバー用ツールの復元元・復元先の関係は次のようになっています。

復元方法	復元元の種別	復元先の種別	復元先フォルダの処理
個別復元	サーバーデータ	サーバー	元のフォルダ名で上書き リストから復元先選択
		共有	リストから復元先選択
	ローカルデータ	サーバー	リストから復元先選択
	共有データ	サーバー	リストから復元先選択
複数復元	サーバーデータ	サーバー	元のフォルダ名で上書き 新規作成 (手入力+連番)
		共有	新規作成 (手入力+連番)
	ローカルデータ	サーバー	新規作成 (手入力+連番)
	共有データ	サーバー	新規作成 (手入力+連番)

※サーバーデータで一括保存したデータをローカルフォルダへ復元することはできません。

⑥ TACTiCS 達人Ⅲからのデータコンバート

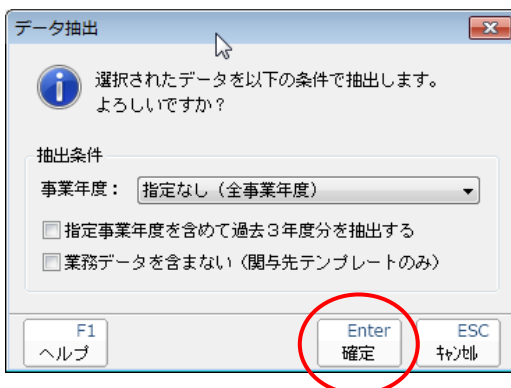
「TACTiCS 達人Ⅲ」(Ver3.1.0.0 以降)のデータはコンバート処理を行う事で TACTiCS 財務データに変換できます。コンバートプログラムは TACTiCS 財務と同時にインストールされます。

コンバート手順

■事前処理



① TACTiCS 達人Ⅲのデータ管理からコンバート対象データを選択し、「F4 データ抽出」ボタンを押します。



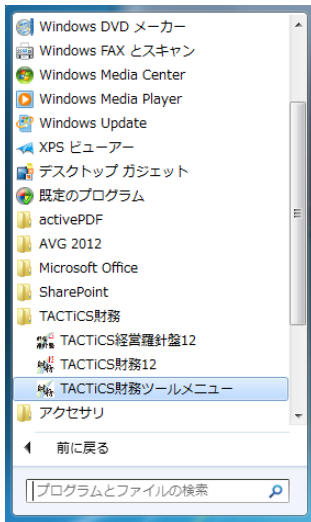
② 抽出条件でコンバートする対象事業年度または指定なし(全事業年度)を選択し、「確定」ボタンを押します。

※事業年度が多い場合には、「指定なし(全事業年度)」ではなく、「指定事業年度を含めて過去3年度分を抽出する」にチェックを付けて3年度分のみ作成されることを推奨します。なお、この設定は達人Ⅲが Ver3.1.1.0 になっている必要があります。

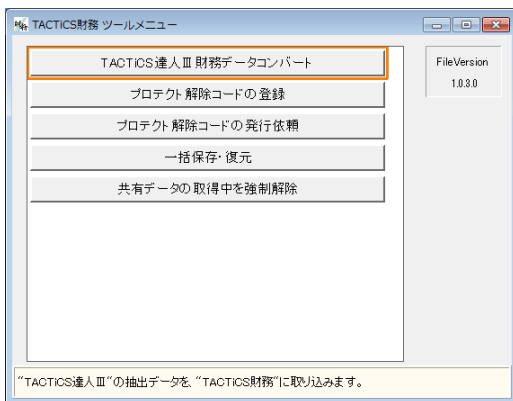
※「業務データを含まない」にはチェックを付けないください。

データ抽出ファイルを格納するフォルダを指定する画面が表示します。任意の場所を指定し実行してください。

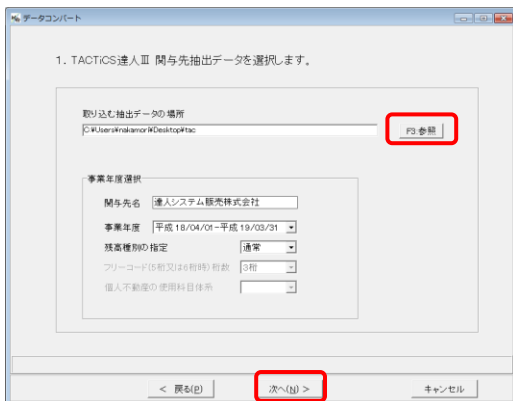
■コンバート処理



- ①スタート>すべてのプログラム>TACTiCS 財務
>TACTiCS 財務ツールメニューの順にクリックし
ます。



- ②TACTiCS 財務ツールメニューが表示します。
「TACTiCS 達人Ⅲ財務データコンバート」を押し
ます。



- ③コンバートデータの指定画面が表示します。「F3
参照」ボタンを押し、事前処理で作成したコンバ
ート対象データを作成したフォルダを選択します。
各情報を確認し「次へ」ボタンを押します。

■残高種別の指定

TACTiCS 達人Ⅲで登録した残高の種別を「通常」
「税抜」から選択します。

■フリーコード(5桁又は6桁時)桁数

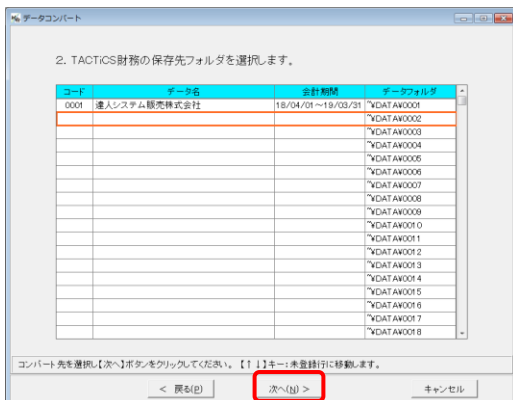
TACTiCS 達人Ⅲで5桁又は6桁のフリーコードを使用していた場合、桁数を3桁又は4桁から選択します。コンバートにより科目コードは標準コード体系に変換されます。

■個人不動産の使用科目体系

個人不動産データの場合、所得区分を「個人一般」「個人不動産」から選択します。TACTiCS 財務の使用科目体系が異なります。また、作成される青色申告決算書の雛形も異なります。

■コンバート対象データを作成したフォルダへはコンバート時に情報が書き込まれます。書き込みができないメディアや書き込み権限がないフォルダは使用できません。

■指定したコンバート対象データに前期、前々期データが含まれ、一定条件に合致した場合は、財務分析および過去明細用に**前期、前々期の仕訳もコンバート**されます。



④TACTiCS 財務のコンバート先データフォルダを指定し「次へ」ボタンを押します。

※コンバート先として**共有フォルダの指定はできません。**

※クライアントサーバー方式で運用している場合は、コンバート先はサーバーになります。直前に TACTiCS 財務を「クライアント(C/S)」でログインしておく必要があります。

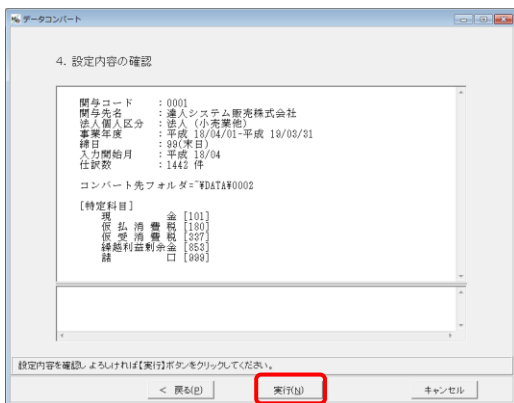


⑤特定科目の設定確認をし「次へ」ボタンを押します。ここでは左側にある科目が、右側のリストに存在しているか確認してください。

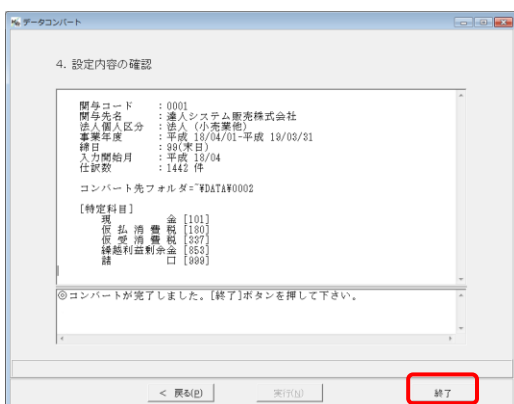
※特定科目は TACTiCS 財務で特別な扱いをしている科目です。必ず指定してください。

※法人データの場合は、現金・仮払消費税・仮受消費税・繰越利益剰余金・諸口が対象となります。

※個人データの場合は、現金・仮払消費税・事業主貸・仮受消費税・事業主借・元入金・諸口が対象となります。



⑥コンバートの設定内容が表示します。確認し「実行」ボタンを押します。コンバートが始まります。



⑦コンバート完了画面が表示します。「終了」ボタンを押します。

※「終了」ボタンを押すとデータコンバートプログラムが終了します。連続してコンバートを実行する場合は「戻る」ボタンを押してください。③へ戻ります。

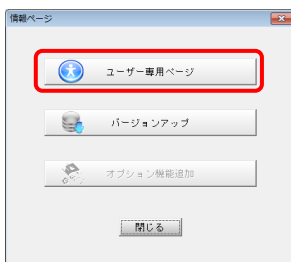
最新のコンバートプログラムをダウンロード

コンバートプログラムなどのツールプログラムは、TACTiCS 財務本体とは別に随時バージョンアップが行われています。TACTiCS 財務をバージョンアップすると最新のコンバートプログラムが組み込まれますが、今後コンバートプログラム単独でアップがあった場合に次の手順でインストールしてから行うようにしましょう。

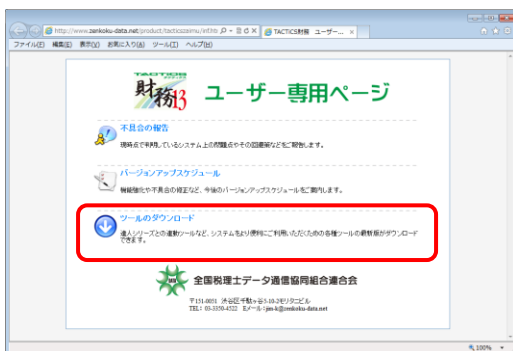
■ツールのダウンロード



①TACTiCS 財務のメニュー画面右側の「情報ページ」を押します。



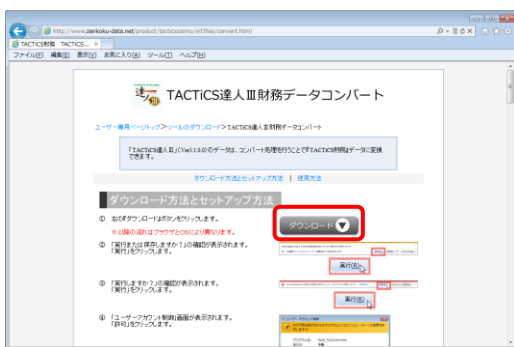
②「情報ページ」画面が表示されます。「ユーザー専用ページ」ボタンを押します。



③「ユーザー専用ページ」が表示されます。「ツールのダウンロード」をクリックします。

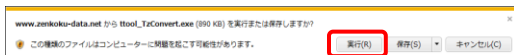


④「ツールのダウンロード」画面が表示されます。表示されているツールの中から「TACTiCS 達人Ⅲ 財務データコンバート」をクリックします。



⑤「TACTiCS 達人Ⅲ 財務データコンバートのダウンロード」画面が表示されます。「ダウンロード」ボタンを押します。

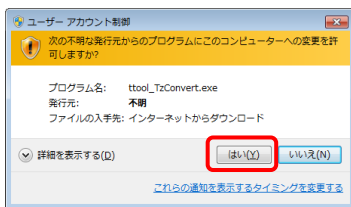
※以降の流れはブラウザとOSにより異なります。



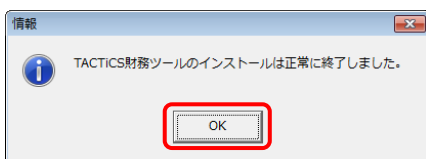
⑥「実行または保存しますか？」の確認が表示されます。「実行」ボタンを押します。



⑦「発行元の確認」画面が表示された場合は「実行」ボタンを押します。



⑧ユーザーアカウント制御画面が表示したら変更を許可してください。



⑨インストール完了の画面が表示します。「OK」ボタンを押します。

コンバートに関するその他の注意事項

◎警告について

ポイント

①指定したコンバート対象データに前期、前々期のデータが含まれているが、残高が一致しない場合は次のエラーメッセージを表示し過年度データは取り込まれません。達人Ⅲ側で残高を修正してからデータ抽出し直してください。

「前々期末残高と前期期首残高が一致しません。」

「前期末残高と期首残高が一致しません。」

②仕訳に旧消費税区分(対象外)が見つかった場合、次のエラーメッセージを表示しコンバートは中止されます。達人Ⅲ側で当該仕訳を修正もしくは削除してからデータ抽出し直してください。

「4.5%または、6.0%の消費税が含まれています。」

「当期仕訳に 4.5%または、6.0%の消費税が含まれています。」

③仕訳にTACTiCS 達人Ⅲの設定にない科目コードが見つかった場合、次のエラーメッセージを表示しコンバートは中止されます。科目コードが表示されますので、達人Ⅲの当期データで科目登録をした上でデータ抽出をし直してください。

「達人Ⅲの当期科目に登録されていません。」

◎エラーについて

エラーが生じた場合、コンバートは中止されます。

マイドキュメントにエラー情報が作成されます。エラー情報をご提供ください。

(siwake_err.log 及び tactics_convertererror.log)

◎勘定科目コード

3桁または4桁になります。

◎本支店コード

2桁になります。(01 からの連番で自動付番します。)

◎部門コード

2桁～4桁になります。(5桁の場合は 0001 からの連番で自動付番します。00 は共通部門の固定コードとして自動作成されます。)

◎個別コード

コンバート対象外です。

◎内訳コード

3桁または4桁になります。(5桁の場合は 0001 からの連番で自動付番します。)

◎連想摘要コード

TACTiCS 財務の摘要辞書に「連想摘要借方」「連想摘要貸方」「単一取引」「略号摘要」の見出しを作成し、それぞれの見出しの中に登録します。(1つの見出しに登録できる摘要の上限は 3000 です。)

単一取引辞書の金額はコンバート対象外です。

◎伝票番号

6桁以内でコンバートします。(7桁又は8桁はコンバート対象外です。)

◎自動税抜仕訳

仕訳間の関連情報は無くなります。

◎経理方式

税込・税抜の2択になります。(売上等の区分に応じ「消費税処理区分」を設定します。売上等・棚卸資産・固定資産・経費等の区分はありません。)

◎中間整理仕訳

TACTiCS 達人Ⅲの中間整理仕訳はコンバート対象外となります。

◎消費税申告区分

コンバートデータの消費税申告区分は全て「簡易課税」とします。その際の業種番号はTACTiCS 達人Ⅲの「業種」で判定します。

コンバート後そのままでは原則課税の消費税コードは入力できません。原則課税の消費税コードを入力する場合は TACTiCS 財務の【初期設定】－【基本設定】の消費税タブで消費税申告区分を原則課税に変更してください。消費税計算時に原則課税の消費税コードが混在する場合、総体を第4種として計算します。

◎消費税率・消費税番号

コンバート対象データの仕訳に 4.5%、6.0%の税率を持つ消費税番号が存在している場合、コンバート対象外となります。

固定資産譲渡の消費税番号は通常売上とします。

特定収入の消費税番号は課税対象外とします。

課税 A、課税 B の消費税番号は通常の 5.0%とします。

消費税番号 9999 は課税対象外とします。

消費税番号 9999 が付された仕訳は期末一括税抜仕訳と判断します。

消費税番号が付されていない仕訳は課税対象外とします。

消費税番号 8888 は区分未定とします。

不適切な消費税コードは区分未定とします。

◎自由コード

自由コード(700～799)は諸口勘定の補助科目とします。

ポイント

◎勘定科目の制御

TACTiCS 達人Ⅲの使用科目が TACTiCS 財務より多い場合、所定の勘定科目に補助科目として集約されます。コンバート後に補助科目を勘定科目へ置き換える機能、勘定科目を補助科目へ置き換える機能、及び補助科目を別の科目の補助科目へ変換する機能が用意されています。

補助科目が設定できない制約科目(仮受消費税・仮払消費税・繰越利益剰余金及び元入金)が、集約の親科目となる場合は、補助科目への変換集約ができません。制約科目に統合されます。

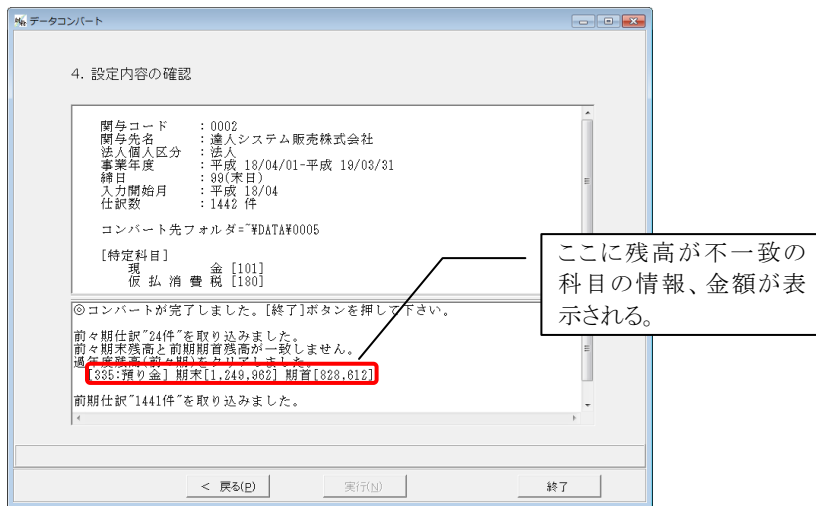
◎開始残高

TACTiCS 達人Ⅲでは、開始残高に部門と補助の関連がありません。TACTiCS 財務での開始残高は補助を重視し、補助の合計を科目残高とし、共通部門に科目残高をセットします。

エラーになるケース

①残高が連続していないケース

TACTiCS 達人Ⅲのデータコンバートにおいては、抽出データの中に前期・前々期のデータが存在していれば、それらも財務分析用のデータとして当期データの中に引き継がれる仕様になっています。しかし、その際に前々期末と前期期首、前期末と当期期首の残高が科目単位で一致しているかチェックされ、不一致の場合は次のようなエラーメッセージが表示され、古い年度のデータはコンバートされないようになっています。



考えられるケースとしては、

1. 期末に振替仕訳を入れずに翌期の期首で残高だけ訂正しているケース

【対処法】

エラーメッセージを参考に、TACTiCS 達人Ⅲで期末に適正な仕訳を入力し期末残高を調整してからデータ抽出し直してください。

2. 期首、期末整理前の残高を登録し期末整理仕訳だけを登録しているケース

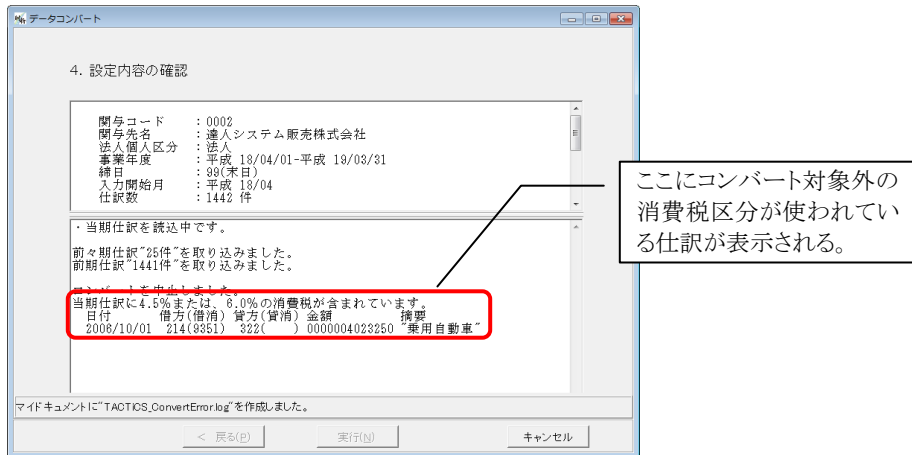
この例では期首残高と期末整理仕訳しかコンバートされないため、翌期期首の残高と一致しくなくなります。

【対処法】

エラーメッセージを参考に、TACTiCS 達人Ⅲで諸口勘定を使用し、期末残高が一致するように仕訳を入力してからデータ抽出し直してください。

②対象外の消費税率(4.5%、6.0%)が使われているケース

コンバート対象の TACTiCS 達人Ⅲのデータの中に、4.5%または6.0%の消費税率が使われていると、その事業年度のデータはコンバートされません。当期に存在している場合はコンバート自体が中止され、前期・前々期に存在している場合は当該事業年度がコンバートされないようになります。

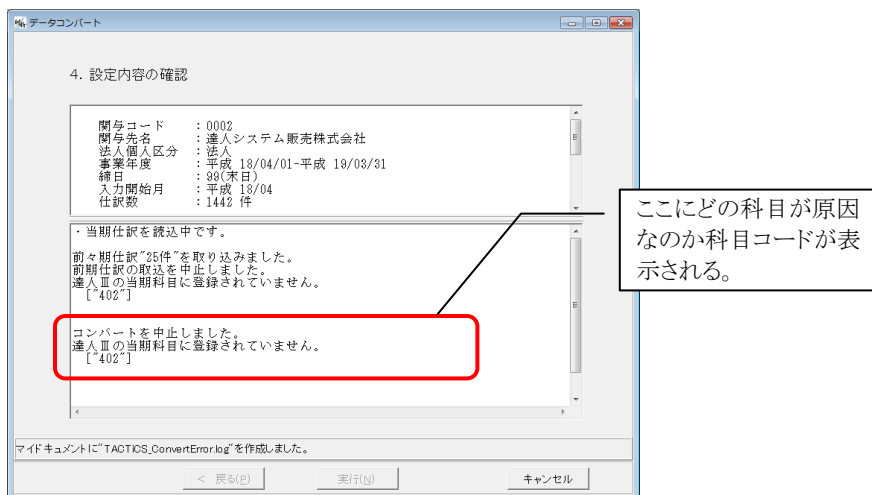


【対処法】

メッセージの仕訳を参考に、TACTiCS 達人Ⅲで消費税率を訂正してからデータ抽出し直してください。

③指定事業年度に登録されていない科目が過年度で使われているケース

指定事業年度の科目体系に、前期・前々期の仕訳データで使われている科目が登録されていない場合、コンバートが中止されます。

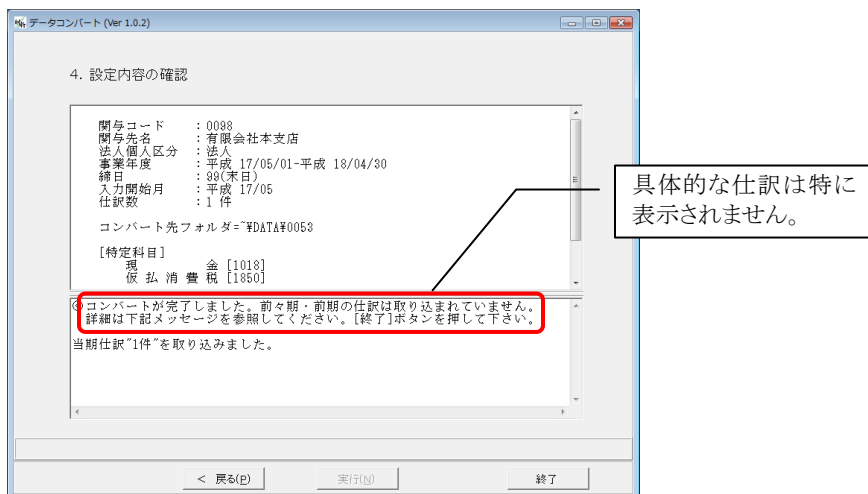


【対処法】

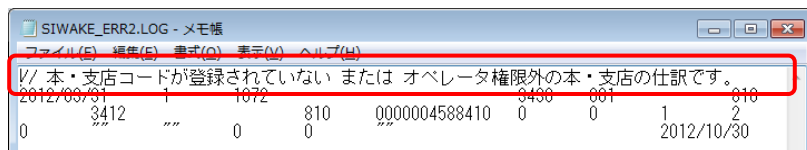
メッセージの科目コードを参考に、TACTiCS 達人Ⅲの「一般残高の登録」で科目の登録をし、データ抽出し直してください。

④本支店管理をしている場合で合併データに仕訳が登録されているケース

コンバート対象の TACTiCS 達人Ⅲの合併データの中に仕訳が登録されていると、その事業年度のデータはコンバートされません。当期に存在している場合はコンバート自体が中止され、前期・前々期に存在している場合は当該事業年度がコンバートされなくなります。



ドキュメントにはエラーログファイルが作成され、以下のようなメッセージが記録されます。



【対処法】

TACTiCS 達人Ⅲを起動し、合併データに登録されている仕訳を削除してからデータ抽出し直してください。

コンバート後の注意事項

①消費税申告区分「簡易課税」

コンバートデータの消費税申告区分は全て「簡易課税」となります。その際の業種番号は TACTiCS 達人Ⅲの「業種」で判定します。「原則課税」の場合には、【初期設定】-【基本設定】の消費税タブで、消費税申告区分を「原則課税」に変更する必要があります。



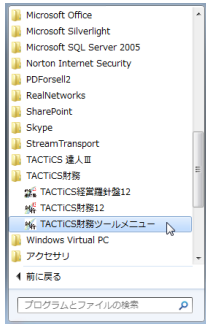
②集約科目の確認画面

コンバートにより勘定科目が集約された場合は、コンバートの最後に集約科目リストが表示されます。「ファイル保存」または「印刷」で集約結果情報を残しておき、科目設定調整時の確認リストとして役立てることができます。(このリストはコンバート完了時にしか表示されません。)

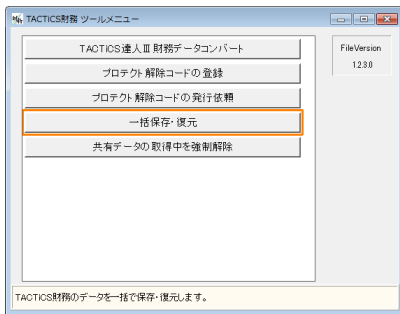


③コンバートデータを共有フォルダへ移行する手順

共有フォルダで管理している場合、コンバートを直接共有フォルダに対して行うことができませんので、一旦ローカルディスクへコンバートをすることになります。必要なデータのコンバートが終わったら、一括保存復元ツールを使うと、ローカルデータを共有フォルダへまとめて復元することが可能です。

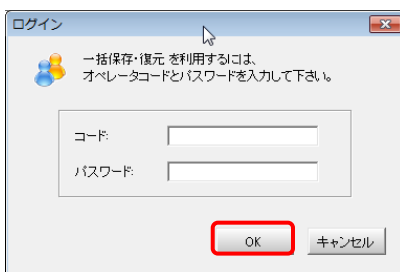


①Windows のスタート>すべてのプログラム>TACTiCS 財務>TACTiCS 財務ツールメニューを起動します。

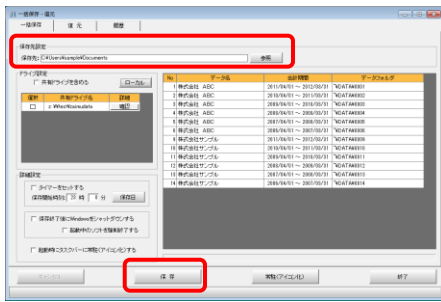


②TACTiCS 財務ツールメニュー画面が表示されます。「一括保存・復元」をクリックします。

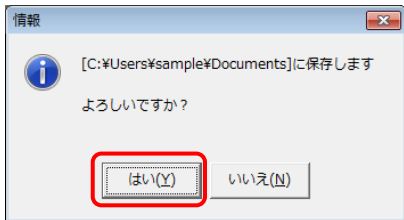
※TACTiCS 財務が起動している場合は終了してからツールを起動してください。



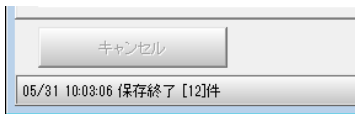
③ログイン画面が表示されます。TACTiCS 財務のログイン時に使用しているオペレータ情報を入力し「OK」をクリックします。



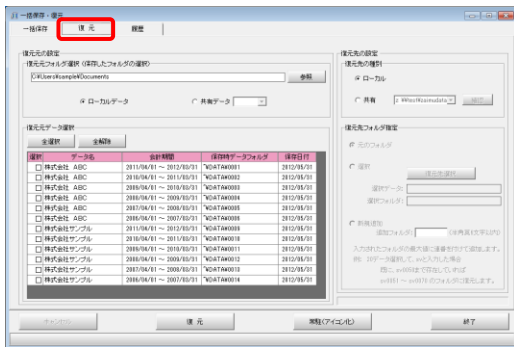
④一括保存・復元ツール画面が表示されます。まずはローカルデータの一括保存を行います。一括保存タブの「保存先」設定を行い「保存」ボタンをクリックします。



⑤確認画面が表示されます。「はい」を押します。保存処理が始まります。



⑥保存処理が完了すると、画面左下に情報が表示されます。これで一括保存は完了となります。



⑦次に共有フォルダへの復元処理を行います。復元タブへ切り替えます。

復元元の設定

復元元フォルダ選択 (保存したフォルダの選択)

C:\Users\Sample\Documents

ローカルデータ

復元元データ選択

全選択 全解除

選択	データ名	会計期間
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社 ABC	2011/04/01 ~ 2012/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社 ABC	2010/04/01 ~ 2011/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社 ABC	2009/04/01 ~ 2010/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社 ABC	2008/04/01 ~ 2009/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社 ABC	2007/04/01 ~ 2008/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社 ABC	2006/04/01 ~ 2007/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社サンプル	2011/04/01 ~ 2012/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社サンプル	2010/04/01 ~ 2011/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社サンプル	2009/04/01 ~ 2010/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社サンプル	2008/04/01 ~ 2009/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社サンプル	2007/04/01 ~ 2008/03
<input checked="" type="checkbox"/>	株式会社サンプル	2006/04/01 ~ 2007/03

⑧「復元元フォルダ選択」欄で一括保存をした場所を指定します。通常は前回保存時の情報が残っていますので変更する必要はありません。復元元データ種別では「ローカルデータ」を選択します。復元元データ選択欄の「全選択」ボタンを押し、全てのデータにチェックが付いたことを確認します。

復元先の設定

復元先の種別

ローカル

共有 z: \\test\zaimudata

確認

⑨「復元先の種別」欄を指定します。「共有」を選択し、共有ドライブを選択します。
※事前に共有ドライブの設定 (P72～P78) をしておく必要があります。

復元先フォルダ指定

元のフォルダ

選択

復元先選択

選択データ:

選択フォルダ:

新規追加

追加フォルダ: sv (半角英6文字以内)

入力されたフォルダの最大値に連番を付けて追加します。
例: 20データ選択して、svと入力した場合
閉: sv0050まで存在していれば
sv0051 ~ sv0070 のフォルダに復元します。

⑩「復元先フォルダ指定」を行います。「新規追加」のみ選択可能ですので、追加フォルダ欄にフォルダ名称の一部を設定します。
※ここでは sv と指定しています。復元時に自動作成されるフォルダは sv0001 から数字 4 桁部分が自動付番されます。

情報

選択したデータを共有 z ドライブ に sv0001 ~ sv0012 のフォルダを追加して復元します。
よろしいですか?

はい(Y) いいえ(N)

⑪確認画面が表示されます。「はい」を押します。復元処理が始まります。

キャンセル

05/31 10:04:18 復元終了 [12]件

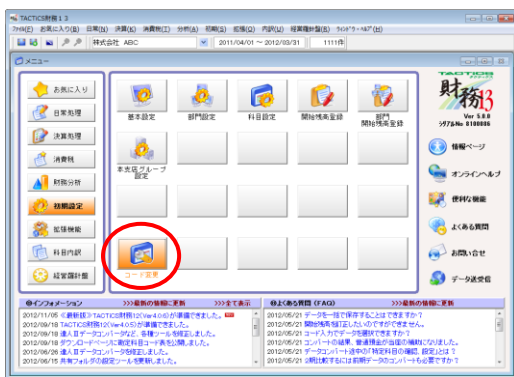
⑫復元処理が完了すると、画面左下に情報が表示されます。これで復元完了となります。

No.	会社	勘定種別	勘定名称	会計年度	会計期間	システムID	バージョン	共有
10001	株式会社 ABC	10	普通	2011/04/01	2011/03/31	ACTACTCS2011040001	1.00	共有
20001	株式会社 ABC	20	当座	2010/04/01	2011/03/31	ACTACTCS2010040002	1.00	共有
30001	株式会社 ABC	30	当座	2006/04/01	2010/03/31	ACTACTCS2006040003	1.00	共有
40001	株式会社 ABC	40	当座	2006/04/01	2008/03/31	ACTACTCS2006040004	1.00	共有
50001	株式会社 ABC	50	当座	2007/04/01	2008/03/31	ACTACTCS2007040005	1.00	共有
60001	株式会社 ABC	60	当座	2006/04/01	2007/03/31	ACTACTCS2006040006	1.00	共有
70001	株式会社 XYZ	70	当座	2011/04/01	2012/03/31	ACTACTCS2011040007	1.00	共有
80001	株式会社 XYZ	80	当座	2010/04/01	2011/03/31	ACTACTCS2010040008	1.00	共有
90001	株式会社 XYZ	90	当座	2006/04/01	2010/03/31	ACTACTCS2006040009	1.00	共有
100001	株式会社 XYZ	10	当座	2006/04/01	2008/03/31	ACTACTCS2006040010	1.00	共有
110001	株式会社 XYZ	11	当座	2011/04/01	2008/03/31	ACTACTCS2011040011	1.00	共有
120001	株式会社 XYZ	12	当座	2006/04/01	2007/03/31	ACTACTCS2006040012	1.00	共有

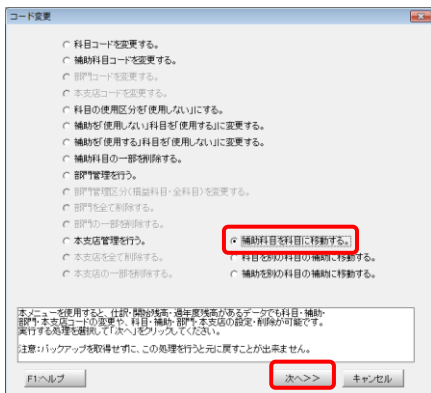
③復元後に TACTiCS 財務を起動し、共有データの選択画面を開くと、復元したデータが表示されるようになります。

④集約された補助科目を勘定科目へ変更する手順

TACTiCS 財務では科目の総数が減少しているため、TACTiCS 達人Ⅲの勘定科目をそのままコンバートすることができず、決められた範囲の科目が所定の勘定科目に補助科目として集約されます。これをコンバート後に勘定科目へ戻す機能が搭載されています。



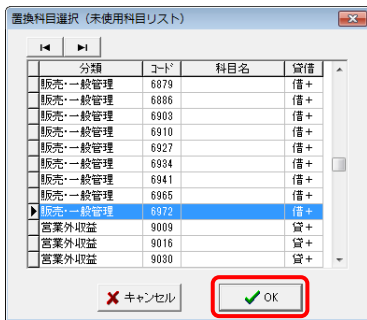
①【初期設定】-【コード変更】をクリックします。



②「コード変更」画面が表示されます。「補助科目を科目に移動する」を選択し、「次へ」ボタンを押します。



③補助科目が表示されます。勘定科目へ移動したい補助科目の「科目へ移動」欄を「する」に変更します。



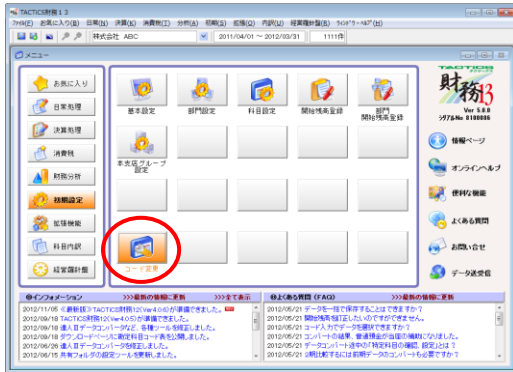
④自動的に「置換科目選択 (未使用科目リスト)」画面が表示されます。勘定科目として登録したいコードをクリックし「OK」ボタンを押します。
※科目の分類を超えて変換できます。実行前に分類に確認して下さい。



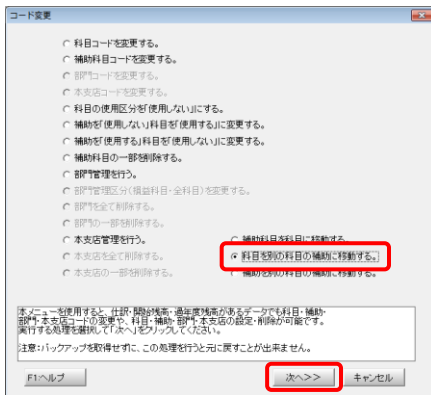
⑤元の画面に戻ります。「完了」ボタンを押します。
TACTiCS 財務のメニュー画面に戻れば科目の変換が完了します。

⑤科目を別の科目の補助に移動する手順

コンバートの結果、同じ性質の一部の科目が補助科目として集約されたため、全て補助科目として運用したい場合に調整する機能が搭載されています。コンバート後の調整以外にも、勘定科目が多くなってきたので補助科目化したい場合にも使用できます。「補助を別の科目の補助へ移動する」場合も同様の手順で行います。



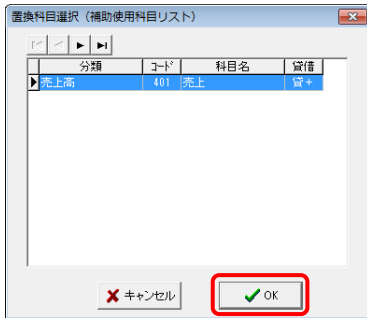
①【初期設定】-【コード変更】をクリックします。



②「コード変更」画面が表示されます。「科目を別の科目の補助に移動する」を選択し、「次へ」ボタンを押します。



③勘定科目が表示されます。移動したい科目の「補助へ移動」欄を「する」に変更します。



④自動的に「置換科目選択(補助使用科目リスト)」画面が表示されます。補助科目として登録したい科目をクリックし「OK」ボタンを押します。

※【初期設定】-【科目設定】で補助科目を使用する設定になっている勘定科目が表示されます。



⑤元の画面に戻ります。置換コード欄で補助コードを設定し、「完了」ボタンを押します。TACTiCS 財務のメニュー画面に戻れば科目の変換が完了します。

既に登録済みの補助コードを設定した場合には、「完了」ボタン押下後に警告メッセージが表示されます。



⑦クライアントサーバー方式の設定

クライアントサーバー方式で利用する場合に必要な設定を説明します。準備の流れとしては次のようになります。（「スタンドアロン」「データ共有方式」で利用する場合は、この作業は不要です。）

- ①サーバー機にデータベースをインストールする
- ②クライアント機に TACTiCS 財務をインストールする
- ③クライアント機で TACTiCS 財務を起動し、サーバー機の指定をする。

①サーバー機にデータベースをインストールする

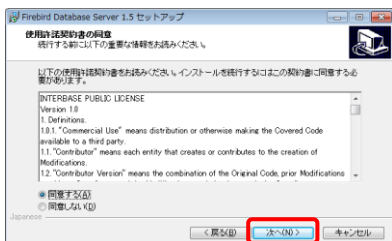
まず、サーバー OS を搭載したサーバー機に対しデータベースをインストールする必要があります。サーバー機に『USB キー』を挿し、P6 のセットアップメニューから実行します。



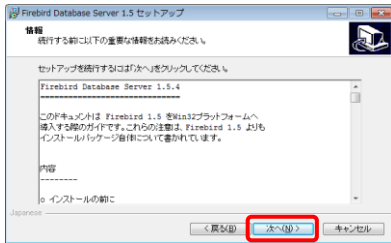
- ①セットアップメニューの「サーバーを利用する」にチェックを付け、「データベースインストール」ボタンを押します。



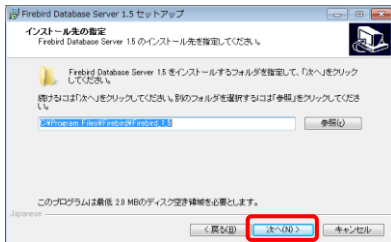
- ②「次へ」ボタンを押します。



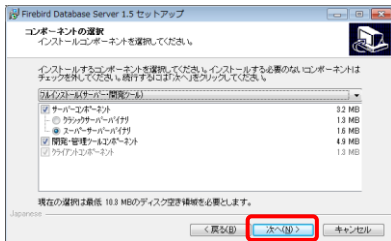
- ③「同意する」を選択し「次へ」ボタンを押します。



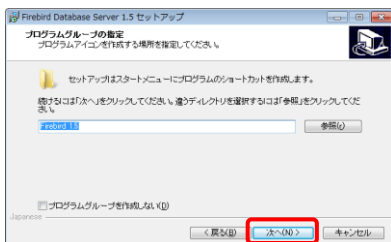
④「次へ」ボタンを押します。



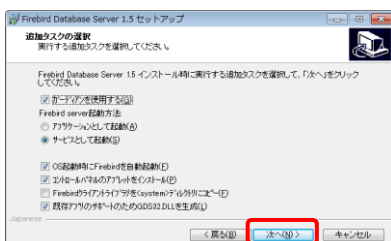
⑤インストール先を選択して「次へ」ボタンを押します。通常はインストール先を変更せずに進めます。



⑥「次へ」ボタンを押します。



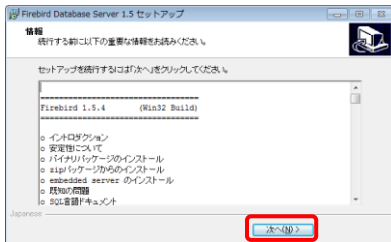
⑦プログラムアイコンの作成先を選択して「次へ」ボタンを押します。通常は設定を変更せずに進めます。



⑧設定を変更せずに「次へ」ボタンを押します。



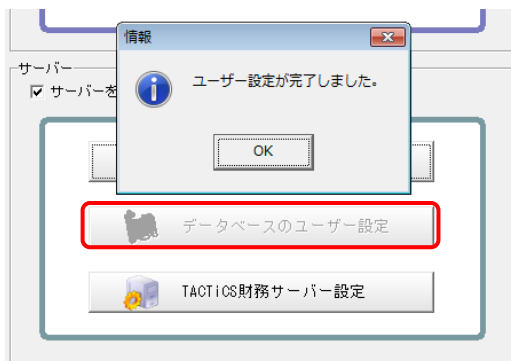
⑨設定を確認し「インストール」ボタンを押します。インストールが始まります。



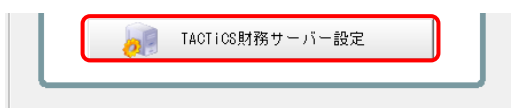
⑩「次へ」ボタンを押します。



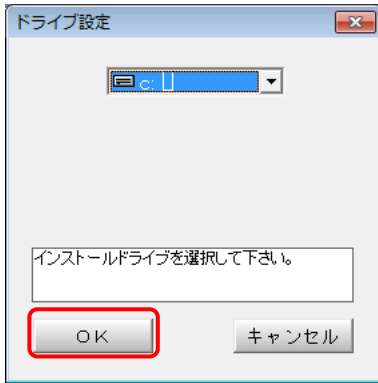
⑪インストール完了の画面が表示します。「完了」ボタンを押します。



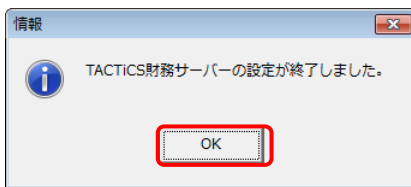
⑫セットアップメニューに戻ります。数秒待つと「データベースのユーザー設定」が自動的に行われ、ボタンがグレーになります。グレーにならない場合は「データベースのユーザー設定」ボタンを押します。



⑬「TACTiCS 財務サーバー設定」ボタンを押します。



- ⑭データを管理するサーバー機のドライブを選択し「OK」ボタンを押します。



- ⑮サーバーの設定完了画面が表示されます。「OK」ボタンを押します。以上でサーバー機の設定が完了します。

②クライアント機に TACTiCS 財務をインストールする

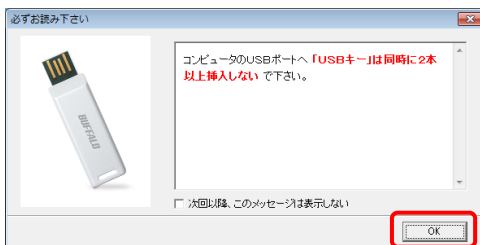
次に、クライアント機に TACTiCS 財務をインストールします。手順は P5～P8 を参照してください。

③クライアント機で TACTiCS 財務を起動し、サーバー機の指定をする

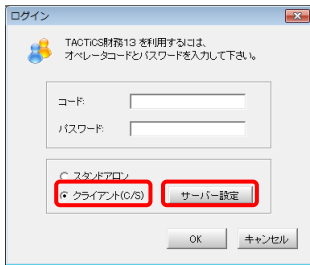
クライアント機へ TACTiCS 財務をインストールしたら、次に接続先のサーバー機を指定します。



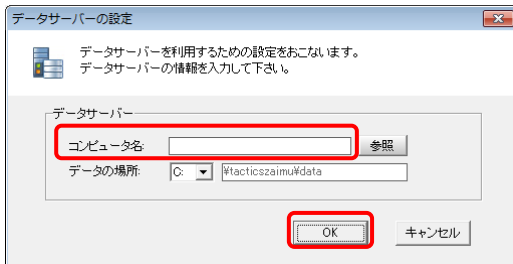
- ①デスクトップに作成されたショートカットアイコンをダブルクリックします。



- ②「必ずお読み下さい」画面が表示されます。「OK」ボタンを押します。
※「次回以降、このメッセージは表示しない」にチェックを付けてから「OK」ボタンを押すと、次回起動時からこの画面は表示されなくなります。



③「ログイン」画面が表示されます。「クライアント (C/S)」をクリックし、隣の「サーバー設定」ボタンを押します。



④「データサーバーの設定」画面が表示されます。「コンピュータ名」欄にサーバー機のコンピュータ名を指定し「OK」ボタンを押します。「参照」ボタンをクリックすると、LAN 上のコンピュータが表示されますので、その中からサーバー機を選択します。

※「コンピュータ名」欄に、サーバー機の IP アドレス、またはコンピュータ名を直接入力しても指定できます。

以上で、クライアントサーバー方式で運用する場合の、サーバー機及びクライアント機の準備が完了します。

⑧データ共有方式の設定

データ共有方式で利用する場合に必要な設定を説明します。準備の流れとしては次のようになります。(「スタンドアロン」「クライアントサーバー方式」で利用する場合は、この作業は不要です。)

- ①ソフトを使用するパソコンに TACTiCS 財務をインストールしツールを入手する
- ②LAN上のパソコンに共有フォルダを作成する
- ③各パソコンでネットワークドライブの割り当てを行う

データ共有方式とは

TACTiCS 財務の運用形態の一つ「データ共有方式」とは、専用のサーバー機を立てずに LAN 上のパソコンに共有フォルダを作り、その中にデータベースを作成・管理する方法です。共有フォルダを作るパソコンの OS は問いませんし、NAS などを利用することもできます。「クライアントサーバー方式」とは異なり、同時に同一データを複数のパソコンで処理することはできないよう制御されています。

「データ共有方式」は共有データを一旦ローカルディスク(自分のパソコンのハードディスク)へコピーし、TACTiCS 財務の処理が完了したら共有フォルダへ戻すという仕組みです。TACTiCS 財務では共有フォルダからローカルディスクへデータをコピーする作業を「**共有取得**」、処理完了後に共有フォルダへ戻す作業を「**共有保管**」と呼んでいます。

また、同時アクセスができないように、共有取得を行う時点で、共有フォルダの該当データに「使用中」の情報が残り、他のパソコンから共有取得ができないようになっています。

①クライアント機に TACTiCS 財務をインストールしツールを入手する

「データ共有方式」においては、ネットワーク上のパソコンに TACTiCS 財務のデータを管理するための共有フォルダを用意する必要があります。これは Windows の機能を使ってフォルダを新規作成し、共有設定を行えばできるのですが、TACTiCS 財務では共有フォルダを簡単に作成できるツールが用意されています。ここではそのツールを使った方法を説明します。

※共有フォルダには、そのフォルダへの「アクセス権」という細かな設定をすることにより、ネットワーク上の特定のパソコンだけ接続できるようにするなど、詳細に動作を決めることができます。そこまでの設定を希望する場合には、ツールを使うのではなく Windows 上で細かく設定する必要があります。

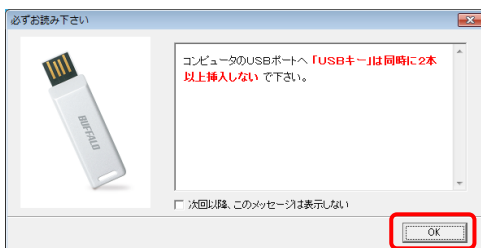
※ツールの入手にはインターネット環境が必要です。

ツールを入手するために、まずはクライアント機に TACTiCS 財務をインストールします。手順は P5～P8 を参照してください。インストールが終わったら、次の手順でツールをダウンロードします。

■ツールのダウンロード

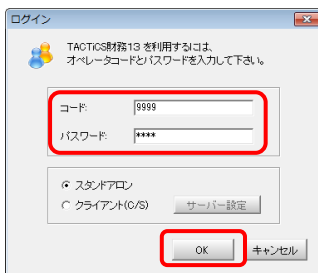


①デスクトップに作成されたショートカットアイコンをダブルクリックします。

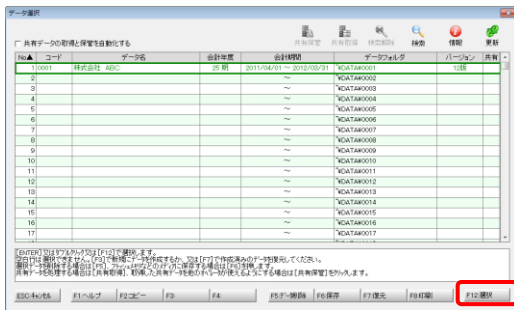


②「必ずお読み下さい」画面が表示されます。「OK」ボタンを押します。

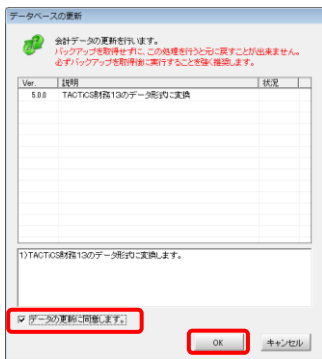
※「次回以降、このメッセージは表示しない」にチェックを付けてから「OK」ボタンを押すと、次回起動時からこの画面は表示されなくなります。



③「ログイン」画面が表示されます。「コード」と「パスワード」共に「9999」と入力し、「スタンドアロン」のまま「OK」ボタンを押します。



④TACTiCS 財務の「データ選択」画面が表示されます。一行目のサンプルデータ(株式会社ABC)が選択されているので、そのまま右下の「F12:選択」ボタンを押します。

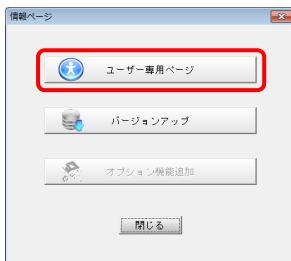


⑤「データベースの更新」画面が表示されます。左下の「データの更新に同意します」にチェックを付け、「OK」ボタンを押します。

※この画面は今回のタイミングで表示されるだけで、データ選択時に毎回表示される訳ではありません。



⑥TACTiCS 財務の「メニュー画面」が表示されます。画面右側の「情報ページ」を押します。



⑦「情報ページ」画面が表示されます。「ユーザー専用ページ」ボタンを押します。



⑧「ユーザー専用ページ」が表示されます。「ツールのダウンロード」をクリックします。



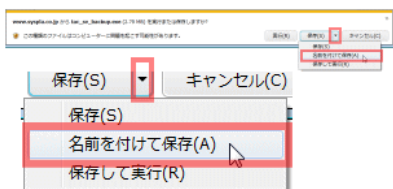
⑨「ツールのダウンロード」画面が表示されます。表示されているツールの中から「共有フォルダの設定」をクリックします。



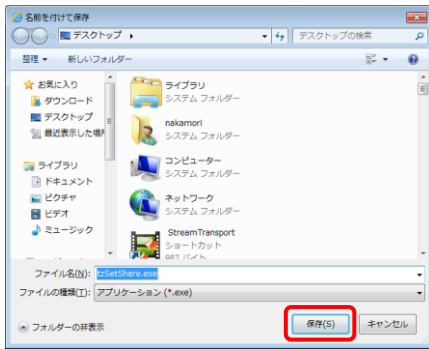
⑩「共有フォルダの設定ツールのダウンロード」画面が表示されます。ファイルを保存するUSBメモリなどのリムーバブルディスクを用意し、「ダウンロード」ボタンをクリックします。

※以降の流れはブラウザとOSにより異なります。

※TACTiCS 財務の USB キーを保存先にしても問題ありません。



⑪「実行または保存しますか?」の確認が表示されます。「名前を付けて保存」をクリックします。



⑩「名前を付けて保存」画面が表示されます。⑩で用意したリムーバブルディスクのドライブを指定し tzSetShare.exe を保存します。



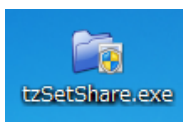
⑪「発行元の確認」画面が表示された場合は「×」をクリックし閉じます。

共有フォルダを作成するパソコンに、保存に使用したリムーバブルディスクを挿し tzSetShare.exe をデスクトップなど任意の場所へコピーします。以上で共有フォルダを作成する為の事前準備は完了です。

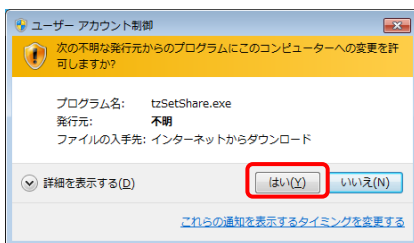
② LAN上のパソコンに共有フォルダを作成する

次に、データを管理するパソコンでツールを使用し、共有フォルダを作成する手順を説明します。

■ 共有フォルダの作成(ツールの使用)



①デスクトップなどにコピーした tzSetShare.exe をダブルクリックします。



②「ユーザーアカウント制御」が表示された場合は「はい」をクリックします。



③「共有フォルダの設定」画面が表示されます。「管理する場所」および「共有名」を確認し、「共有」ボタンをクリックします。

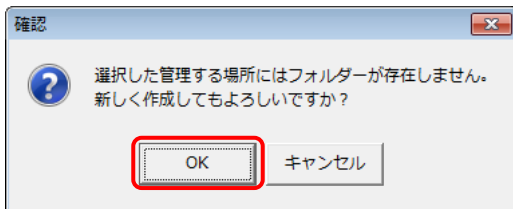
※初期値は C:\ZaimuData が設定されています。C ドライブ以外、もしくは別の名称で共有フォルダを作成する場合は「参照」ボタンをクリックし、新しいフォルダを作成してから実行します。

※「法人」と「個人」、「進行年度」と「過年度」のように共有フォルダを2つ以上作成する場合は「参照」ボタンをクリックし、必要なフォルダを作成し共有設定を行います。

※「共有名」を変更すれば実際のフォルダ名とは異なる名前を他のコンピュータに表示させることができます。通常は変更せずそのまま「共有」ボタンをクリックします。

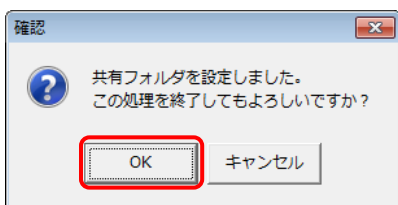
※「共有名」を変更する場合は以下の文字は使用できません。

"/ ¥ [] : | < > + = ; , ? *



④確認画面が表示されます。「OK」ボタンを押します。

※「参照」ボタンを押し、新しいフォルダを追加してから「共有」ボタンをクリックした場合は表示されません。



⑤共有フォルダ設定完了画面が表示されます。このまま終了する場合は「OK」ボタンを、続けて別の共有フォルダを設定する場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

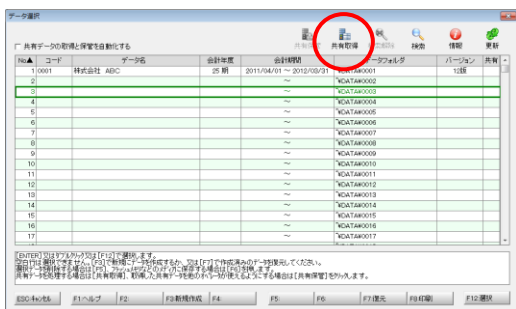
以上で、共有フォルダの作成が完了します。

③各パソコンでネットワークドライブの割り当てを行う

共有フォルダを作成しただけでは TACTiCS 財務で認識されません。認識させるためには、作成した共有フォルダをそれぞれのパソコンでどのドライブとして認識させるか、ドライブ文字(A～Z)を付ける必要があります。この設定を Windows では「ネットワークドライブの割り当て」と呼びます。

「ネットワークドライブの割り当て」は Windows 上で設定することももちろんできますが、TACTiCS 財務ではソフトの中で設定をする機能が付いています。(この機能は Ver4.0.3 で搭載されています。)

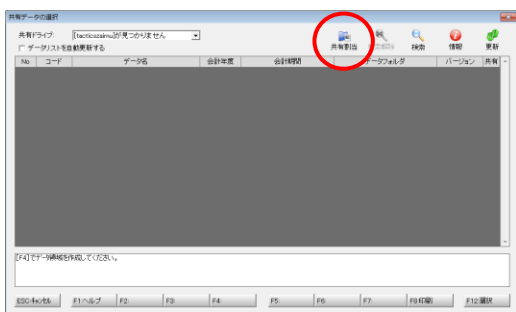
ここでは「ネットワークドライブの割り当て」の手順を説明します。(ソフトの起動方法は省略します。)



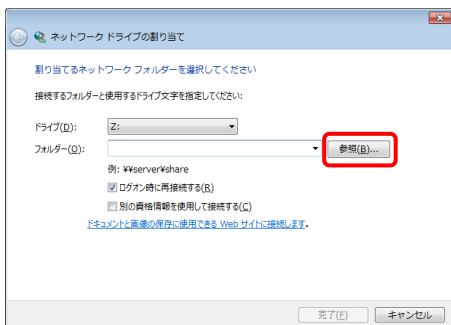
①データ選択画面で未使用領域を選択し、「共有取得」ボタンを押します。

※「共有データの取得と保管を自動化する」のチェックは外れている必要があります。

※ここではNo.3 の行を選択していますが、空いている行であればどこでも構いません。



②「共有データの選択画面」が表示されます。「共有割当」ボタンを押します。



③「ネットワークドライブの割り当て」画面が表示されます。「参照」ボタンを押します。



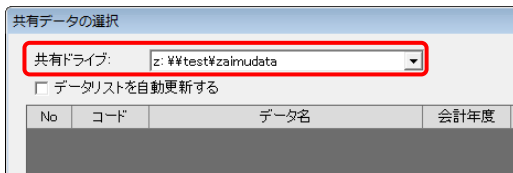
④「フォルダの参照」画面が表示されます。共有フォルダがあるパソコンの共有フォルダを選択し「OK」ボタンを押します。

※ここでは共有フォルダ名は「ZaimuData」としています。



⑤「ネットワークドライブの割り当て」画面に戻ります。ドライブ欄で割り当てるドライブを指定し「完了」ボタンを押します。

※「ログオン時に再接続する」にチェックを付けたまま実行します。



⑥設定が完了すると、「共有データの選択」画面の左上「共有ドライブ」欄に割り当てたドライブが表示されます。以上で「データ共有方式」を利用する為の設定が完了します。

共有データ方式のデータの呼び出し方

「スタンドアロン」で起動した場合に「共有データ」もデータ選択画面に呼び出して表示させないと選択してメニューには進めません。しかし、初めはサンプルデータがあるだけで、共有データは表示されていません。ここでは共有データの呼び出し方について説明します。

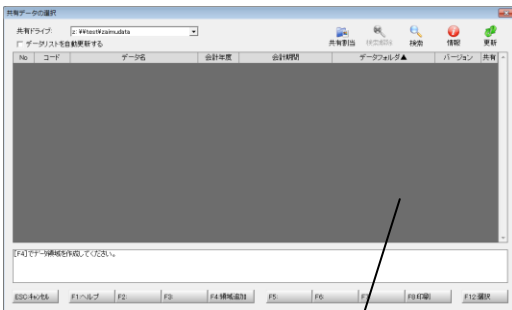
■ 共有データの選択画面を表示する



①データ選択画面で未使用領域を選択し、「共有取得」ボタンを押します。

※「共有データの取得と保管を自動化する」のチェックは外れている必要があります。

※ここではNo.7の行を選択しています。



この画面が P76 で作成した共有フォルダの中身だと捉えれば良い。

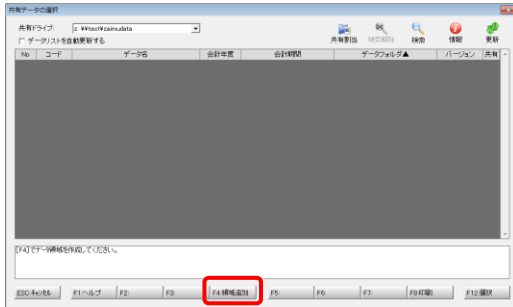
②「共有データの選択」画面が表示されます。左上の共有ドライブ欄に、ネットワークドライブの割り当てで設定したドライブが表示されます。ドライブを指定すると画面上に共有データリストが表示します。

※初めは何も表示されません。

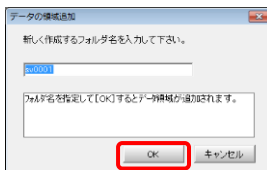
※既に共有フォルダにデータが存在している場合は、呼び出すデータを選択後、右下の「F12:選択」ボタンを押すことにより、最初のデータ選択画面に割り当てられます。

■ 共有フォルダに会計データを作成する為の領域(データフォルダ)を作成する

初めは共有フォルダの中身は空っぽです。ここでは会計データを作成する為のデータフォルダの作成手順を説明します。データフォルダがない事にはデータ選択画面に呼び出すことができません。



①「共有データの選択」画面で「F4:領域追加」ボタンを押します。



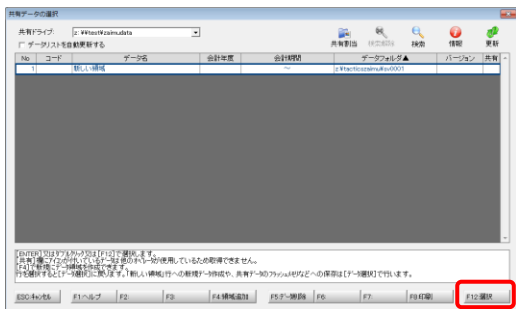
②データの領域追加画面が表示します。フォルダ名を半角英数 10 文字以内で指定し「OK」ボタンを押します。



③「共有データの選択」画面に「新しい領域」が一行追加されます。

■新しい領域を選択し、データ選択画面に割り当てる

作成されたデータフォルダに会計データを作成するには、データ選択画面に割り当てをする必要があります。共有データの選択画面から「新しい領域」を選択し、データ選択画面に戻る(割り当てを)することを「共有取得」と呼びます。新しい領域の場合は中身が何もありませんので、単に一行割り当てられるだけです。



①「共有データの選択」画面で「F12: 選択」ボタンを押します。



②データ選択画面に戻ります。初めに選択していた No.7 の行に「新しい領域」が割り当てられます。

これでデータ選択画面に共有フォルダが表示されました。後は割り当てられたフォルダに、「データの新規作成」や「データ復元」、「データのコピー」などをすれば共有フォルダにデータが作成されます。(「データの新規作成」については P16～P20 を参照して下さい。)

【共有フォルダへサンプルデータを復元した画面】



共有フォルダにデータが作成される。

共有データの運用方法

前ページまでで共有フォルダへデータフォルダを作成し、データ選択画面へ割り当てる方法を説明しましたが、これらの操作を繰り返して共有フォルダへデータを格納し、必要なデータをデータ選択画面へ割り当てておくことにより、「スタンドアロン」で起動した場合も共有データが多数表示される状態になります。処理したいデータで「共有取得」を実行し、完了したら「共有保管」をするという操作を繰り返して運用します。

■「共有保管」しているという目印

データ選択画面の右側に「共有」という列があります。🔒 マークが付いているデータは、そのままではデータを選択することができない状態、つまり「共有取得」ボタンを押してその時点の最新データを共有フォルダからコピーしてこないと選択できない状態を表しています。(この時、「共有取得」ができるかどうかは、他のパソコンで同じデータが取得されているかどうかによって変わります。)

🔓 マークが付いていないデータは、自分のパソコンで「共有取得中」であることを意味します。そのまま「F12:選択」ボタンを押せばメニューへ進めます。

No▲	コード	データ名	会計年度	会計期間	データフォルダ	バージョン	共有
1	0001	株式会社 ABC	25 期	2011/04/01 ~ 2012/03/31	z:#tacticszaimu#sv0001	12版	🔒
2	0001	株式会社 ABC	24 期	2010/04/01 ~ 2011/03/31	z:#tacticszaimu#sv0002	12版	🔒
3	0001	株式会社 ABC	23 期	2009/04/01 ~ 2010/03/31	z:#tacticszaimu#sv0003	12版	🔒
4	0001	株式会社 ABC	22 期	2008/04/01 ~ 2009/03/31	z:#tacticszaimu#sv0004	12版	🔓
5	0001	株式会社 ABC	21 期	2007/04/01 ~ 2008/03/31	z:#tacticszaimu#sv0005	12版	🔓
6				~	?#DATA#0006		🔓

ポイント

- 共有データについては、この「共有取得」と「共有保管」を繰り返して運用します。「共有取得」できるかは他のパソコンでの取得状況に影響されます。逆に言えば、自分が「共有保管」をしなければ、他のパソコンでは処理できない状態のままであるということです
- 「共有保管」をしても、データ選択から共有データが消える訳ではありません。次回起動時もそのまま残っているので、「共有取得」を実行すれば良いです。
- 「共有保管」をし忘れてしまう可能性があるため、必要な共有データの割り当てが済んだら、データ選択画面の「共有データの取得と保管を自動化する」にチェックを付けておくと、TACTICS 財務終了時に自動的に共有保管を行うようになります。

⑨バージョンアップ

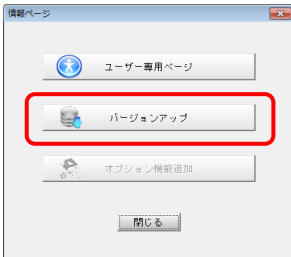
TACTiCS 財務はプログラムのバージョンアップがあると、WEBメニューを使い最新プログラムをインターネット経由でダウンロードしバージョンアップを行うことができます。日常使う PC でネット環境がなくても、別の PC でネット接続ができればバージョンアップは可能です。また、ネット環境が全くない場合には CD 版でバージョンアッププログラムを提供致します(有償)。

USB キーを挿入し TACTiCS 財務起動後に以下の手順で行います。

※ここでは同年度内でのバージョンアップ(リビジョンアップ)の流れを説明します。

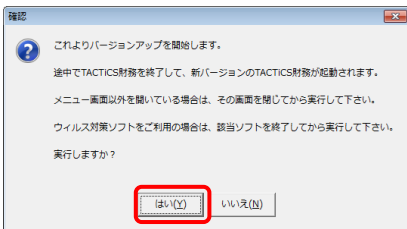


- ①TACTiCS 財務メニュー画面まで進み、右上の「情報ページ」をクリックします。



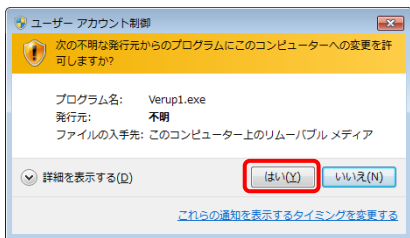
- ②「情報ページ」画面が表示されます。「バージョンアップ」をクリックします。

※OS が WindowsXP の場合、制限付きアカウントでログオンした状態ではバージョンアップはできません。必ず管理者権限でログオンしてください。

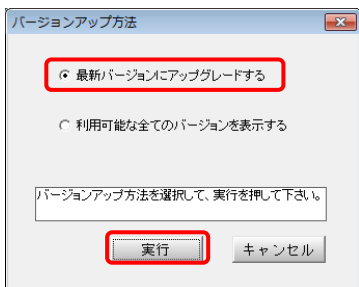


- ③「確認」画面が表示されます。「はい」をクリックします。

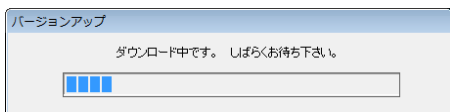
※「はい」をクリックしても次の画面が表示されない場合は一旦プログラムを終了して①の作業からやり直してください。



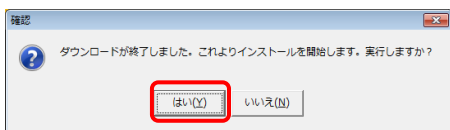
- ④「ユーザーアカウント制御」画面が表示される場合は「はい」ボタンを押します。



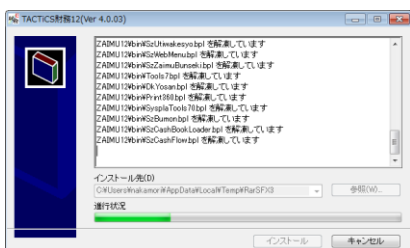
- ⑤「バージョンアップ方法」画面が表示されます。「最新バージョンにアップグレードする」を選んで「実行」ボタンを押します。



- ⑥ダウンロードが始まります。そのまま暫くお待ち下さい。

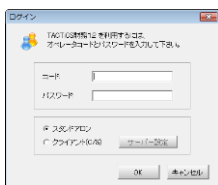


- ⑦「確認」画面が表示されます。「はい」ボタンを押すとインストール処理が開始されます。

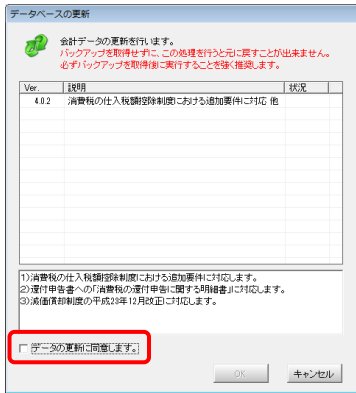


- ⑧インストール中です。そのまましばらくお待ちください。

※TACTICS 財務 12 から TACTICS 財務 13 へのメジャーバージョンアップの時は、P7 の③～P8 の手順でインストールを進めます。



- ⑨自動的に TACTICS 財務12 が起動し、「ログイン」画面が開きます。この時点でプログラムのバージョンアップは完了しています。コードとパスワードを入力して「OK」をクリックします。



⑩今までに選択しないで、Ver4.0.6 へのアップ後に初めて選択したデータについては「データベースの更新」画面が表示されます。

「データの更新に同意します。」にチェックして「OK」をクリックします。

※データベースの更新処理はデータごとに一度行う必要があります。更新後はこの画面は表示されなくなります。

※データベースの更新は、バージョンアップ時に毎回必要とされる訳ではありません。



⑪メニュー画面右上のバージョン表記が Ver4.0.6 に変更されています。

バージョンアップに関する注意事項

※下記説明では全てCドライブへインストールしている前提で記載しています。

- インターネット上のサーバーへ接続する為、セキュリティのファイアウォール機能によって接続が遮断される場合があります。その場合は一時的にファイアウォール機能を停止してから接続するか、またはファイアウォール側で以下のファイルを例外プログラムとして接続許可の登録をした上でバージョンアップ作業を行ってください。

- ・C:\Program Files\TACTiCS\ZAI\ZAIMU13\bin\ttzaimu5.exe
- ・USB キーのドライブ\TACTiCS\Verup1.exe

- セキュリティの機能によっては、バージョンアップ後のプログラム起動時に検疫によりファイルが隔離される場合があります。その場合にはセキュリティ機能側で隔離されたファイルを元に戻しチェック対象から外すと共に、下記フォルダを今後のチェック対象から除外する設定にしておきましょう。

- ・C:\ProgramFiles\TACTiCS\ZAI

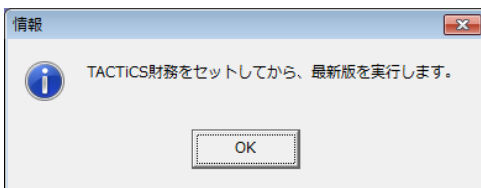
- 最新プログラムを USB キーへダウンロードした後に、ネット環境がない PC でバージョンアップを行うには、



USB キーを挿し、その中の Setups.exe を実行しセットアップメニュー画面を表示させた上で、「TACTiCS 財務インストール」ボタンをクリックします。バージョン選択画面が表示されるので、先頭の「TACTiCS 財務 12 4.0.06」を選択し「OK」ボタンをクリックするとバージョンアップが始まります。

※TACTiCS 財務 13 へのメジャーバージョンアップは、全ての USB キーをネット環境のある PC でバージョンアップ処理をする必要があります。

- ダウンロード後の USB キーを使って別の PC へ新規にインストールする場合は、前項と同様 USB キーの Setups.exe を実行しセットアップメニュー画面を表示させた上で、「TACTiCS 財務インストール」ボタンをクリ



ックし、先頭の「TACTiCS 財務 12 4.0.06」を選択し「OK」ボタンをクリックします。情報画面が表示されますので「OK」ボタンをクリックすると、まず Ver4.0.0 のインストールが始まり、その後自動的に Ver4.0.6 へのアップが行われます。

⑩ 達人連動コンポーネント

TACTiCS 財務では、税務申告ソリューション「達人シリーズ」へデータを連動する達人連動コンポーネントが公開されています。連動対象は以下のとおりです。

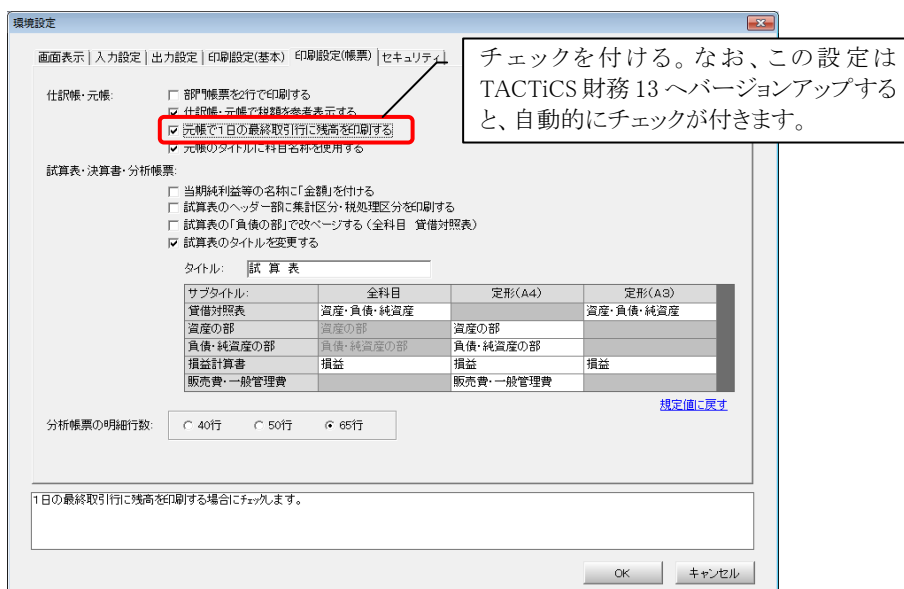
①TACTiCS 財務→「法人税の達人」	TACTiCS 財務で作成された決算書データを取り込み、決算書を作成することができます。 ※作成した決算書データは法人税の電子申告に活用可能です。
②TACTiCS 財務→「内訳概況書の達人」	TACTiCS 財務の勘定科目名、補助科目名、決算修正後の科目残高、補助科目残高を取り込み、科目内訳明細書を作成することができます。また、TACTiCS 財務の法人事業概況書(資料)のデータを取り込み、法人事業概況説明書を作成することができます。
③TACTiCS 財務→「所得税の達人」	TACTiCS 財務の青色申告決算書データを取り込み、青色申告決算書を作成することができます。 ※「損益計算書」「月別売上(収入)金額及び仕入金額」「貸借対照表」「製造原価の計算」を取り込むことができます。
④TACTiCS 財務→「消費税の達人」	TACTiCS 財務で計算した、課税売上、非課税売上、課税仕入、非課税仕入などの集計金額を取り込み、消費税申告書を作成することができます。 ※集計自体は TACTiCS 財務が行うため、連動項目も TACTiCS 財務の集計結果に準じます。

公開時期は例年1月中旬から下旬頃になります。また、法改正により随時連動コンポーネントの修正を行います。TACTiCS 財務 13 をご利用の場合は、連動コンポーネントも TACTiCS 財務 13 用を使用する必要があります。

⑪ FAQ

Q 総勘定元帳を印刷すると、残高が各行に印刷されます。その日の最後にだけ残高が印刷されるようにはできないでしょうか？

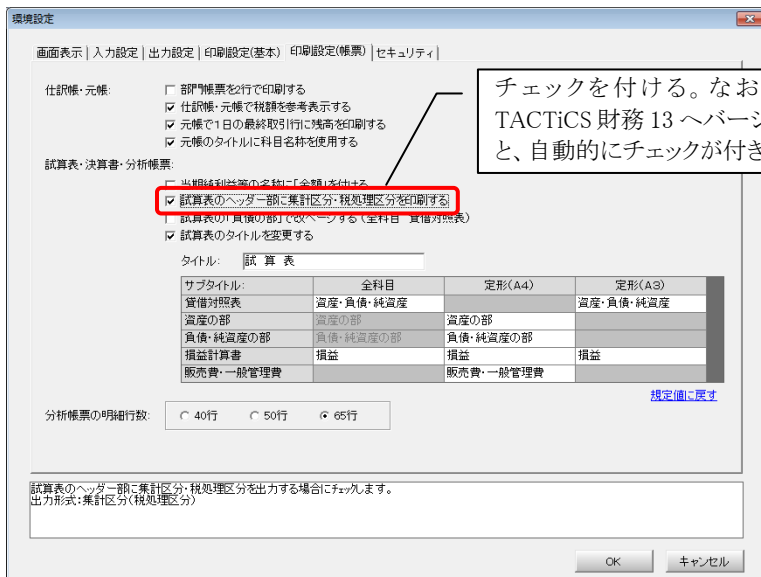
A 【ファイル】－【環境設定を開く】の印刷設定(帳票)タブで、「元帳で1日の最終取引行に残高を印刷する」にチェックを付けると、その日の最後にだけ残高が印刷されるようになります。



110401	401	売	上	114		810	1,000,000		
110401	401	売	上	114		810	150,000		
110401	131	普通預金		810	現金引き出し	810	1,500,000		5,758,599
	001	東日本銀行							
110402	402	売	上	810	現金売上	810	8,000		
110402	311	借入金		810	借り入れ	810	462,806		
110402	687	支払手数料		511	手数料	810		462,806	
110402	671	通信費		511	郵便代	810		800	5,763,799

Q 合計残高試算表に「税込」「税抜」を印刷することはできませんか？

A 【ファイル】－【環境設定を開く】の印刷設定（帳票）タブで、「試算表のヘッダ一部に集計区分・税処理区分を印刷する」にチェックを付けると印刷されるようになります。



試算表 (損益) 累計 (税抜)

株式会社 ABC

(期首から12ヶ月)
自 2011年 4月 1日～至 2012年 3月31日 (決算)

勘定科目		前残高	借方	貸方	残高	構成比
売	上 401	0	0	216,470,068	216,470,068	81.3
	上 402	0	0	20,639,319	20,639,319	8.7
上						
高						
売	上 返品 値引	441	0	0	0	0.0
純	売 上 高	0	0	237,109,375	237,109,375	100.0

Q 決算書に印字される貸倒引当金の金額をマイナスで出すことはできますか？

商 品	17,348,829	預 り 金	430,010
仮 払 消 費 税	16,878,924	仮 受 金	25,249,117
仮 払 金	4,750,000	仮 受 消 費 税	23,004,481
貸 付 金	11,798,000		
貸 倒 引 当 金	4,186,220	負 債 の 部 合 計	128,454,974
		純 資 産 の 部	

A 【初期設定】-【科目設定】の「貸借区分」の設定で調整することが可能です。

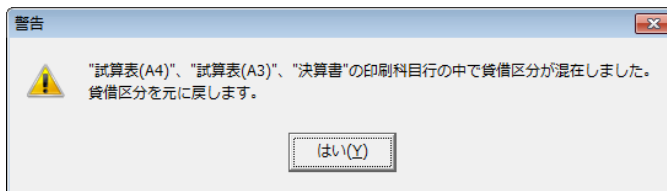
① リストから科目を選択する。

② 貸借区分を変更する。(今回の例では借+へ変更する)

③ 登録ボタンを押す。

商 品	17,348,829	預 り 金	430,010
仮 払 消 費 税	16,878,924	仮 受 金	25,249,117
仮 払 金	4,750,000	仮 受 消 費 税	23,004,481
貸 付 金	11,798,000		
貸 倒 引 当 金	△4,186,220	負 債 の 部 合 計	128,454,974
		純 資 産 の 部	

「登録」ボタンを押した時に、次のメッセージが出る場合は、先に印刷設定タブで試算表(A4)・試算表(A3)・決算書の設定を変更する必要があります。



試算表や決算書の印刷科目の並び順、集約設定、印字科目名称の設定を行う印刷設定タブで、一行に複数科目が割り当てられている場合は、貸借区分を混在させることができない仕様になっています。この例では貸倒引当金に割り当てられている「198」と「199」の科目の貸借区分が両方とも「借-」である状態から、「198」だけを「借+」へ変更することができないという事を表します。



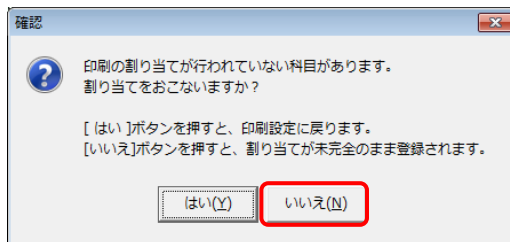
この場合の対処法は、単独の割り当てにすることによって貸借区分の変更が可能になるので、印刷設定画面で「199」を解除してから「198」の貸借区分を変更します。



DeleteキーやBackspaceキーで「199」の割り当てを解除する。これを「試算表(定形A4)」「試算表(定形A3)」「決算書」で全て行う。

雛形を切り替える時に確認メッセージが表示される場合は、「いいえ」を押して進めます。

全ての雛形で単独割当に変更したら科目・補助設定タブをクリックし、貸借区分を変更します。



Q 残高だけ登録して決算書を作成することはできますか？

A 期中開始の設定にすることによって作成することが可能です。

【初期設定】－【基本設定】の「入力開始月」の設定が期首月の場合は、【初期設定】－【開始残高登録】および【部門開始残高登録】でB/S科目しか残高登録ができない仕様になっております。

基本設定

名称・期間	勘定科目名	製造原価	消費税	部門	本・支店
コード					
データ区分	法人				
会社名	株式会社ABC				
フリガナ	カブシキガイシャABC				
郵便番号					
住所					
電話					
会計年度	1 期				
会計期間	2012 年 4 月 1 日 から 2013 年 3 月 31 日				
締日	99 (末日=99)				
入力開始月	12年04月				

開始残高登録

科目名	コード	貸借	開始残高	借方金額	貸方金額
現金	101	借+	0	0	0
小口現金	108	借+	0	0	0
当座預金	111	借+	0	0	0
普通預金	131	借+	0	0	0
通知預金	137	借+	0	0	0
納税預金	139	借+	0	0	0
定期預金	141	借+	0	0	0
受取手形	151	借+	0	0	0
売掛金	152	借+	0	0	0

入力開始月が期首月の設定の場合は

開始残高登録では B/S 科目しか表示されない。

この設定のままではP/L科目の残高を登録することができませんので、【初期設定】－【基本設定】で入力開始月を期首月以外に設定します。途中の月であれば何月でも構いません。

基本設定

名称・期間	勘定科目名	製造原価	消費税	部門	本・支店
コード					
データ区分	法人				
会社名	株式会社ABC				
フリガナ	カブシキガイシャABC				
郵便番号					
住所					
電話					
会計年度	1 期				
会計期間	2012 年 4 月 1 日 から 2013 年 3 月 31 日				
締日	99 (末日=99)				
入力開始月	13年06月				

入力開始月が期中月に設定すると

開始残高登録

科目名	コード	貸借	開始残高	借方金額	貸方金額
売上	401	貸+	0	0	0
売上返品・債引	441	貸+	0	0	0
顧客商品損引戻	457	借+	0	0	0
仕入	452	借+	0	0	0
外注費	456	借+	0	0	0

タブが表示され P/L 科目の残高も登録できるようになる。

これで残高を登録して決算書を作成することができます。期末整理仕訳の入力を行う場合には、同様の設定にして期末整理前の残高を登録してください。

また、期中開始にした場合の株主資本等変動計算書の作成は、【財務分析】－【過年度残高登録】の前期決算月の列(通期・下・4Q 決算列)に前期末残高を登録することによって作成できるようになります。

過年度残高登録

科目名	コード	12年 1月	12年 2月	12年 3月	通期・下・4Q決算	12年 4月	12年 5月	12年 6月
現金	101	0	0	0	0	0	0	0
小口現金	108	0	0	0	0	0	0	0
当座預金	111	0	0	0	0	0	0	0
普通預金	131	0	0	0	0	0	0	0
通知預金	137	0	0	0	0	0	0	0
納税預金	139	0	0	0	0	0	0	0

前期決算月の列に残高を登録します。

過年度期首 仕訳クリア 仕訳取込 欄に移動



TACTICS 達人Ⅲからコンバートをしました、その後に当期の期首残高を訂正したいのできません。



前期・前々期の仕訳データが取り込まれている場合は【初期設定】－【開始残高登録】または【部門開始残高登録】での残高訂正ができません。これは過年度仕訳による集計結果を最優先するという考え方によるものです。言い換えれば過年度明細が当期データの中から削除されれば、期首残高を訂正することができるようになります。（自動的に前期末残高も変更されます。）

TACTICS 達人Ⅲからのコンバートでは、過年度明細もコンバートされる仕組みですので、基本的にはコンバート後は残高の訂正をすることはできない状態になっています。

過年度仕訳がある場合、【初期設定】－【開始残高登録】を開くと、全体的にグレーで表示され、残高を訂正することができません。

科目名	コード	貸借	開始残高	借方金額	貸方金額
現金	101	借+	565,536	565,536	
当座預金	111	借+	4,554,448	4,554,448	
東日本銀行	001	借+	0	0	
城南信託銀行	002	借+	0	0	
UFF銀行	003	借+	0	0	
その他	999	借+	4,554,448	4,554,448	

【財務分析】－【過年度残高登録】を開き、「仕訳クリア」ボタンを使うと過年度明細を削除できます。

科目名	コード	04年 4月	04年 5月	04年 6月	10決算	04年 7月	04年 8月	04年 9月
現金	101	565,536	730,081	730,081	730,081	730,081	730,081	730,081
当座預金	111	5,165,737	5,165,737	5,165,737	5,165,737	5,165,737	5,165,737	5,165,737

過年度明細が削除されると、【初期設定】－【開始残高登録】で残高の訂正ができるようになります。

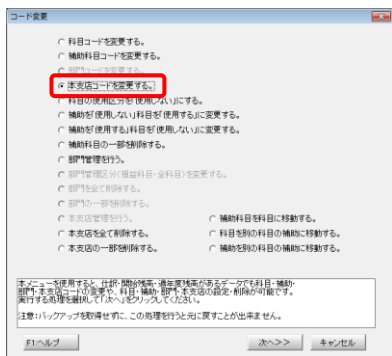
科目名	コード	貸借	開始残高	借方金額	貸方金額
現金	101	借+	565,536	565,536	
当座預金	111	借+	4,554,448	4,554,448	
東日本銀行	001	借+	0	0	
城南信託銀行	002	借+	0	0	
UFF銀行	003	借+	0	0	
その他	999	借+	4,554,448	4,554,448	



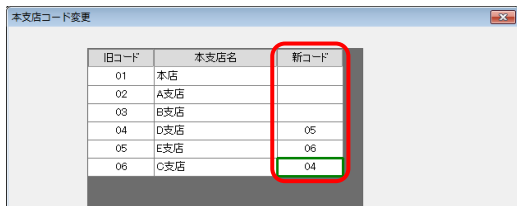
TACTICS 達人Ⅲから本支店データをコンバートしました。支店コードの設定が達人Ⅲの時と少し変わっている箇所があります。



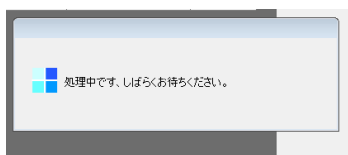
コンバートでは本支店コードを 01 から順番に自動付番していますが、TACTICS 達人Ⅲの本支店情報の登録の順番によって起こり得る現象です。コンバート後に【初期設定】-【コード変更】の「本支店コードを変更する」の機能を使用し、本支店コードの設定を調整することが可能です。



①【初期設定】-【コード変更】を開き、「本支店コードを変更する」をクリックして「次へ」を押します。



②本支店コード指定画面が表示されます。新コード欄に入力し、「完了」をクリックします。



③処理が始まります。仕訳数、支店数、部門数など
の設定によって処理時間が長くなる場合があります。
メニュー画面に戻れば完了です。



④【初期設定】-【基本設定】の本支店タブで変更後の設定を確認できます。

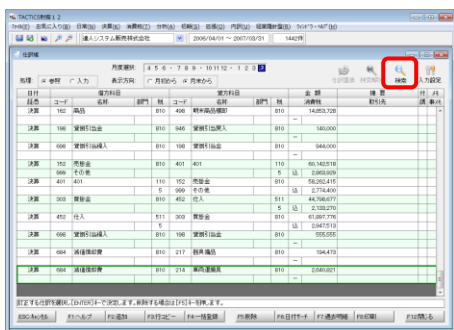
Q 仕訳入力で消費税コードを間違えて進めてしまいました。まとめて修正することはできますか？

A 【日常処理】-【仕訳帳】で、修正したい仕訳を検索した後に一括で変更する事が可能です。

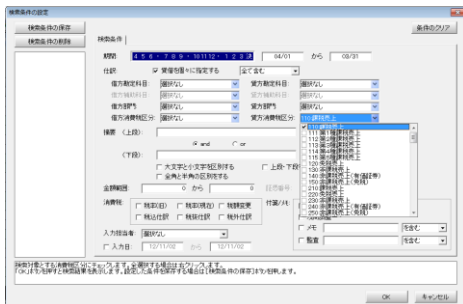


①事前に【初期設定】-【基本設定】の消費税タブで、消費税申告区分が正しいか確認します。

※ここでは原則課税で入力した仕訳データを、簡易課税(第一種)へ変更する手順を説明します。

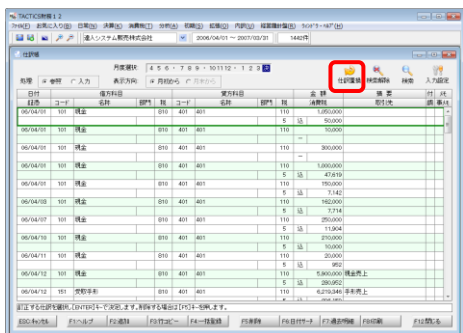


②【日常処理】-【仕訳帳】を開き、右上の「検索」ボタンをクリックします。



③検索条件の設定画面が表示されます。条件を指定し「OK」ボタンをクリックします。

※ここでは貸方消費税区分で「110」という原則課税用の課税売上コードを指定しています。



④仕訳帳画面に戻り、条件に該当する仕訳が表示されます。右上の「仕訳置換」ボタンをクリックします。

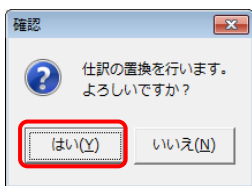


⑤仕訳の置換画面が表示されます。

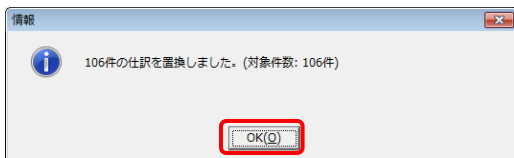


⑥置き換えたい項目にチェックを付け、置換後の仕訳欄で正しい情報を入力します。

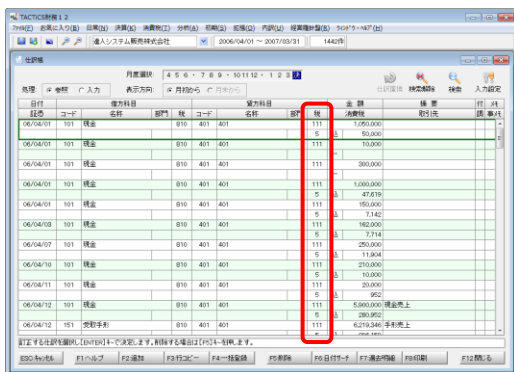
※ここでは「貸方科目」の「消費税コード」にチェックを付け、置換後の仕訳欄で「111」と指定しています。



⑦「F12:仕訳置換」ボタンをクリックします。確認画面が表示されますので「はい」をクリックします。



⑧置換結果情報が表示されます。「OK」をクリックします。



⑨仕訳帳画面に戻ります。指定した情報に置き換えられています。

その他の仕訳置換の例として以下のようなケースがあります。いずれも検索条件の指定と、仕訳の置換画面での指定によって対応が可能です。

課税対象外から課税対象の消費税コードへ訂正する場合

課税取引なのに誤って消費税コード「120(免税取引)」を使ってしまった仕訳を「110」へ訂正する。

検索条件での指定

科目と消費税区分の指定をして検索する。

※状況に応じて指定内容は変更してください。

仕訳の置換画面での指定

F2～F4 のファンクションキーで指定します。

※税額が計算されない消費税コードから計算される消費税コードに置き換えたい場合には、税入力区分の指定が必ず必要になります。

税抜仕訳を税込仕訳に一括で訂正する場合

税込金額で入力したのに、入力方法が「税抜入力」だった場合に、「税込入力」へ訂正する。

検索条件での指定

仕訳の置換画面での指定

ファンクションキーF2で指定します。

Q 決算確定前に翌期の入力を進めることはできますか？

A 【決算処理】－【翌年度更新】を行うことで翌期の入力を進めることができます。仮残高で翌期へ繰り越すので、その後前期データに期末整理仕訳等の入力をすることによって生じる残高の相違については、決算確定後に【決算処理】－【繰越残高調整】を行って調整します。

翌年度へ更新するデータ	
データ区分	法人
会社名	達人システム販売株式会社
会計年度	18期
会計期間	2013/04/01 ~ 2013/03/31
データベース	VDATA#0002
消費税処理方法	税抜き

データの更新前に今年度データのバックアップを取る事を強く推奨します。
【実行】ボタンを押すと翌年度への更新を開始します。

データの更新前に今年度データのバックアップを取る事を強く推奨します。
【実行】ボタンを押すと翌年度への更新を開始します。

データの更新前に今年度データのバックアップを取る事を強く推奨します。
【実行】ボタンを押すと翌年度への更新を開始します。

①決算確定前に【決算処理】－【翌年度更新】メニューから、翌期繰越処理を実行します。

※「更新の前に今年度データのバックアップを行う」欄では、「参照」ボタンをクリックして実行前のデータをコピーしてください。

※「明細を繰り越します」欄にチェックを付けると、翌年度更新後の事業年度データにおいて、過年度の仕訳明細が確認できるようになりますので、チェックを付けて実行することを推奨します。

前年度データを取り込む当年度データ(処理中のデータ)	
データ区分	法人
会社名	達人システム販売株式会社
会計年度	18期
会計期間	2013/04/01 ~ 2014/03/31
データベース	VDATA#0002
消費税処理方法	税抜き

前年度データを取り込む当年度データ(処理中のデータ)

前年度データを取り込む当年度データ(処理中のデータ)

前年度データを取り込む当年度データ(処理中のデータ)

②決算が終わったら、【決算処理】－【繰越残高調整】から、前期末残高と当期首残高の調整を行います。このメニューは新しい事業年度のデータで実行してください。

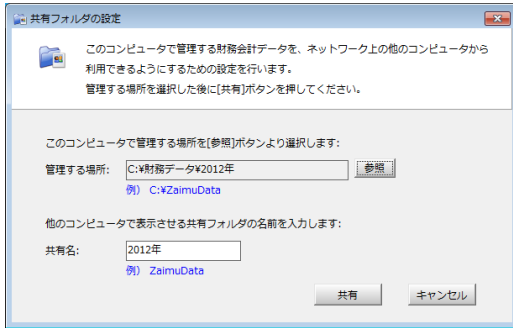
※「前年度データ」欄には、現在選択中のデータ(当年度データ)の会計年度〇期よりも、1つ少ない事業年度のデータが表示されます。また、「会社名が一致するデータを表示する」にチェックを付けると、更に同じ会社名のデータだけに抽出されますので指定しやすくなります。



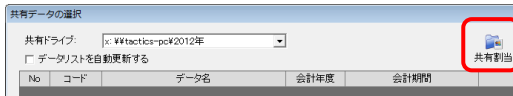
データ共有方式で使っています。共有フォルダを「2012 年」「2013 年」という名前で年度別に作りデータを管理していますが、2012 年データの翌年度更新をすると、2012 年フォルダの中身が 2013 年データになってしまい、後で調整が必要になります。何か良い管理方法はないでしょうか？



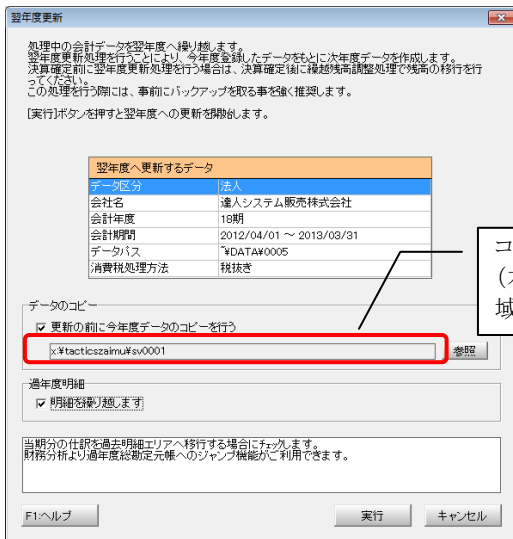
進行事業年度を管理するフォルダ名を「進行年度」や「最新年度」というようにし、年度が変わる時に 2012 年などの名前で新しい共有フォルダを作成し、翌年度更新時のコピー先に指定すると良いでしょう。



①翌年度更新前に、前年度管理用の共有フォルダを作成します。



②共有データ選択画面で、「共有割当」ボタンを押し新たにネットワークドライブの割り当てを行います。

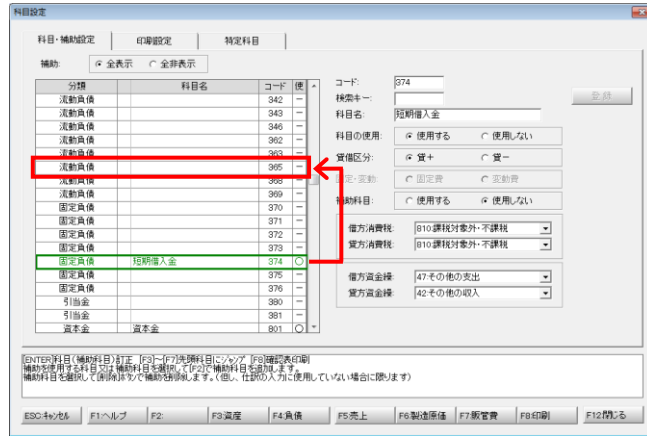


③フォルダの準備が完了したら、翌年度更新を実行します。「更新の前に今年度データのバックアップを行う」の「参照」ボタンを押し、前年度管理用の共有フォルダをコピー先に指定し実行します。

コピー先の指定に新たに作成した共有フォルダ (本例では 2012 年という名前のフォルダ) の領域を指定します。



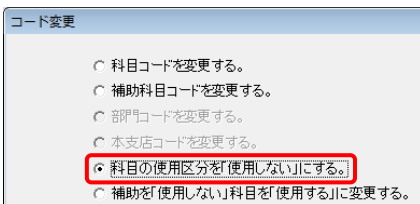
流動負債へ設定すべき勘定科目を誤って固定負債へ設定し入力も進めてしまいました。科目コードを変えずに分類を移動することはできますか？



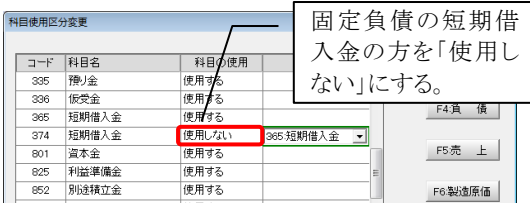
【初期設定】-【コード変更】の機能を使うと移動させることができます。



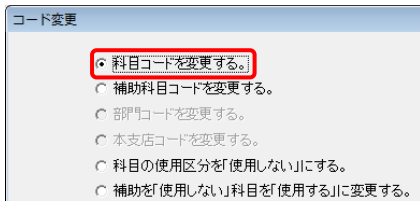
① 移行したい場所(本例では流動負債)の勘定科目が登録されていない場合は、【初期設定】-【科目設定】で科目名を設定し、科目の使用を「使用する」で登録しておきます。



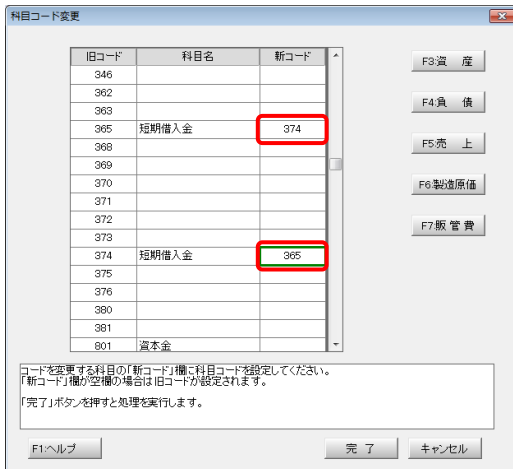
② 【初期設定】-【コード変更】を開きます。「科目の使用区分を「使用しない」にする」を選択し「次へ」をクリックします。



③ 誤って設定している科目を探し、科目の使用を「使用しない」に変更します。置換科目リストが表示されますので、正しい分類の科目を指定し「完了」をクリックします。



④処理が完了するとメニュー画面に戻ります。再度【初期設定】-【コード変更】を開きます。「科目コードを変更する」を選択し「次へ」をクリックします。



⑤科目コード変更画面が表示されます。正しい分類の科目コードを希望するコードへ、間違えて設定したコードを新しいコードに設定し「完了」をクリックします。

※この例では流動負債と固定負債のコードを入れ替えています。

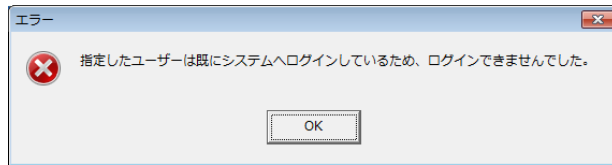


⑥メニュー画面に戻れば変更完了です。

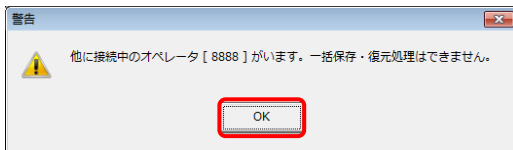
※流動負債に 374:短期借入金が登録され、入力済みの仕訳も引き継がれます。固定負債の科目は「使用しない」状態ですが、科目名称はそのまま残っています。



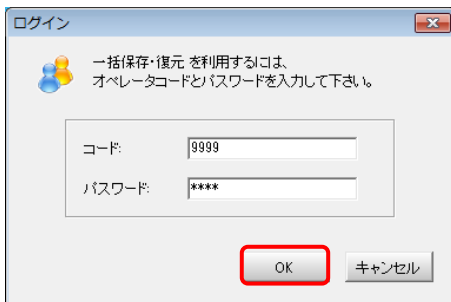
クライアントサーバー方式でデータを処理していたクライアント機が壊れて再起動もできなくなりました。同じオペレータコードを他のクライアント機で使用しようとするとエラーになってしまいますが、ログインできるようにするにはどうすればいいですか？



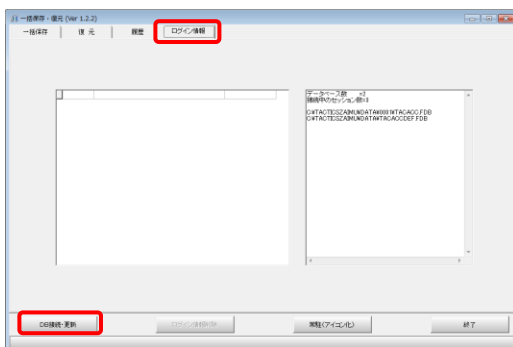
サーバー一括保存・復元ツールを使って、サーバー機に残っているログイン情報を削除することができます。



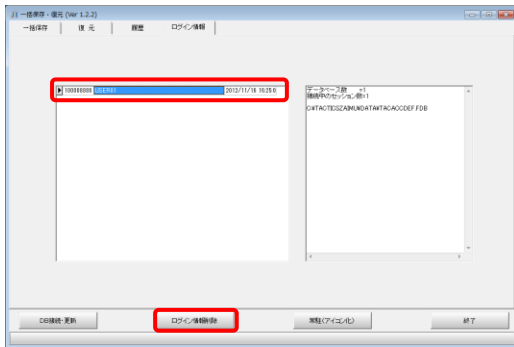
①サーバー機の[スタート]—[すべてのプログラム]—[TACTiCS 財務]—[サーバー一括保存・復元]を起動します。警告メッセージが表示されるので「OK」を押して進みます。



②ログイン画面が表示されます。コードとパスワードを入力し「OK」を押します。

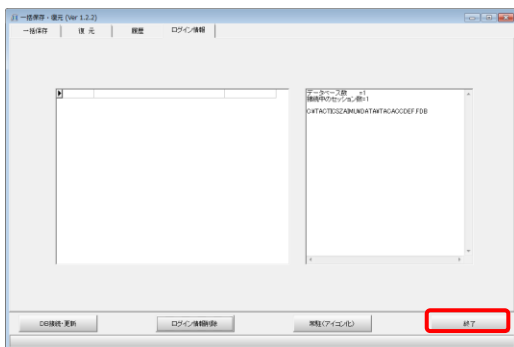


③一括保存・復元ツール画面が表示されます。ログイン情報タブをクリックし、左下の「DB接続・更新」ボタンをクリックします。



- ④異常終了等によりサーバー側に残っているログイン情報が表示されます。クリアしたいログイン情報を選択し、「ログイン情報削除」ボタンをクリックします。

※最初の項目(数字9桁)の下4桁はTACTiCS財務のオペレータコードです。また、コンピュータ名も表示されますので複数表示される場合はそれらの情報から判別してください。



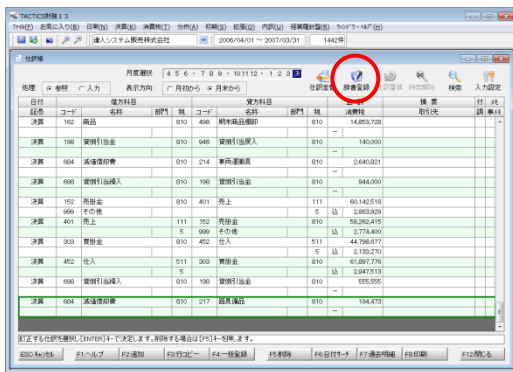
- ⑤一覧からログイン情報が削除されます。「終了」ボタンを押してツールを終了します。これで使用できるようになります。

⑩ TACTiCS 財務 13 について

TACTiCS 財務は年度版システムです。毎年 1 月に新しい年度のバージョンアップが行われます。ここでは 2013 年 1 月にリリースされた TACTiCS 財務 13 (Ver5.0.0) の主な機能強化箇所をご説明します。

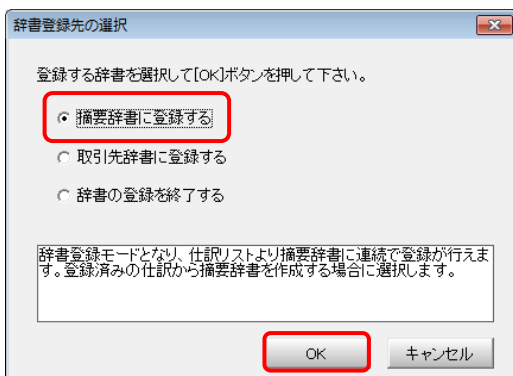
1. 摘要・取引先辞書への登録機能の強化

TACTiCS 財務 13 では、入力済みの仕訳から簡単に摘要・取引先辞書へ追加登録することができるようになります。TACTiCS 達人Ⅲからコンバートされた仕訳データから辞書を整備しやすくなります。



①【日常処理】-【仕訳帳】を開き、右上の「辞書登録」ボタンをクリックする。

※「辞書登録」は仕訳帳以外のメニューには用意されていません。



②「辞書登録先の選択」画面が表示されます。「摘要辞書に登録する」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

仕訳	科目	金額	仕訳	金額
決算	162 商品	810 466	期末日商品引当	810 14,853,733
決算	190 買掛引当金	810 646	買掛引当金戻入	810 - 140,000
決算	404 減価償却費	810 214	減価償却費	810 - 2,641,021
決算	600 買掛引当金戻入	810 190	買掛引当金	810 - 944,000
決算	192 売掛金	810 401	売上	111 60,142,518
決算	401 売上	5 111 192	売掛金	810 56,262,415
決算	303 買掛金	5 669	その他債	511 込 2,774,490
決算	402 仕入	810 303	買掛金	5 込 2,125,270
決算	600 買掛引当金戻入	810 190	買掛引当金	810 込 2,847,513
決算	604 減価償却費	810 217	器具備品	810 - 194,479

③ 摘要辞書登録モード画面に切り替わります。

06/10/25	022	経手手当	810 385	繰り金	810 -	495,562	社会保険料控
06/10/25	402	仕入	511 303	買掛金	810 -	105,000	
06/10/25	672	水増し増費	5 131	普通増価	810 込	5,000	
06/10/28	101	現金	810 385	繰入金	810 込	476	
06/10/28	131	普通増価	810 101	現金	810 3,000,000	繰入金	

④ 登録したい仕訳を探し、[Enter]またはダブルクリックします。

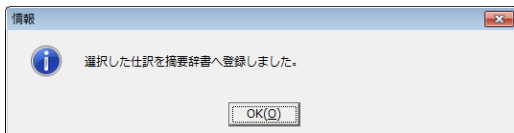
※複数仕訳は選択できません。

科目	金額	仕訳
001	平日現金売上	
002	平日手当売上	
003	平日現金上	
004	手当売上高上	
005	売上代金繰引	

⑤ 摘要辞書画面が表示されます。

科目	金額	仕訳
001	平日現金売上	
002	平日手当売上	
003	平日現金上	
004	手当売上高上	
005	売上代金繰引	

⑥ 登録したい分類を選び、[Enter]またはダブルクリックします。



⑦ 登録完了メッセージが表示されます。

⑧摘要辞書を確認すると、次のように登録されます。

※「コード」「入力時に編集する」などは必要に応じて設定していただきます。

※前期・前々期の仕訳帳からも同じ流れで登録することができます。

摘要辞書登録

分類: 座引簿し

コード:

名称:

旧税率を使用する

入力時に編集する

カーソル位置: 名称の先頭 名称の末尾 全選択

仕訳:

借方科目:	672: 水道光熱費	貸方科目:	131: 普通預金
借方補助:	<input type="text"/>	貸方補助:	001: 東日本銀行
借方部門:	<input type="text"/>	貸方部門:	<input type="text"/>
借方消費税:	511: 課税売上対応課税仕入	貸方消費税:	810: 課税対象外・不課税

半角5桁以内でコードを設定します。
摘要の並び順や摘要の呼び出しの際に使用します。
空白のままでも問題はありません。

OK キャンセル

2. 仕訳入力時に諸口残高チェック

今までは仕訳入力画面を閉じる時に諸口勘定の残高をチェックしていましたが、TACTICS 財務 13 から仕訳入力時にチェックされ、残高がある場合は画面右下に表示されるようになります。残高がなくなれば非表示になります。

貸方科目			金額		摘要
名称	部門	税	消費税		取引先
		910		0	
		込		0	

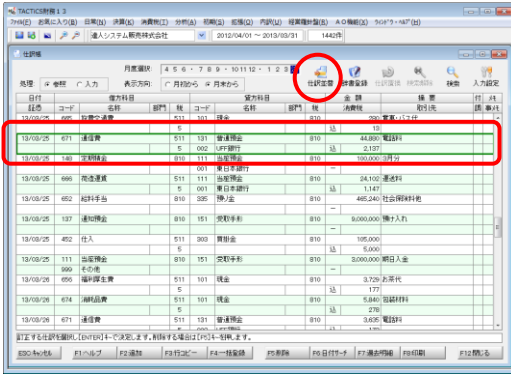
す。[ENTER]キーで次の項目に進みます。[F8] 入力方法の切替。

諸口残高: 100,000円

F4:一括入力 F5:訂正 F6:前行複写 F7:過去明細 F8:仕訳優先 F12:閉じる

3. 仕訳の並べ替え機能

同一日付内の仕訳の表示位置を調整できるようになります。入力順によって数字の流れがおかしい場合や、諸口仕訳の表示行が離れてしまう場合などに調整することができます。



①【日常処理】-【仕訳帳】を開き、移動したい仕訳を選択後、右上の「仕訳並替」ボタンをクリックする。

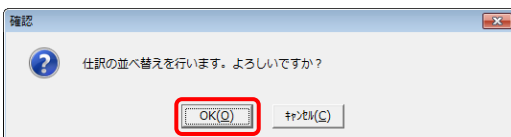
※「仕訳並替」は仕訳帳以外のメニューには用意されていません。



②「同日付内の仕訳の並べ替え」画面が表示されます。右下の「上へ」「下へ」ボタンを使って表示位置を調整します。



③並べ替えが終わったら「F12:閉じる」ボタンをクリックします。



④確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

4. 会計データにパスワードを設定


会計データにパスワードを設定できるようになります。これによりデータ選択時にパスワードを求められるようになり、他の人にデータを見せないようにすることができます。

名称・期間	集計項目名	製造原価	消費税	部門
データ区分:	法人			
コード:	0001			
パスワード:	****	<input type="checkbox"/> 伏字にせず入力		
会社名:	達人システム販売株式会社			
フリガナ:	タツジシステムハンバイカシガイシャ			
郵便番号:	— —			

設定後、再度データ選択をすると次のようなパスワード入力画面が表示されます。

パスワードの確認
パスワードを入力して下さい。
<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 伏字にせず入力
パスワード(英数字8文字以内)を入力し、[OK]ボタンを押して下さい。3回続けて失敗すると「データ選択」画面に戻ります。
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

「キャンセル」ボタンを押す、または3回連続間違えると次のメッセージが表示されデータ選択画面に戻ります。

情報
 このデータに設定されている「パスワード」と一致しませんでした。 他のデータを選択して下さい。
<input type="button" value="OK(Q)"/>

5. クライアントサーバー方式のデータ管理ドライブの切り替え機能

クライアントサーバー方式の場合、一つのドライブに最大 2,000 件までデータを管理できます。それ以上になる場合は管理ドライブを切り替える必要がありますが、従来は簡単に切り替えることができませんでした。TACTiCS 財務 13 では、クライアントサーバー方式のデータ選択画面でデータの場所を簡単に切り替えられるようになり、それぞれの場所で最大 2,000 件のデータを管理できるようになります。

No▲	コード	データ名	会計年度	会計期間
1	0002	連入システム販売株式会社	18 期	2006/04/01 ~ 2007/03/31
2				~
3				~
4				~
5				~

①TACTiCS 財務 13 では、データ選択画面の左上にデータの場所リストと「設定」ボタンが追加されます。「設定」ボタンをクリックします。

No	名称	フォルダパス
1	連行年度	C:\TACTICSZAM\NDATA
2		C:\TACTICSZAM\NDATA01
3		C:\TACTICSZAM\NDATA02
4		C:\TACTICSZAM\NDATA03
5		C:\TACTICSZAM\NDATA04
6		C:\TACTICSZAM\NDATA05
7		C:\TACTICSZAM\NDATA06
8		C:\TACTICSZAM\NDATA07
9		C:\TACTICSZAM\NDATA08
10		C:\TACTICSZAM\NDATA09
11		C:\TACTICSZAM\NDATA10
12		C:\TACTICSZAM\NDATA11
13		C:\TACTICSZAM\NDATA12

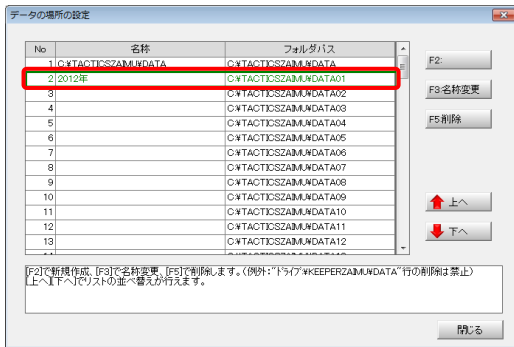
②「データの場所の設定」画面が表示されます。No.1には従来の場所が指定されています。No.2～No.100まで任意の場所に領域を作成することができます。場所を指定し「F2:新規作成」ボタンをクリックします。

新しく作成するデータ管理フォルダの名称を入力して下さい。

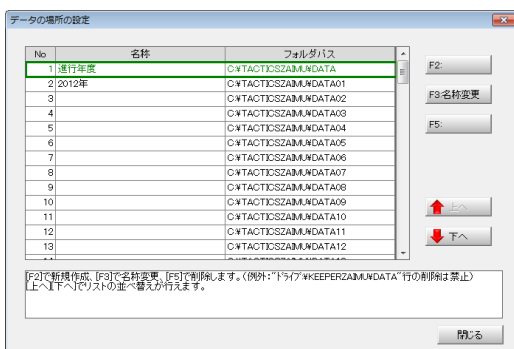
新しく作成するデータ管理フォルダの名称を入力します。

OK キャンセル

③新規作成画面が表示されます。データ管理フォルダの名称を全角 10 文字以内で入力し「OK」ボタンをクリックします。

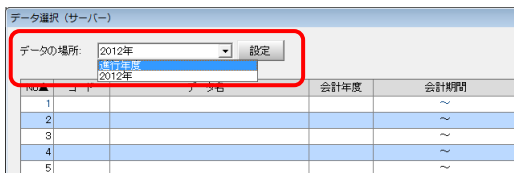


④指定した場所にデータ管理フォルダが作成されリストに表示されます。



⑤No.1の既存データフォルダの名称を変更する場合は「F3:名称変更」ボタンをクリックし変更します。

※ここではNo.1を「進行年度」という名称に変更しています。



⑥データ選択画面のデータの場所では、指定した名称がリスト表示されるようになり、切り替えできるようになります。

TACTiCS 財務 13 バージョンアップの注意事項

1. 全ての USB キーでバージョンアップを行う

今までのバージョンアップでは、複数本の USB キーがあっても 1 本だけ最新版をダウンロードし、各パソコンでバージョンアップをする事が可能でしたが、TACTiCS 財務 13 へのバージョンアップは、必ずご利用の USB キー1 本ずつに対して行う必要があります。これは、年度が変わる場合などのメジャーバージョンアップではバージョンアップ処理中に、USB キー内に新しい年度版のライセンス情報を作成しているからです。

2. プログラムは共存される

TACTiCS 財務 13 をインストールしても、TACTiCS 財務 12 がなくなる訳ではありません。パソコンの中には両方存在している形になり、デスクトップ上のアイコンも 2 つ作成されます。



TACTiCS 財務 12 で起動すればそのバージョンのプログラムが、TACTiCS 財務 13 で起動すれば Ver5.0.0 のプログラムが起動されるという仕組みです。

達人 Cube では以下のように過年度プログラムとして残ります。



3. TACTiCS 財務 12 のデータがそのまま表示される

プログラムはそれぞれの年度版システムが両方インストールされている状態ですが、どちらで起動しても参照しに行くデータは同じ場所にあります。TACTiCS 財務 13 になっても表示されるデータリストは従来と同じものになります。

[データの場所]・・・ローカルフォルダの場合

・Windows8/7/Vista

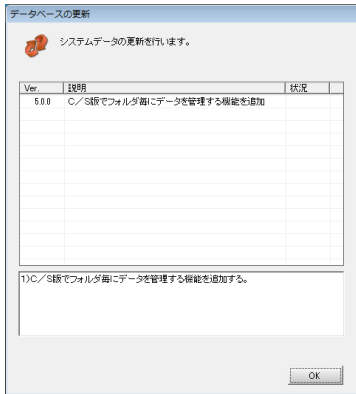
C:\ProgramData\TACTiCSZAI\ZAIMU\data

・WindowsXP

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\TACTiCSZAI\ZAIMU\data

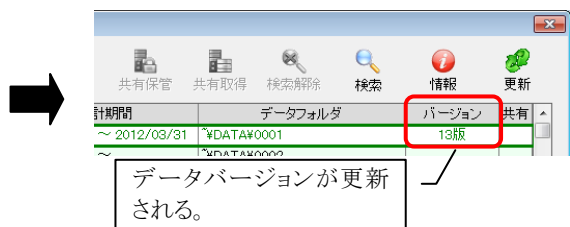
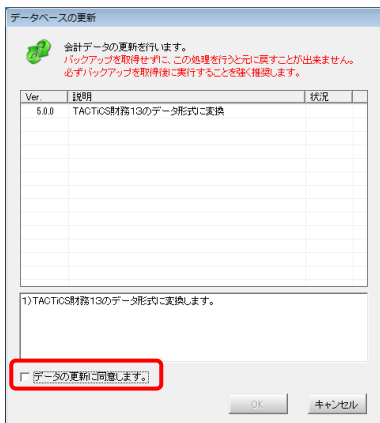
4. TACTiCS 財務 13 初回起動時の動き

バージョンアップ後、初回ログイン時に次の「データベースの更新」画面が表示されます。「OK」を押して更新すれば次回からは出なくなります。



5. バージョンアップ後の初回データ選択時に「データベースの更新」が必要

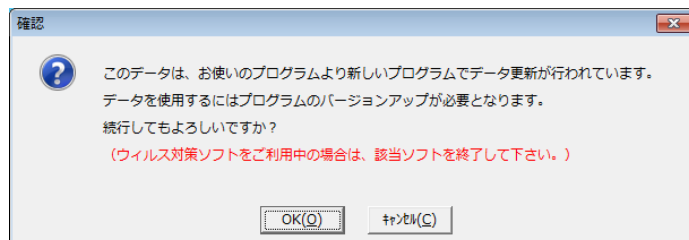
TACTiCS 財務 13 で既存の会計データを選択すると、次の「データベースの更新」画面が表示されます。「データの更新に同意します」にチェックを付け「OK」ボタンを押して更新すれば、次回からは表示されなくなります。また、この更新作業により、データ選択画面のデータバージョンは「13 版」の表記になります。



「データベースの更新」画面は、TACTiCS 財務 13 にバージョンアップをしてから TACTiCS 達人III データのコンバートを行った場合も、初回選択時に表示されます。

6. データバージョンより古いバージョンのプログラムでは選択できない

データバージョンが 13 版に更新された後に、TACTiCS 財務 12 を起動しそのデータを選択しようとすると、次の確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックすると、TACTiCS 財務 12 で起動しバージョンアップ画面に進みます。



新しい年度版システムへのアップなど、メジャーバージョンアップの場合には、新しいバージョンに更新された会計データは、それよりも古いバージョンのプログラムでは選択できなくなる仕組みになっています。

7. 「データベースの更新」と TACTiCS 財務の年度の考え方

では「データベースの更新」をすべきかどうかの判断基準ですが、TACTiCS 財務〇〇の年度の考え方が影響してきます。法人の場合は法改正の内容によって更新すべきかどうかが変わってきますが、個人の場合は **TACTiCS 財務の後ろの数字は、申告をする年度**と覚えて下さい。つまり TACTiCS 財務 13 は 2013 年申告分の 2012 年データを扱うバージョンと考えて下さい。

データ区分/事業年度別一覧表

	対応システム	TACTiCS 財務 13 での「データベースの更新」
法人データ	TACTiCS 財務 13	する
個人データ (事業年度 2012 年～)	TACTiCS 財務 13	する
個人データ (事業年度 2011 年まで)	TACTiCS 財務 12	しない

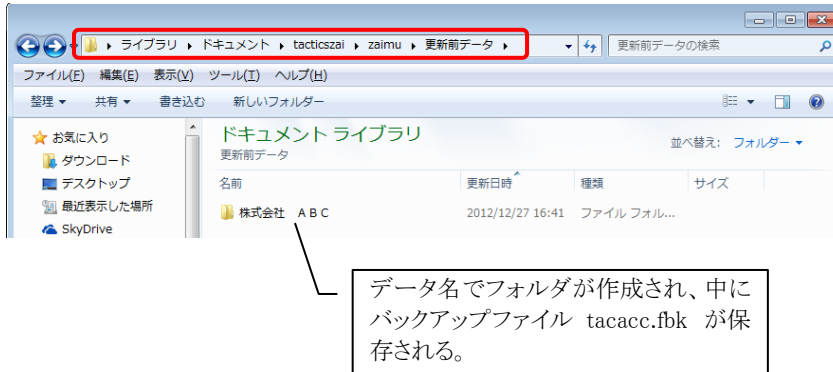
※現時点の TACTiCS 財務 13 における情報です。今後の法改正によって対応の仕方が変わりますので、その都度情報提供を行います。

※個人データ(事業年度 2011 年まで)のデータを TACTiCS 財務 13 へ更新すると、青色申告決算書が平成 24 年分の様式で出力されるようになります。

※個人データ(事業年度 2011 年まで)のデータを扱う必要がある場合は、TACTiCS 財務 12 をアンインストールしないで下さい。

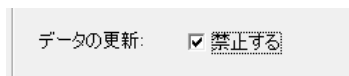
8. 間違えて「データベースの更新」を実行してしまった場合

バージョンアップ後の「データベースの更新」を誤って実行してしまった場合は、ドキュメント(マイドキュメント)の中に更新前データが自動的にバックアップされますので、データ選択画面の【F7:復元】で復旧することが可能です。

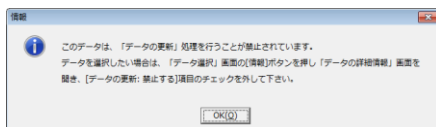


9. 新年度版プログラムで誤ってデータ選択をさせないようにする設定

誤って新年度版プログラムでデータ選択をし「データベースの更新」をさせないようにする機能が用意されています。現時点では、バージョンアップによって自動的に設定が有効になる訳ではありませんので、1 データずつ設定する必要があります。



No▲	コード	データ名
1	0001	株式会社 ABC



①データ選択画面の「情報」ボタンを押します。

②[データの詳細情報]画面左側に項目「データの更新」があるので、「禁止する」にチェックを付けて「OK」ボタンを押します。

③更新が禁止されたデータ行はグレー表示になり、選択できないようになります。

※起動中のプログラムバージョンよりデータバージョンが低いデータがグレー表示になります。
※選択するとメッセージが表示され先へ進めなくなります。

Memo